

令和5年12月19日

山口県教育委員会会議案

山口県教育委員会

議案

番号	件名	主管課	
1	「県立高校再編整備計画 前期実施計画」の改定について	高校教育課	p2

報告事項

番号	件名	主管課	
1	公立大学法人山口県立大学からの附属高等学校設置に関する要望への対応について	教育政策課 高校教育課	p20
2	令和6年度(2024年度)山口県立学校職員(実習助手・寄宿舎指導員)採用候補者選考試験の選考結果について	教職員課	p21
3	令和5年度山口県学力定着状況確認問題の結果について	義務教育課	p23
4	令和6年3月新規高等学校等卒業予定者の就職内定状況等(令和5年10月末現在)について	高校教育課	p78

協議事項

番号	件名	主管課	
1	教職員人材育成基本方針の改定について	教職員課	p81 別冊資料
2	令和7年度山口県公立高等学校の学科設置について	高校教育課	p82

議案第1号

「県立高校再編整備計画 前期実施計画」の改定について

「県立高校再編整備計画 前期実施計画」を別添のとおり改定する。

令和5年(2023年)12月19日

山口県教育委員会

県立高校再編整備計画 前期実施計画

令和4年度～令和8年度
(2022年度～2026年度)

一部改定 (案)

令和4年(2022年)12月
(令和__年(____年) __月一部改定)

山口県教育委員会

1 はじめに

県教育委員会では、令和4年（2022年）3月に、中・長期的視点に立って本県高校教育の質の確保・向上を図るため、特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備等を主な内容とする「第3期県立高校将来構想」を策定したところです。

本構想を具体的に推進するに当たっては、年次的・計画的に進める必要があることから、特に、学校・学科の再編整備については、全県的な視点に立って、5年単位の実施計画（前期実施計画・後期実施計画）を策定することとしています。

このたび、中学校卒業見込者数の推移や中学生の志願状況、高校卒業後の進路動向、高校生の通学実態などを総合的に勘案するとともに、生徒のニーズや地域バランス等を踏まえ検討した内容を前期実施計画として取りまとめました。

R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度
第3期県立高校将来構想									
県立高校再編整備計画 前期実施計画(R4～8年度)									
					県立高校再編整備計画 後期実施計画(R9～13年度)				

2 学校・学科の再編整備

(1) 望ましい学校規模

1 学年4～8学級（1学級当たりの生徒数は原則40人）

(2) 再編整備の進め方

【再編整備の基本方針】

- 1 学年3学級以下の学校の再編統合を基本として、他の学校との再編統合により、望ましい学校規模を確保
- 再編統合が困難な場合には募集停止について検討し、その際、学校の近接性や学習内容等を考慮しながら、他の学校に教育機能を継承することを検討
- 全日制課程を置く分校については、地元中学校卒業者の入学状況や、今後の入学見込者数を勘案した上で、募集停止を検討

【再編整備の方向性】

- 教科等横断的な学びや他者と協働した探究活動の充実など、学科間連携による教育活動を推進する学校を配置
- 大学等への進学に重点を置く取組や高度な専門性をもった産業人材を育成する取組の充実などを推進するための拠点的な役割をもつ学校を、分散型都市構造にある本県の特長も考慮してバランスよく配置

3 実施内容（前期）

（1）再編統合・募集停止

対象校	内 容	実施年度
宇部西高校	○ 宇部西高校の生徒募集を停止し、教育機能等を山口農業高校などに継承	令和6年度 (2024年度)
厚狭高校 田部高校	○ 家庭科教育の充実を図るため、厚狭高校と田部高校を再編統合して、新高校を設置 (校地：厚狭高校北校舎)	令和7年度 (2025年度)
柳井高校 柳井商工高校 熊毛南高校 田布施農工高校 熊毛北高校	○ 教育の質の確保・向上を図るため、対象校5校を再編統合して、新高校を2校設置 ・ 新高校については、普通科及び商業に関する学科を設置した高校と、農業、工業及び家庭に関する学科を設置した高校とする。 ・ 地域バランスや交通の利便性等を考慮し、校地は現在の柳井高校と田布施農工高校とする。	令和8年度 (2026年度)

※ 萩高校奈古分校については、今後の地元中学校卒業者の入学状況等を勘案した上で、生徒募集の停止を検討

（2）特進探究科（仮称）の設置

対象校	内 容	実施年度
岩国高校 徳山高校 山口高校	○ 進学に重点を置く取組を推進するため、特進探究科（仮称）を設置	令和7年度 (2025年度)

※ 宇部高校、下関西高校、萩高校の「探究科」についても、教育内容を踏まえて名称の変更を検討

（3）中高一貫教育校（併設型）の設置

対象校	内 容	実施年度
岩国高校 下関西高校	○ 進学指導に重点を置いた中高一貫教育を行うため、併設型中学校を設置	令和8年度 (2026年度)

※ 高森みどり中学校については、岩国高校への併設型中学校の設置に合わせて、生徒募集を停止（令和8年度（2026年度））

4 その他

- （1）各年度の実施分については、中学生に早期に情報提供する必要があることから、原則として当該年度の募集定員の発表前に具体的な内容を公表します。
- （2）再編整備に伴い、へき地や過疎地域等から遠距離通学することとなる生徒に対応するため、公共交通事業者に対し、利便性の向上等が図られるよう働きかけを行うとともに、経済的負担の軽減について検討します。

■ これまでの再編整備の状況

年 度	対 象 校		再編整備の内容	新 高 校	
	学校名	課 程		学校名	課 程
平成18年度 (2006年度)	柳井商業高校	全日制	再編統合	柳井商工高校	全日制
	柳井工業高校	全日制			
	徳山商業高校	全日制	再編統合	徳山商工高校	全日制
	徳山工業高校	全日制			
	萩商業高校	全日制	再編統合	萩商工高校	全日制
	萩工業高校	全日制			
平成19年度 (2007年度)	安下庄高校	全日制	再編統合	周防大島高校	安下庄校舎 全日制
	久賀高校	全日制			久賀校舎 全日制
	大嶺高校	全日制	再編統合	青嶺高校	全日制
	美祢工業高校	全日制			
平成20年度 (2008年度)	坂上高校	全日制	分校化	岩国高校坂上分校	全日制
	広瀬高校	全日制	分校化	岩国高校広瀬分校	全日制
	鹿野高校	全日制	分校化	徳山高校鹿野分校	全日制
	徳佐高校	全日制	分校化	山口高校徳佐分校	全日制
	熊毛南高校上関分校	全日制	募集停止	/	
	田布施農業高校大島分校	全日制	募集停止		
	徳佐高校高俣分校	全日制	募集停止		
	奈古高校須佐分校	全日制	募集停止		
平成22年度 (2010年度)	田布施農業高校	全日制	再編統合	田布施農工高校	全日制
	田布施工業高校	全日制			
平成23年度 (2011年度)	大津高校	全日制	再編統合	大津緑洋高校	大津校舎 全日制
	日置農業高校	全日制			日置校舎 全日制
	水産高校	全日制			水産校舎 全日制
平成24年度 (2012年度)	防府商業高校	全日制・定時制	工業科の設置	防府商工高校	全日制・定時制
	徳山北高校	全日制	分校化	徳山高校徳山北分校	全日制
	佐波高校	全日制	分校化	防府高校佐波分校	全日制
平成25年度 (2013年度)	美祢高校	全日制	再編統合	美祢青嶺高校	全日制
	青嶺高校	全日制			
平成28年度 (2016年度)	下関中央工業高校	全日制	再編統合	下関工科高校	全日制・定時制
	下関工業高校	全日制・定時制			
	奈古高校	全日制	分校化	萩高校奈古分校	全日制
平成30年度 (2018年度)	響高校	全日制	再編統合	下関北高校	全日制
	豊北高校	全日制			
平成31年度 (2019年度)	/		新 設	下関双葉高校	定時制
	西市高校	全日制	分校化	山口農業高校西市分校	全日制
	下関西高校	定時制	募集停止	/	
	下関工科高校	定時制	募集停止		
	(市立)下関商業高校	定時制	募集停止		
令和2年度 (2020年度)	光高校	全日制・定時制	再編統合	光高校	全日制・定時制
	光丘高校	全日制			
令和3年度 (2021年度)	徳山高校徳山北分校	全日制	募集停止	/	
	徳山高校鹿野分校	全日制	募集停止		
令和4年度 (2022年度)	/		新 設	山口松風館高校	定時制・通信制
	光高校	定時制	募集停止	/	
	防府商工高校	定時制	募集停止		
	山口高校	定時制・通信制	募集停止		
	宇部工業高校	定時制	募集停止		
	小野田高校	定時制	募集停止		
厚狭高校	定時制	募集停止			
令和5年度 (2023年度)	岩国高校広瀬分校	全日制	募集停止	/	
	防府高校佐波分校	全日制	募集停止		
	山口高校徳佐分校	全日制	募集停止		

令和5年(2023年)12月現在

「県立高校再編整備計画 前期実施計画 一部改定（素案）」 に対するパブリック・コメントの概要

1 パブリック・コメントの実施状況

(1) 募集期間

令和5年10月10日（火）から令和5年11月9日（木）まで

(2) 公表方法等

県のホームページに掲載するとともに、県庁情報公開センター、各地方県民相談室、山口地方県民相談室防府市駐在、各県立高等学校及び県立中等教育学校で自由に閲覧できるようにしました。

(3) 意見の提出方法

郵送、FAX、電子メールにより意見を募集しました。

2 意見の件数

29名、160件

(内訳)

項目	件数
一部改定（素案）に係る意見	130
パブリック・コメントの実施方法等に関するもの	7
その他	23
合計	160

3 提出された意見及びこれに対する考え方

(次ページ以降に掲載)

「県立高校再編整備計画 前期実施計画」の改定に係る

パブリック・コメントの概要

■ 「県立高校再編整備計画 前期実施計画 一部改定（素案）」に係る意見（130件）

意見の内容	意見に対する県の考え方
○ 今後も複数年にわたり募集定員を充足していない高校については、将来の増加等の可能性が認められない限り、「県立高校再編整備計画 前期実施計画」に沿って年次毎に再編統合が必要と考える。	○ 中学校卒業者数の減少が見込まれる中、選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開、生徒が他者と協働しながら切磋琢磨する環境づくりなど、高校教育の質の確保・向上を図るためには、一定の学校規模の確保をめざした再編整備を進めることが必要であると考えています。
○ 現実的に考えて、子どもの人数に対して、学校の維持管理、人件費等運営していくための金銭的なことだけでも限界がある。その中で、いかにしてより質の高い教育を提供していくかが問われているのだと改めて感じている。	○ こうした再編整備の実施に当たっては、高校教育の質の確保・向上を図る観点や地理的条件、交通事情による生徒の教育への影響等を、総合的に勘案しながら検討することとしています。
○ 少子・高齢化が進み、学校の再編は避けて通れないものであることは、平成のスタートとともに統計等で示されてきたところである。	
○ 学校規模として、ある程度の適切な人数が確保できるように再編することは理解できる。	
○ 県は減少している学校を単に統廃合するのではなく、生徒を増加させる事を考え、実行しているのか。例えば近隣の学校の定員を下げ、応募の少ない学校にまわす。また、特色ある学科を作る・特化する等の取り組みをしてほしい。	
○ これまで実施した高校再編整備後の地域における、生徒の学校選択理由、居住地域、平均登校時間や手段、進路先、子どものいる世帯の人口流出など、幅広い量的・質的な追跡調査などをフィードバックすることも必要である。	
○ 各高校を地域の実情に応じて再編統合し、一定規模（4学級以上）にすることでより適正な教員配置が可能となり、生徒には広く平等に教育の機会を与えることができ、教育内容や質の向上につながると考える。	○ 全日制課程の望ましい学校規模については、「第3期県立高校将来構想」を策定する際に、生徒・保護者アンケートの結果や、学校規模別の開設科目数・配置教員数・部活動数等を踏まえて検討し、1学級当たりの生徒数を原則40人として、1学年4～8学級を望ましい学校規模としました。
○ 1つの学校に多くの生徒を集めれば、教職員の削減、勝てる部活動に繋がるメリットはある。	○ 望ましい学校規模を確保することにより、選択幅の広い教育の推進や活力ある教育活動の展開などの教育効果が期待できると考えています。
○ それぞれの高校が小規模になると、子どもたちにとって多様な人々と触れる機会が減り、十分な人間関係づくりをする機会がなくなり社会に出て行くこととなる。そうしたことを考えると、1学年4学級以上の学校規模を確保していただきたい。	○ また、学校規模の拡大により、1校当たりの教員配置数が多くなることから、相互の授業研究などによる教員の資質・能力の向上や授業の充実、働き方改革の観点における効果も期待できます。
○ 望ましい学校規模1学年4～8学級（1学級当たりの生徒数は原則40人）について、法的な裏付けや学識経験者の調査研究、教育現場でのアンケート、財政的な問題など様々な観点があるのだろうが、適正規模はその学校が置かれている環境や教育内容に応じて、もっと柔軟でいいのではないか。	
○ 1学年4～8学級（1学級当たりの生徒数は原則40人）を望ましい学校規模とし、再編計画をすすめているが、これに加え、大人数での教育環境を苦手とする生徒への配慮を鑑み、少人数規模の学校の設置を求める。	

意見の内容	意見に対する県の考え方
○ 統合して1クラス4～8クラスの運営がベストと言われているが本当なのか。	
○ 望ましい学校規模として「1学級40人で4～8学級」とあるが、科学的な根拠を示していない。欧米先進国並みに「1学級25人」にすれば、教職員数が増えて開設科目数が増える。県教委の言う「選択幅の大きい」教育も実現できる。	
○ 望ましい学校規模について、今の高校の教育現場の実情にあっているのか、誰もが納得できるエビデンスが必要である。	
○ 何故「1学級40人、1学年4学級以上」に拘るのか、10人学級でも2学級でもよいではないか。特に、実業に関する場合は少人数、小規模でよい。「1学級40人、1学年4学級以上」の意味が解せない。科学的な根拠があるのか。	
○ 望ましい学校規模について、山口県のように中山間地域が広く、児童生徒が散在する地域性も考慮すべきである。	
○ クラス数の増加や、生徒数が多くなると、把握・掌握する幅・範囲が広がる。先生は本当に一人ひとりを見ることが出来るのだろうか。	
○ 「大学進学を重視した取組、高度な専門性をもった人材育成」などを考えるのであれば、1学年当たりの学級数や1学級当たりの生徒数は、この基準より少ないほうがよいと思われる。	
○ 一つの学校に多くの生徒を集めるのではなく、学力レベルが違う学校があってもいいのではないか。	
○ 中学生高校生のアンケートをもとに「子どもたちのニーズの多様化」「教育を取り巻く環境が大きく変化」「中学校卒業生の急激な減少」があるとし、再編整備を進めるとしている。「学びたい教科や科目が選択できる」「大学進学に対応した教育」が大多数を占めるが、今回の改定素案でも「選択幅の広い教育の推進」「活力ある教育活動の展開」「切磋琢磨できる環境」を根拠に1学年4学級(40人)に固執している。これを生徒の希望として進めるのであれば、小規模校や専門高校を希望する生徒の声は反映されないではないか。	
○ 分校や小規模校でこそ学校への意義・魅力も見出し、力を発揮できる生徒もいる。その生徒は切り捨てられる可能性がある。	
○ 小規模校でも立派な生徒会活動・学校行事はできるし、むしろ個々の生徒の活躍の場は増える。	
○ 再編に当たって、県教委は1校の規模を4～8学級を基本としているが、近県の再編計画では小規模校の存続を決めている県もあると聞く。なぜ山口県は小規模校の存続を採用できないのか。	
○ 多人数の高校が向いている生徒もいれば、こじんまりとした雰囲気高校が向いている生徒もいる。すなわち人それぞれである。比較的こじんまりとした高校(分校)があってもいいのではないか。	

意見の内容	意見に対する県の考え方
○ 少ないクラス(2～3クラス)で落ち着いて勉強したいと思う生徒も当然いると思う。	
○ 予算をとって地元高校を小規模校でも残すべきである。	
○ 「県政の最大課題」である人口減少対策のためには地元の学校を残すべきである。	
○ 後期中等教育は本来、希望するすべての子どもに保障されるべきである。無理なく通える範囲に高校があり、どの高校においても普遍かつ共通の教育と専門教育が保障されるべきである。	○ 何よりもまず、将来を担う生徒たちに、より質の高い高校教育を提供するためには、望ましい学校規模の確保をめざした再編整備を進めることが必要であると考えています。
○ 再編計画において、県内各市町に必ず1つ以上の地域密着型の小規模高校を残し、これを限界数ぎりぎりまで維持することを可能とすることを要望する。	こうした再編整備については、中学校卒業見込者数の推移や中学生の志願・入学状況、通学の利便性などを総合的に勘案するとともに、地域における高校の実情や地域バランス、分散型都市構造にある本県の特性も踏まえ、全県的な視点に立って検討することとしています。
○ それぞれの地域に、小規模でも通える学校を置いて、地域に根差した教育を執り行うべきである。	
○ 地理学に依拠した配置のバランスをも深慮すべきである。	
○ 柳井地域は子どもの数に比べ、高校が多いことから、再編整備をすることは避けられない状況であることは理解できる。そうした中、これまでのように2校を1校にする再編統合であれば、おそらく、近い将来に、再び統合をすることになっただろう。しかし、今回の統合案は、5校を再編統合し、新高校を2校設置するという案であり、県教委の覚悟を感じるとともに、子どもたちにとって、魅力ある新高校ができるのではないかと期待している。	○ 全県的な中学校卒業生数の急激な減少が進行する中、柳井地域・周南地域においても、中学校卒業生数は継続的に減少し、学校の小規模化がますます進んでいくと見込まれます。
○ 柳井地域、周南地域の専門学科をもつ高校は、地域の要望があり、設立年度こそ違いますが、およそ100年の歴史を持ち、戦前、戦後を通じ、卒業生の多くは県内定着し、地域の産業や郷土づくりに貢献してきた。地域説明会においても、再編統合が予定されている高校の存続の意見があった。しかし、子どもの出生数や中学校卒業生数の減少傾向からみれば、定数割れの小規模校を残すことにより、教育内容や質の低下等は避けられず、この課題は大人だけの問題ではなく、地域の将来を担う子どもたちに悪影響を及ぼすものと考えられる。山口県教育委員会は、子どもの視点に立ち、教育目標である「未来を拓くたくましい『やまぐちっ子』の育成」に向けて誇りをもって、「県立高校再編整備計画 前期実施計画」を着実に推進してほしい。	そうした中、将来を担う子どもたちに、活力ある教育活動の展開や、切磋琢磨できる環境づくりなど、より質の高い高校教育を提供するためには、一定の学校規模の確保をめざした再編整備を進める必要があるため、再編統合による新高校の設置について検討したところです。
○ 再編整備にあたっては、同窓生や地域の方々の様々な感情もあると思うが、これからの子どもたちのために、10年後、20年後を見据えて何が最善かを考えて進めていただきたい。	普通科及び商業に関する学科を設置した高校については、2つの学科の設置という特色を生かした教育の展開など、特色ある学校づくりに努めます。
○ 地域説明会に参加し、県教委の説明を聞いたが、今後の周南地域及び柳井地域の子ども数の減少を踏まえ、対象校5校を再編統合し、2校の新高校を設置するという県教委の方向性におおむね賛成である。	また、農業、工業及び家庭に関する学科を設置した高校については、各学科の専門性を高める教育活動に加えて、学科の枠を越えた教育を充実するなど、特色ある学校づくりに努めます。

意見の内容	意見に対する県の考え方
○ 柳井地域・周南地域の高校の再編統合については、少子化も進んでいるため、子どもたちに十分な教育環境を準備するためには、致し方ないものと考えている。	
○ 柳井・大島地区の生徒減少については、かつて7クラス規模であった柳井高校の定員減少を見れば対策が急務であることは理解できる。	
○ 熊毛地区においては、中学校卒業見込者が、毎年減少しており、一定規模(4学級以上)の高校にすることで、学校生活において多数、多様な生徒に接することが可能となり、社会性も磨かれ、進学や就職する生徒にとって、地域や企業等から求められる優秀な人材の提供が可能となると考える。	
○ 少子化のため、県東部の5高校再編統合はやむを得ないと考える。	
○ 今回の提案通りに高校再編した場合、1学年4～8学級は実現するかもしれないが、考え方が同じなら10年以降には再度、高校再編が必要になる。再編を繰り返せば周南地区で1～2校になりかねない。今、高校再編をやらなくても生徒が減った時に統合された高校のクラス数と同じ数で再編を実施すればよいと考える。	
○ 安易な統廃合計画を白紙に戻し、将来への学びを育む地域を構築することを提案する。	
○ 「県立高校再編整備計画 前期実施計画一部改定(素案)」の見直しを求める。	
○ 「県立高校再編整備計画 前期実施計画一部改定(素案)」には、内容、改定方法、意見募集方法等々、不備・不適切事項多数と感じているため、一旦、差し戻し再検討をお願いする。	
○ 今、なぜ柳井・熊毛地域だけに限定して急ぐのか。柳井・熊毛地域から相互通学している岩国、周南地域に拡大して再編計画を策定すべきではないか。	
○ 「再編整備計画 一部改定(素案)」は、分校化も検討せずに、小規模校をなくし、教育の機会均等を踏みにじる。	
○ 時間をかけてお互いの納得できる着地点を探してほしい。	
○ 商業と工業が統合され地域待望の柳井商工が復活したというのに、また商業と工業を分割するというのでは、山口県の高校教育に継続性はないのかと感じる。分割は生徒の増加、統合は生徒の減少によるものとはいえ、該当する高校の沿革を踏まえ、単なる生徒の数合わせではなく、地域に受け入れられやすい再編統合となるようにしていただきたい。	
○ 小学生の心を揺さぶるそんな教育をしている熊毛北高等学校を無くしてしまうのは絶対にもったいない。	
○ 昔、柳井高校には普通科と家政科や家庭科があった。このことから、現在の柳井高校を校地とする新高校は、普通科と家庭科の方が、馴染みがあり受け入れられやすいと思う。	

意見の内容	意見に対する県の考え方	
○ 熊毛北高校がなくなると、旧熊毛町の子どもが通いにくくなるとの意見も説明会ではあったが、自分の子どもは、熊毛北高校以外の高校を主体的に選択し、自宅からその高校へ、毎日、1時間以上かけて自転車で通っていた。つまり、旧熊毛町の子どもが熊毛北高校以外の高校を主体的に選ぶ実態が多くあり、熊毛中学校の9割近くの子どもたちにとって、多少の通いにくさは覚悟の上であるということである。したがって、通いにくくなるというのは、反対理由にはならないと考える。	○ 新高校の校地については、高校生の通学状況、通学の利便性、現有施設、高校卒業後の進路動向などを総合的に勘案しながら検討した結果、現在の柳井高校と田布施農工高校とすることとしました。	
○ 熊毛北高校にはライフデザイン科があり、食物・被服分野を学びたい生徒が入学している。今後は、田布施農工高校の方に家庭科ができることで、より交通の便がよくなり、生徒が集まるのではないかと期待している。		
○ 再編整備は、大規模校ありきではない。今、小規模校運営の熊毛北高校が問題となっていれば別であるが、現在はよい方向で学校運営が進んでいると思う。まだまだ進化できると考えている。今一度、熊毛北高校のよいところは伸ばし、悪いところは是正する取組を学校、県、そして住民、更には近隣の小中学校と一緒に取り組んでほしい。		
○ 県東部に、家庭科目に特化し高校卒業までに取得可能な各種資格を獲得できる学校を再編、場所は現熊毛北高校とすることを求める。また学校規模は小規模とすることを求める。		
○ 主な統合高校が柳井市、熊毛郡なのに、なぜ、周南市の熊毛北高校が入っているのか。		
○ 熊毛北高校の統合先は、なぜ、遠くの柳井市・田布施町の高校なのだろうか。		
○ 各学校で先進的に取り組んでいる特色は、県教委が進めているものだが、一部改定(素案)は、それを蔑ろにするものである。		
○ 建て替え間もない柳井商工高の校舎を活用することが必要である。		
○ 県東部唯一の家庭科が交通の利便性のよい校地に移ることで、これまで家庭科に進学したくても諦めていた地域からの生徒の入学が期待できる。		
○ 校地については、駅から近いことや、柳井市に1校、熊毛郡に1校、大島郡に1校というバランス、農地は移せないなどを考えると、素案の校地がベストであると思う。是非、駅から近いことをアピールして、周南地域や岩国地域からも生徒募集をしてほしい。		
○ 対象校について、柳井高校、柳井商工高校、熊毛南高校、田布施農工高校、周防大島高校の5校とし、再考を求める。		○ 中学校卒業見込者数の推移や中学生の志願状況などを総合的に勘案するとともに、地域における高校の実情や地域バランスなどを踏まえ、全県的な視点に立った上で、各校の今後の在り方について検討しています。
○ なぜ今回の一部改定案は、周防大島高校を対象外としているのか。		なお、附属高校の設置については、山口県立大学が「山口県立大学将来構想」に基づき進めているものです。
○ 柳井地域といいながら周防大島高校が再編計画に入っておらず、疑念を感じ得ない。「周防大島高校は小規模校としての価値がある」と明言して「残す」と言うべきである。		

意見の内容	意見に対する県の考え方
○ 最初から周防大島高校が対象から外れているのは、県立大の附属校化が元々前提だったからではないか。	
○ 今回の周防大島高校を除外した再編計画を即刻中止撤回すべきである。	
○ 熊毛北高校ライフデザイン科の移転先は、高森高校ではいけないのか。	○ 熊毛北高校については、家庭に関する学科であるライフデザイン科を設置していることから、その特色を生かし、家庭科の教育内容を充実させるため、農業、工業の教育内容と合わせた形の再編統合とすることとしました。
○ 熊毛北高校の統合先は、なぜ下松市の高校、旧徳山市の高校及び高森高校ではいけないのか。	
○ 熊毛北高校は田布施町への通学が不便であり、岩徳線や自転車通学が可能な高森高校、光高校や華陵高校との統合を考えるのが妥当だと思われる。	
○ 高校の再編整備は「地域づくり」(特に中山間地域の地域づくり)に大きく影響がでることから、今まで通りの拙速な決め方を考え直し、計画決定方法の再考が必要である。	
○ 少子化の進展は更に進み、県立高校の再編は避けて通れない課題だとは認識しているが、再編計画の策定はもっと広域で、広く県民を議論に巻き込んで民主的で公平に策定すべきである。	○ 具体的な再編整備については、県立高校の管理機関である県教委が素案として示し、地域説明会やパブリック・コメントなどで御意見を伺った後、実施計画として策定することとしています。
○ 素案の策定については県教委が主体となって決めてよいと思うが、その後の議論は開かれた形で県民の声を傾聴してほしい。	
○ 現在、一部改定(素案)について住民説明会が実施されていると聞いているが、住民の意見を聞かずに策定された一部改定(素案)には反対とせざるを得ない。	
○ 地域や進学予定者、現場の教職員と県教委が実際に膝をつきあわせて、素案の修正をしていただきたい。	
○ 地域説明会においては、対象者を限定することをやめ「県民」とし、高校職員に対しては職員説明会として別に県教委より開催することが望ましいのではないか。	
○ 高校再編整備・募集停止は、生徒や保護者、教職員だけでなく、地域にとっても重要な事柄であり、関係者や保護者・地元の民主的な話し合いによる合意を重視し、決定されるべき事柄だと考える。	
○ すべての学校の当事者(生徒、PTA、地元自治体、小・中学校の児童生徒・父母、地域住民、同窓会、教職員など)の意見や要求を直接聴き、全体の合意を形成していく民主的な方法で、案を出す段階から高校再編を進めるべきである。	
○ 「5校を2校に再編統合」の方針は、素案とは言いながら決まったことのような説明だった。これらに対し会場から「答えていない」、「地元の声聞くべき」などの声が上がった。県教委は地域の声に寄り添う姿勢を見せるべきである。	
○ 説明会では、具体的な内容については今後決めていくということだったが、具体的な内容を盛り込んだ「計画原案」こそが、最も重要であり、計画原案についても地域説明会を開催することが県の責任ではないか。	

意見の内容	意見に対する県の考え方
○ この計画の策定後は、教育内容や部活動、学科構成や入学定員、校名・校歌など様々なことを県教委と学校で決めていくことになるだろうが、小出しでもいいので、決まった内容については、中学生に早期に周知してほしい。	○ 教育の質の確保・向上を図るため、再編統合により学校規模の拡大を図るとともに、それぞれの学校がこれまで築き上げてきた伝統や、特色ある教育活動、部活動等を可能な限り継承・発展させるなど、特色ある学校づくりに努めます。
○ 今回、再編統合される学校は、これまで特色ある教育を実践してきた学校であり、是非、そのような教育を新しく設置する2校の高校には引き継いでほしい。	また、計画の推進に当たっては、計画の策定後、5校の関係者の意見も聴きながら新高校における教育内容等について検討することとしています。
○ それぞれの学校のよいところを吸収して、どうか子ども達が、親が信頼して子どもを託せる高校を作してほしい。	各校の入学定員については、中学校卒業見込者数の増減、中学生の進路希望、志願・入学状況、地域の実情、高校生の進路状況等を踏まえて年度ごとに策定しています。
○ 新実業高校における学科構成や定員数は、中学生にとって進路決定の重要な要素であることから計画が承認されれば早期の公表をお願いします。	また、具体的な内容については、「県立高校再編整備計画 前期実施計画」の「その他」の項に記述しているように、中学生に早期に情報提供する必要があることから、原則として当該年度の募集定員の発表前に公表します。
○ 旧熊毛町の子どもたちにとって「通いにくくても、この学校へ入りたい」と思えるような学校づくりを是非進めてほしい。	
○ 学科再編にあたっては生徒数の減少のみに対応するのではなく、子どもの進路選択の多様性を確保するため学科数の維持が必要と考える。	
○ 高校進学を考える生徒にとって、その進学先の部活動はその進路決定に大きな影響をあたえるものであることを理解し、適切かつ親切にその方向性を具体的かつ適切に情報提供することが学校設置者の責任と考える。については、学校部活動について、適切な説明を求める。	
○ 柳井高校を校地とする学校には、普通科と商業科を設置する案が示されているので、普通科での進学の取組を商業科の生徒も行うことができる。また、商業科での授業を普通科の生徒が受けることができるなど、お互いの学科のよさを活かせる学校にしてほしい。	
○ 普通科と商業科を設置する学校については、地域説明会では、進学指導を危ぶむ声もあったが、地域との連携が進んでいる商業科とコラボすることで、むしろ、これまでの座学一辺倒の普通科ではできない進学指導が可能となるのではないかと期待している。	
○ 他県の普通科と商業科がある高校では、商業科から難関大学へ進学している生徒も多くいることから、そうした先進校の取組も参考にしながら、進学実績を更に伸ばすことを期待する。	
○ 普通科を希望する生徒にとって、柳井高校と熊毛南高校という選択肢から柳井市の新高校だけになることから、例えば、普通科の中に特進コースなどを作ってはどうか。	
○ 再編統合による質の低下を招かない為に、是非、柳井地区にも特進探究科（仮称）の併設をお願いします。	
○ 熊毛北高校普通科への進学を考えていた生徒は、新高校だけではなく、近隣市の高校へ進学することとなる。今後は、そうした学校の入学定員の増員や、魅力的な学校づくりに努めていただきたい。	

意見の内容	意見に対する県の考え方
<p>○ どの学科もこれまで以上に確実に社会で通用する資格習得と即戦力になるための人間形成が重要だ。個々に目標を持ち生徒自身が学舎に魅力を感じ勉強をしたいと思える学校をめざしてほしい。また、企業から何を学んで就職してほしいかを聞いてみるのもいかがか。</p>	
<p>○ 田布施農工高校を校地とする学校には、農業科と工業科と家庭科を設置するため、農業科で学ぶ生産や食品加工、工業科で学ぶ電子機械の制御や建築の技術、家庭科で学ぶ衣食住の生活に関する内容など、それぞれの学科の教育が活かせる連携を行うことで、相乗効果が生まれ、教育活動を充実させてほしい。是非、県東部の産業教育を担う学校にしてほしい。</p>	
<p>○ 3つの専門学科を設置した学校について、専門分野をしっかりと学びつつ、他学科とも連携した学習により、専門分野の横の広がりを実践的に学ぶことができるのではないかと期待している。</p>	
<p>○ 新実業高校では、再編統合されることで、農業、工業、家庭の複数の学科の設置が予定されている。生徒数の増加により学校行事や部活動等の幅広い教育が可能となる。又これにより学科連携が進み、新産業創業を生み出す誘因にもつながると期待している。</p>	
<p>○ 新実業高校では、県東部に一箇所しかない農業3学科と家庭科、そのほか工業3学科が統合対象となるが、農業各科、家庭科については、産業人材を育成する地域の拠点として期待されることから、再編統合後も中・長期的な展望のなかで強く教育環境の整備をお願いする。</p>	
<p>○ 新実業高校では、従前の学科編成に捉われず再編成し、教育課程も検討され、衣食住や介護全般を学べる新しい魅力ある家庭科、農業生産から食品製造、流通まで含んだ総合的に学べる農業学科、地域産業の特性をつかんだ工業科とすることで、進路も広がり、かつ高校受験生の興味を高め、併せて保護者や産業界の関心も深まることが期待できる。</p>	
<p>○ 新実業高校の生徒の中にも、社会が急速に変化する時代に進学をめざす志向も増加している。この地区では3普通高校の1校への再編統合が予定されているが、他県の職業高校でも行われている進学コースを併設し、生徒の要望に沿うような教育課程が可能であれば、高校受験生も増加すると考える。</p>	
<p>○ 新実業高校は、学級数や学科の増加が見込まれることから、県では施設や実習機材等の整備が必要となるが、令和8年度を実施年度に予定されていることから、計画が承認されれば、早急に予算化され、速やかに整備されることを希望する。また、整備が遅延する場合は、生徒に不便を与えないように、既存の旧高校の活用も検討してほしい。</p>	

意見の内容	意見に対する県の考え方
○ 県東部の建築系学科は、柳井商工高校だけであるため、再編統合にあたっては建築系学科の定員の維持をお願いします。	○ 校名等につきましては、本計画策定後、関係者の意見も聴きながら、検討してまいります。また、「県立高校再編整備計画 前期実施計画」の「その他」の項に記述しているように、中学生に早期に情報提供する必要があることから、原則として当該年度の募集定員の発表前に具体的な内容を公表します。
○ 新実業高校には、専門科目や普通科目の教員を適正配置し、学校運営が円滑に進めることができるようにお願いします。	
○ 熊毛北高校のライフデザイン科が培ってきた教育を、是非とも新高校に継承していただきたい。また、そのための教員配置もしっかりと考えてほしい。	
○ 熊毛学園の活動の中でライフデザイン科の地域貢献は素晴らしいものがある。熊毛北高校のライフデザイン科を大切に育てていただきたい。	
○ 今回、再編統合される学校では、これまで成果を出している部活動も多くある。例えば、柳井商工高校のバドミントン部は、全国制覇もしている。そのような部活動については、是非、新学校に引き継いでほしい。	
○ 柳井高校を校地とする新高校には、商業科が設置されることから女子バドミントン部を、田布施農工高校を校地とする新高校には、工業科が設置されることから男子バドミントン部を作ってほしい。	
○ 熊毛北高校の文化祭で行われるファッションショーは再編統合後、どうなるのだろうか。どこの高校に継承されるのだろうか。	
○ 各市町の特性を生かすことができる地域創生科等の大学課程に準じるような地域教育科目を設置し、大学・企業・行政機関等と協働し、未来の市役所、県職員(教職員も含む)を育てていくことを目的としていくことを求める。	
○ 学校再編もさることながら、高大接続答申でも指摘された、ややもすると答えのある問いへの学習から脱却した、山間部の学校だからできる自動操縦技術、プログラミング、提案のためのプレゼン能力育成、議論する力を育成する産官協働型学科の再編を検討してほしい。	
○ 新高校の名称など、今後地域にとって重要な事項が山積している現状を鑑みると、今一度、地域に対し適切な説明等、紳士的な対応を求める。	
○ 必ずライフデザイン科という名前を残してほしい。	
○ 柳井高校の夏の白いセーラー服は、男女を問わず、卒業生の間でも評価が高い。清楚でありながら、エレガントでもある、類いまれな優れたデザインが、是非とも引き継がれる事をお願いします。	
○ 魅力ある学校運営のひとつとして県外から部活動による進学受け入れができないか。	
○ 柳井高校という名称がシンプルで分かりやすく、地域の中核となる高校名として最も相応しいため、将来にわたって地域からも愛され続ける高校として、普通科・商業科の再編高校名は、「柳井高校」を提案する。	
○ 柳井市の新高校の校名は、伝統ある「柳井」の名前を残すことが必要だと考える。	

意見の内容	意見に対する県の考え方
○ 柳井の名前を残したいが、柳井高校では他校の卒業生が納得しづらい。「商都柳井」なら、商の字が入る分、柳井商工高校の卒業生も受け入れ易い。また、柳井の町の歴史を連想させ、長い伝統を引き継ぐに相応しい重みを含む校名と言えるため、普通科、商業科併設校の校名は、「商都柳井高校」を希望する。	
○ 普通科、商業科併設校の校名について、あまりにも安直で、いかにも新設校らしい歴史の重みを感じさせない名前のため、「柳井総合高校」だけは避けてほしい。	
○ 新高校となると、校歌、校章、校訓など新たに制定する必要があると思うが、熊毛南高校・柳井高校両校の同窓会の意見はどうか確認、了承を得る必要があるように思う。	
○ 今回の新実業高校は、校名も検討されるところであるが、校名には、地域を代表する地名や学校の特徴を表現できる魅力ある校名を希望する。	
○ 再編統合は、新設合併ではなく吸収合併の形にして、校歌を残してほしい。	
○ 県教委の説明の中でも、熊毛中学校からの入学者は1割程度とあった。残念ながら、再編やむなしであると認識している。しかしながら、旧熊毛町の地域は、小・中学校と熊毛北高校が連携して、地域への愛着を育む取組を進めてきており、学校の雰囲気も昔とは随分違っている。今後も、地元の子どもたちが、熊毛北高校以外に進んでも、地域で活躍できるような機会を提供していただきたい。	○ 子どもたちに、より質の高い教育を提供するという観点からは、再編整備と地域連携教育の方向性は同じであると考えています。 現在進めている県立高校の再編整備に関わらず、次代を担う子どもたちの豊かな学びや育ちの実現に向け、子どもたちの成長段階に応じた本県ならではの地域連携教育の更なる推進に取り組んでまいります。
○ 幼稚園、5つの小学校、熊毛中学校、熊毛北高校の生徒、教職員、地域の方々で熊毛学園を立ち上げ、盛り上げてきた活動実績がある中で、熊毛北高校を廃校にすれば、生徒の中で先頭に立てる人材がいなくなる。熊毛学園の活動内容や成果を理解しているのか。	
○ 再編で地域の学校がなくなり、相談できる環境が狭められる中、地域で育まれる豊かな心が養われるのか。	
○ 学校と住民コミュニティ・スクールの取組である熊毛学園について、県は「素晴らしい取組であり、更に続け進化させてほしい。全面的に協力する。」と言っていたが、どうするのか。	
○ 学校と住民コミュニティ・スクールの取組の1つである「安田の操り人形」について、生徒とタイアップして取り組んでいるからここまでできていたのだが、生徒がいなくなるとどうなるのか。県の教育部門は県の他部門と話し、どのように対処するのか考え、その結果を報告すべきである。	
○ 計画が素案どおり実行されれば、平生町から高校がなくなってしまう。	○ 県教委としては、今後の急激な生徒減少を踏まえると、新しい時代に対応した学校づくりを今、積極的に進めなければ、これからの社会を担う人材の育成は困難になるとの強い危機感をもって、子どもたちのことを最優先に考え、県立高校の再編整備を進めることとしています。
○ 熊毛北高校が無くなれば、地域が衰退する。	

意見の内容	意見に対する県の考え方
○ 新実業高校をめざす生徒は、技術志向が高く特定の産業に興味を示す生徒が多い為、学校所在地以外のところから通学する生徒もあり、交通の利便性や経費補助が可能であればより多くの生徒が集まると考えるため、お願いしたい。	○ これまで、生徒の通学の利便性の維持・向上を図るため、公共交通事業者や地元市町に対して、各地域や学校の状況に応じ、運賃・運行ダイヤ・路線等に関する働きかけを行っています。 また、通学支援については、県立高校の再編整備により、平成の合併前の市町村単位で高校がなくなった地域に居住し、県内の高校に通学する生徒に対して通学費の一部を支援する制度を、令和5年度から実施しています。 「県立高校再編整備計画 前期実施計画」の「その他」の項に記述しているように、今後も、公共交通事業者に対し、利便性の向上等が図られるよう働きかけを行うとともに、経済的負担の軽減について検討します。
○ 熊毛中学校の生徒から見た場合、通学条件を考えると選択肢が非常に少なくなる。高校再編を実施した場合、柳井高校や田布施農工高校からスクールバスを運行していただきたい。	
○ 再編統合地域の通学実態を把握し、乗り降りに関し自由度のある県委託スクールバスの運用や、個人への通学タクシー券の配付などを実施し、安心安全な登校をはかることが必要である。	
○ 学校設置者の事情により高校の再編統合を実施するのであれば、対象校に通学する全ての生徒に対し、学校設置者の責任による「通学手段の確保（スクールバス等）」の確保の確保が必須と考えられることから、改定素案にこれらの内容の明記を求める。	
○ 生徒募集停止や統廃合により、進学先の選択肢は減り、通学費は増え「質の高い教育」は受けられない。今年度から通学補助を一部実施しているが、まだまだ不十分で、拡充していくことが求められる。	

■ パブリック・コメントの実施方法等に関するもの（7件）

意見の内容	意見に対する県の考え方
○ 行政書面に限らず、書面の内容変更を行う際には、「いつどこをどう変更したのか明示する」のが必須と考える。	○ パブリック・コメントの実施に当たっては、改定の趣旨や、改定の内容を記載した、「一部改定（概要）」も公表した上で、意見募集を実施しています。
○ 「対象校5校を再編統合」とのことだが、当該5校を対象とした具体的根拠と5校選定経緯が全く提示されていない。	
○ 校地を現在の柳井高校と田布施農工高校とした具体的根拠と2校選定経緯が全く提示されていない。	○ 地域説明会については、説明会後にパブリック・コメントへ意見を提出することができるよう、パブリック・コメント実施期間中に、柳井市・上関町・田布施町・平生町・周南市の5会場において、中学生や保護者、地域の方々に対して開催しました。 地域説明会の周知に当たっては、柳井地域・周南地域の公立中学校の在校生全員に案内文を配付するとともに、報道発表や会場への掲示、県ホームページへの掲載などの方法により周知しました。
○ 地域説明会には参加を希望する保護者や地域の方が多く存在するが、早急な日程のため参加できない状況があった。パブリック・コメントも含め、「御意見をお聴きする」というのなら、再編計画について県民に広く早く周知し、じっくり時間をかけて説明会等を実施するなど、多くの参加者が集まる状況を作ることが必要である。	
○ 地域説明会の周知について、報道機関を効果的に使われているので、それをもっと生かしていけばよいのではないか。	
○ 地域説明会の開催決定後、すみやかに当該学校運営協議会委員へ県教委より開催日時等の連絡を行うことを要望する。	
○ 地域説明会においては当該地域だけでなく県内へ広く広報することを求める。具体的には、各市町広報掲載など。時期についても1か月から2週間前が望ましい。	

■ その他の意見（23件）

これらの他に、次のような御意見もありました。今後の参考にさせていただきます。

○ 全県的な視点は確かに必要であるが、誰ひとり取り残さないということも、かけ声ばかりではなく、重視すべきことがらである。
○ 学校だけでなく自治体などの様々な統廃合や巨大化が、社会基盤や住民の生活に困難を来していることが明らかになっている。この際、県教委は、事象を省察して、先見の明を發揮すべきではないか。
○ 「教科等横断的な学びや他者と協働した探究活動の充実など、学科間連携による教育活動を推進する学校を配置」とあるが、学科間連携だけではなく、他校との連携も見据え、「学科間、学校間連携」としてほしい。
○ 「大学等への進学に重点を置く取組や高度な専門性をもった産業人材を育成する取組の充実」とあるが、生徒の自己実現に重要なポイントであり、これまでのような上意下達ではなく、どういった取り組みが必要か、広く現場の教職員と地域に意見聴取し、内容を検討してほしい。
○ 生徒の中で比率が大きくなりつつある「多様で特別な教育的ニーズのある生徒」に特化した、その圏域のハブとなる推進拠点校的役割をもつ学校の検討が必要である。
○ 生徒・保護者の困り感、教職員の困り感に対してワンストップで対応し、教職員が実践経験を積み、広く啓発できる主体性ある拠点校が必要である。
○ 再編整備の方向性に「大学等への進学に重点を置く取組や高度な専門性をもった産業人材を育成する取組の充実などを推進するための拠点的な役割をもつ学校」に加え、「少人数規模の学校を設置し、事情を抱える生徒に対しても高校教育の機会を確保する」との意を加え、再考を求め。
○ 岩国・徳山・山口高校への特進探究科の設置について、特進と名付けるからには難関国立をめざすと思うが、探究活動は受験勉強の時間を奪うだけではないのか。
○ 岩国・徳山・山口高校への特進探究科の設置について、文理選択は2年からが望ましいので、設置するのであれば特進科で、2年で理数コース、文系コースに分けるとよいと思う。
○ 岩国・徳山・山口高校への特進探究科の設置について、理数科と普通科を残し、探究科を新たに設置し、普通科・理数科は一般選抜での大学受験、探究科は探究活動の実績から推薦入試をめざせばよいと思う。
○ 小規模校をなくし一定の学校規模を維持し、一方で一部のエリートを養成するための進学重点校づくりを進めているが、学校間格差と統廃合に拍車をかけ、子どもたちの教育権が侵害される危険性がある。
○ 難関大学をめざす進学重点校を指定し、中高一貫教育校も計画している。優秀な生徒の県外流失を防ぐためとしているが効果は未知数だ。また、難関大学に進学した生徒は山口県に帰ってくるのか疑問である。
○ 一部の「エリート」を養成するための「進学重点校」づくりを進めているが、小学校段階からの競争と選別の教育を一層激化させる懸念がある。
○ 建築系学科の生徒数が、県内企業の求人数に比べ少なく、大きく不足しているため、県全体で建築系学科の定員増をお願いする。
○ 地域バランスをとり、ものづくりに関心がある児童の進路選択肢が狭められないように、県央部（防府土木管内）に建築コースの設置をお願いする。
○ 建築業界では、建築士や施工管理技士など国家資格が必要であるが、法改正で受験要件が見直され、工業高校卒業後すぐに受験できるようになった。国家資格の受験資格が取得できることを、もっとPRするなど、志願者を増やす工夫も必要である。
○ 県立工業高校の建築学科以外（田布施農工高校都市緑地科、岩国工業高校都市工学科、山口農業高校環境科学科）においても建築系国家資格の受験資格取得の指定校への積極的な取組をお願いしたい。
○ 今の県内情勢で、県立大附属という高校が必要なのか。
○ 県立大附属高校の設置は、県立大学の存在意義をおとしめることになるのではないか。
○ 県立大附属高校の設置は、他地域から県立大学に進学希望する生徒への進学阻害要因にならないか。
○ 県立大附属高校の候補の決定に至る経過を明らかにさせる必要があると思う。
○ 地域での取組に対して、どのようなビジョンであるべきかを議論し、示してほしい。
○ 再編後、公立高校生が、どの地域で、どのように関わっていくかというビジョンについて、学級編成人数という物理的な視点ではなく、次世代を担う高校生が身につけるべき資質能力を育成する視点を反映した議論をお願いする。

公立大学法人山口県立大学からの附属高等学校設置に関する 要望への対応について（報告）

令和5年12月 教育委員会

1 これまでの経緯

- 9月21日に、県立大学から県教委あてに行われた、附属高校設置に伴う周防大島高校の設置者変更等の要望を受け、①周防大島高校の選定理由の妥当性、②周防大島高校の教育内容等の充実の可能性の2つの観点を中心に、要望への対応について検討を開始
- 県立大学や周防大島高校を訪問し、理事長や校長へのヒアリング、授業見学等を実施するとともに、県立大学及び総務部の担当者と実務レベルでの協議を継続
- 11月教育委員会会議において、回答案を承認

【要望に対する回答】

- 1 山口県立周防大島高等学校の設置者変更について 了承
- 2 開校時期を令和8年4月を目標とすることについて 了承
- 3 年次進行か開校年度に一斉に変更するかは、引き続き県立大学と協議

2 設置者変更方法について

- 県立大学と協議を重ね、生徒への影響や教職員の配置の観点から、開校年度に一斉変更することで合意

【主な理由】

- 年次進行の場合、移行期間中は県立高校と附属高校の2つの学校が同じ校舎に設置されるため、教育内容の違い等*に対する生徒への影響を考慮すると、一斉変更が望ましい。
※県立大学教員による指導等、県立大学への推薦枠などを想定
- 年次進行の場合、移行期間中は2つの学校があることで、仮に附属高校に県教委から教員を派遣する場合、教員を増員する必要があるが、教員不足の中、増員配置が困難なことから、一斉変更が望ましい。

3 今後のスケジュール

時 期	内 容
令和5年12月下旬～	中学生や保護者等への周知
～	附属高校の開校に向け県立大学、総務部と協議を継続 (教育課程、福祉専攻科、教員配置、施設・設備の移管、入学者選抜など) ※まずは、県立大学において検討
令和7年度	公立高校の入学定員と併せて、令和8年度入学生から県立周防大島高校の募集停止を公表 山口県立高等学校等の管理に関する規則の改正 山口県立高等学校等条例の改正 (県立周防大島高校の開校)

報告事項 2

令和6年度(2024年度)山口県立学校職員（実習助手・寄宿舍指導員）採用 候補者選考試験の選考結果について

教職員課

記

1 概要

実習助手については、志願者24人のうち、18人が受験し、選考の結果、6人を採用候補者名簿の登載予定者としました。

寄宿舍指導員については、志願者4人のうち、4人が受験し、1人を登載予定者としました。

倍率は、実習助手が3.0倍、寄宿舍指導員が4.0倍となりました。

職種、選考区分、志願区分別の採用候補者名簿登載予定者数、倍率等は、次のとおりです。

職種及び選考区分、志願区分別の受験状況及び採用候補者名簿登載予定者数等

職種	選考区分	志願区分	志願者数	受験者数 A	登載予 定者数 B	倍率 A/B	
実習助手	一般選考	普通教科	11 (14)	10 (10)	1 (1)	10.0 (10.0)	
		工業	機械系	3 (6)	3 (6)	1 (2)	3.0 (3.0)
			電気系	2 (4)	1 (2)	1 (1)	1.0 (2.0)
			化学工業系	3 (1)	2 (1)	1 (1)	2.0 (1.0)
			土木建築系	3 (4)	2 (3)	2 (1)	1.0 (3.0)
	障害者を対象とした選考	一般選考の志願区分と同じ	2 (1)	0 (0)	0 (0)	— (—)	
	合計		24 (30)	18 (22)	6 (6)	3.0 (3.7)	
寄宿舍指導員		4 (6)	4 (5)	1 (1)	4.0 (5.0)		

注 ・ () 内の数字は、昨年度のもの。

2 その他

教員採用予定者と同様、採用予定者を対象に着任するまでの心構え等について学ぶ研修を、12月28日（木）に実施します。

《参考資料》

令和6年度（2024年度）山口県立学校職員（実習助手・
寄宿舍指導員）採用候補者選考試験の実施について

教職員課

1 選考区分、志願区分、採用見込者数及び職務の概要

職種	選考区分	志願区分	採用見込者数	職務の概要	
実習助手	一般選考	普通教科	1人程度	普通教科の実験又は実習について、教諭の職務を助ける。	
		工業	機械系	1人程度	工業の実験又は実習について、教諭の職務を助ける。
			電気系	1人程度	
			化学工業系	1人程度	
	土木建築系		1人程度		
障害者を対象とした選考	一般選考の志願区分と同じ	1人程度	一般選考の「職務の概要」と同じ		
寄宿舍指導員	/		1人程度	特別支援学校の寄宿舍における児童、生徒の日常生活上の世話及び生活指導（食事、入浴等日常生活全般に関わる指導）に従事する（夜間勤務有り）。	

2 受験資格

昭和39年4月2日から平成18年4月1日までに生まれた者
実習助手（工業）については、別に資格要件が必要

3 志願書類等の受付期間

令和5年8月23日（水）から9月11日（月）まで

4 試験の期日・場所

- (1) 期日 令和5年10月29日（日）
- (2) 場所 山口県セミナーパーク

5 試験の内容

- (1) 実習助手（普通教科）・寄宿舍指導員
教養試験、小論文、面接、適性検査
- (2) 実習助手（工業）
教養試験、専門教科試験、面接、適性検査

6 採用候補者名簿登載予定者の発表等

- (1) 日時 令和5年11月30日（木）午前9時
- (2) 内容 採用候補者名簿登載予定者の受験番号を掲載
- (3) 方法 山口県教育庁教職員課のウェブページ

令和5年度
山口県学力定着状況確認問題
結果について



令和5年12月

山口県教育庁義務教育課

目 次

I	実施概要 P	1
II	教科の問題に関する結果 P	2
	1 結果概要		
	(1) 平均正答率 P	2
	(2) 教科の問題結果から見られる特徴 P	2
	2 小学校		
	(1) 国語 P	3
	(2) 算数 P	7
	3 中学校		
	(1) 国語 P11	
	(2) 数学 P15	
	(3) 英語 P19	
	4 設問別正答率一覧 P23	
III	児童生徒質問紙調査の結果 P	32

I 実施概要

1 目的

児童生徒の客観的な学力状況の経年的な把握と分析を通して、課題解決に向けた指導の工夫改善等の取組の充実を図る全県的な検証改善サイクルを確立し、県内全ての児童生徒の学力の確実な定着と向上を図る。さらに、C B Tで実施することにより、児童生徒の発達の段階に応じた情報活用能力、デジタル読解力等の資質・能力の育成を図る。

2 実施期日

令和5年10月16日(月)から10月18日(水) 小学6年、中学2年

令和5年10月18日(水)から10月20日(金) 小学5年、中学1年

※ 学校の実情に応じて、各期間で実施することとし、一日の実施教科数、実施教科の順序等は、各学校が定める。

3 実施内容

(1) 実施対象等

学 年		実施人数	内 容 (時 間)
小学校	第5学年	9,937人	国語、算数(各40分)及び質問紙
	第6学年	10,044人	国語、算数(各40分)及び質問紙
中学校	第1学年	9,802人	国語、数学(各45分)及び質問紙
	第2学年	9,331人	国語、数学、英語(各45分)及び質問紙

(2) 教科の問題について

○以下の①、②による総合的な問題とし、記述式の問題を一定の割合で出題する。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした問題

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした問題

○問題は、調査実施時点までに学習していると想定される範囲とし、問題の程度は、対象学年までの学習指導要領を基準とする。

(3) 質問紙について

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する内容を問うものとする。

【データの処理について】

○各学年の実施人数について

・各学年の実施人数は、教科の問題及び質問紙を実施した児童生徒数の最大値を示している。

○平均正答率の算出方法について

・各教科の平均正答率は、問題を実施した全ての児童生徒の解答結果から算出している。

・学校の教育課程上の理由等により一部の問題を実施していない児童生徒についても、全体に含めて算出している。

Ⅱ 教科の問題に関する結果

1 結果概要

(1) 平均正答率

①小学校

	国 語	算 数
第5学年	51.8%	54.2%
第6学年	61.9%	55.6%

②中学校

	国 語	数 学	英 語
第1学年	57.0%	57.0%	
第2学年	64.1%	54.6%	48.6%

(2) 教科の問題結果から見られる特徴

- ◇ 基礎的・基本的な内容を問う問題については、一定程度、成果や改善傾向が見られる。
- ◆ 基礎的・基本的な内容を活用して具体的な場面について考察する問題や記述式の問題に依然として課題が見られる。

		主な成果	主な課題
小学校	国語	<ul style="list-style-type: none"> ◇文章を読んで理解したことに基づき、自分の考えをまとめること ◇図や写真などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること 	<ul style="list-style-type: none"> ◆文中における被修飾語、主語を捉えること ◆目的や意図に応じて、取材内容をもとにして自分の考えをまとめること ◆指示する語句の役割を理解しながら読むこと
	算数	<ul style="list-style-type: none"> ◇伴って変わる二つの数量の変化や特徴を捉え、その答えを求めること ◇基準量と比較量をもとに、割合を求めること 	<ul style="list-style-type: none"> ◆高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に、面積の大小を判断、表現すること ◆目的に応じたデータを二つの観点から、分類整理すること
中学校	国語	<ul style="list-style-type: none"> ◇案内状の適切な書き方を理解すること ◇司会の役割を果たしながら話し合うこと 	<ul style="list-style-type: none"> ◆表現の技法について理解すること ◆短歌の区切れについて理解すること ◆文の構成を理解すること
	数学	<ul style="list-style-type: none"> ◇線対称な図形について、対象の軸の本数を求めること ◇投影図を理解すること 	<ul style="list-style-type: none"> ◆投影図から立体の表面積について理解すること ◆日常の場面で、最大公約数を活用すること ◆垂線の作図方法を理解すること
	英語	<ul style="list-style-type: none"> ◇日常的な話題について、情報を正確に聞き取り、適切に応答すること ◇基本的な語や文法事項を理解して、会話の中で適切に使うこと 	<ul style="list-style-type: none"> ◆文脈に合うように、内容を考えて、基本的な文法事項を活用し英文を書くこと ◆聞いて把握した内容について、適切なアドバイスを書くこと

2 小学校

(1) 国語

① 平均正答率、正答分布など

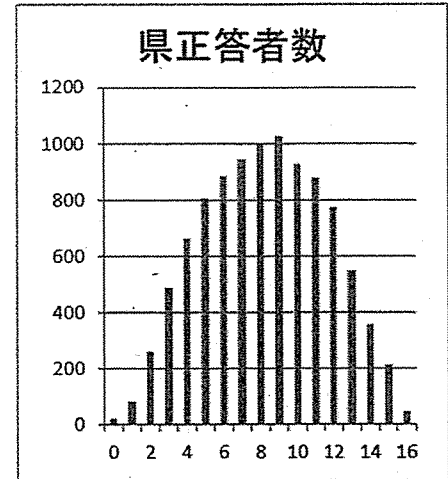
【第5学年】

実施児童数	9,937 人
設問数	16 問
平均正答率	51.8 %

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)	
学習指導要領の内容	知識及び技能	7	51.0	
	思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと	3	56.6
		書くこと	2	35.1
		読むこと	4	57.8
評価の観点	知識・技能	7	51.0	
	思考・判断・表現	9	52.4	
問題形式	選択式	15	54.0	
	短答式			
	記述式	1	19.0	

正答数分布グラフ

(横軸:正答数(問)、縦軸:人数(人))



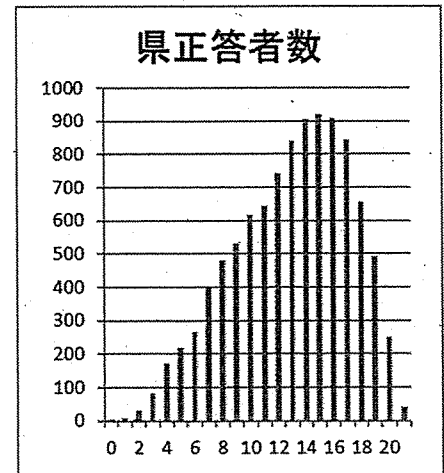
【第6学年】

実施児童数	10,042 人
設問数	21 問
平均正答率	61.9 %

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)	
学習指導要領の内容	知識及び技能	10	61.7	
	思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと	4	67.4
		書くこと	4	59.9
		読むこと	3	57.5
評価の観点	知識・技能	10	61.7	
	思考・判断・表現	11	62.0	
問題形式	選択式	19	65.7	
	短答式	1	11.7	
	記述式	1	39.6	

正答数分布グラフ

(横軸:正答数(問)、縦軸:人数(人))



② 具体的な問題と解答状況 一小学校第5・6学年 国語一

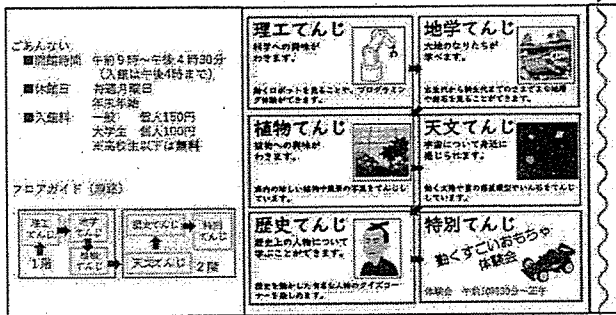
○課題とみられていた問題で改善傾向にある問題

○ 「文章を読んで理解したことに基づき、自分の考えをまとめること」について、令和5年度全国学力・学習状況調査の正答率が56.2%（全国）、57.6%（山口県）であったが、改善傾向がみられる。

第5学年 ① (5)

川村さんは、【博物館のリーフレット（一部）】と【川村さんが見つけた文章】を読み、リーフレットのくふうについて分かったことをまとめました。リーフレットのくふうについて分かったこととして最も適切な文章を、次の中から一つ選びましょう。

【博物館のリーフレット（一部）】



【川村さんが見つけた文章】

必要な情報を知らせるリーフレット

リーフレットとは、1まいの紙を半分に折ったり、3つに折ったりしてページに分け、情報を見やすく表した印刷物です。折り方によってページ数が4ページや6ページなどになります。ページごとに、絵や写真、短い文章を使って情報を分かりやすく整理しているので、情報がすぐに分かります。また、1まいの紙でできているので手軽に持ち運べ、それを見ながら行動できるというよさもあります。

例えば、ペットショップのリーフレットでは、犬のページ、ねこのページなど、動物ごとにページが分けられているものがあります。また、美術館のリーフレットでは、テーマについて理解が深まるようにまわりの順番が分かるように作られているものがあります。さらに、ショッピングセンターのリーフレットは、見開きの広いスペースに案内マップをのせて、お店を見つけやすいように作られているものがあります。

このように、リーフレットは、見る人に分かりやすく案内するためにくふうされた印刷物です。みなさん、ぜひ、まがさがあればリーフレットを使ってください。

- ・ペットショップや美術館のリーフレットが分かりやすかったので、遊園地のリーフレットも作ってほしいです。
- ・リーフレットは、ページごとに情報が整理されており、どのようなことを書くかを考えたいです。
- ・リーフレットは、1まいの紙を半分に折ったり3つに折ったりして作られており、見出しや説明をくふうしています。
- ・リーフレットは1まいの紙でできているので手軽に持ち運べますが、情報が不十分なことがあります。

【正答】 ① (5) リーフレットは、1まいの紙を半分に折ったり3つに折ったりして作られており、見出しや説明をくふうしています。

【正答率】 72.6%

【誤答類型】

- ・ペットショップや美術館のリーフレットが分かりやすかったので、遊園地のリーフレットも作ってほしいです。…4.9%
- ・リーフレットは、ページごとに情報が整理されており、どのようなことを書くかを考えたいです。…18.9%
- ・リーフレットは1まいの紙でできているので手軽に持ち運べますが、情報が不十分なことがあります。…3.3%
- ・無答…0.4%

●課題のみられる問題

- 「文中における被修飾語、主語を捉えること」について、課題が見られる。

第5学年 2 (2) 下の【インタビューの様子】の__部B「力強く」がくわしく説明している言葉として最も適切なものを、次の中から一つ選びましょう。

- ・ビオラの花 ・さく ・すがた ・勇気づけられます

(3) 下の【インタビューの様子】の__部C「続けていきます」の主語として最も適切なものを、次の中から一つ選びましょう。

- ・これからも ・わたしたちは ・公園に ・世話を

【インタビューの様子】

(前略)

川田 もともと花が好きということがあります。たとえば、小さなビオラの花が、寒さの中でも力強く^Bけなげにさくすがたには、勇気づけられます。でも、一番の理由は、やはり喜んでくれる人がいるからですね。「きれいだね。」と言っている人たちを見ると、がんばってよかったなと思います。

遠山 そうそう。花を見ることで、やさしい気持ちになったり、うれしくなったりと、多くの人に喜んでもらえる空間づくりができれば、これほどうれしいことはありません。だから、これからもわたしたちは、花いっぱい公園になるように、世話を^C続けていきます。

(後略)

【正答】 2 (2) さく (3) わたしたちは

【正答率】 (2) 31.7% (3) 27.4%

【誤答類型】

- | | |
|------------------|------------|
| (2) ・ビオラの花…27.5% | ・すがた…11.8% |
| ・勇気づけられます…31.7% | ・無答…0.3% |
| (3) ・これからも…30.2% | ・公園に…3.3% |
| ・世話を…38.7% | ・無答…0.4% |

(2) に対する特徴的な誤答

○「力強く」は、「勇気づけられます」をくわしく説明しています。

→「力強く」が、「どのように」ということについて説明する修飾語であり、物事の状態を表す言葉に係ることは捉えているが、文中のどの言葉に係るのかを捉えることはできていない。



(3) に対する特徴的な誤答

○「続けていきます」の主語は、「世話を」です。

→「世話を」や「これからも」という言葉も、「続けていきます」に係る言葉であることは捉えているが、主語と述語の関係で文の構成を捉えることができていない。



このような誤答の子どもは…

言葉の働きや言葉と言葉との関係を実感的には捉えることができているが、主語－述語、修飾語－被修飾語の関係で文を正確に理解することに課題がある。

課題解決に向けて

【課題解決に役立つやまぐちっ子学習プリント】

小学校2年 ことば2 (ことばの使い方) ステップ1、2、4

小学校3年 ことば2 (修飾語) ステップ1～4

【授業改善の方策】

○自分の書いたものが、読み手に伝わる適切な表現になっているか見直すことを習慣付ける。

〈見直す際の視点〉

主語が省略されていないか

主語と述語は適切な関係か

修飾語は修飾したい言葉に適切に係っているか

など

- ・主語－述語、修飾語－被修飾語という言葉の関係を正しく捉えることは、正確な理解と適切な表現に欠かせない。誤答の状況から、表現する際も感感的に言葉を使っていることが推測される。
- ・書き言葉は、話し言葉とは異なりすぐに読み手の反応が得られないという特徴がある。このことから、書いたものを読み手になったつもりで見直すことが、より読み手に伝わる適切な表現にしていくために欠かせない。
- ・見直しをする中で、主語や述語の役割、修飾語のよさ等を意識するようになり、文中の主語－述語、修飾語－被修飾語の関係が正しく捉えられるようになると考えられる。

【学校・家庭・地域との連携】

読み手を想定して見直したものが、本当に読み手に伝わる適切な表現になったのかを評価する場として、家族や地域の人が子どもの書いたものを読む活動が考えられる。

(2) 算数

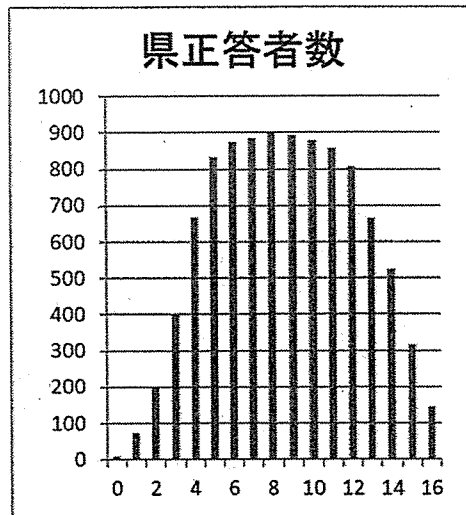
① 平均正答率、正答分布など

【第5学年】

実施児童数	9,935 人
設問数	16 問
平均正答率	54.2 %

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の内容	数と計算	4	53.2
	図形	4	56.6
	測定・変化と関係	5	60.2
	データの活用	3	42.5
評価の観点	知識・技能	7	57.6
	思考・判断・表現	9	51.6
問題形式	選択式	13	56.8
	短答式	2	47.9
	記述式	1	33.7

正答数分布グラフ
(横軸:正答数(問)、縦軸:人数(人))

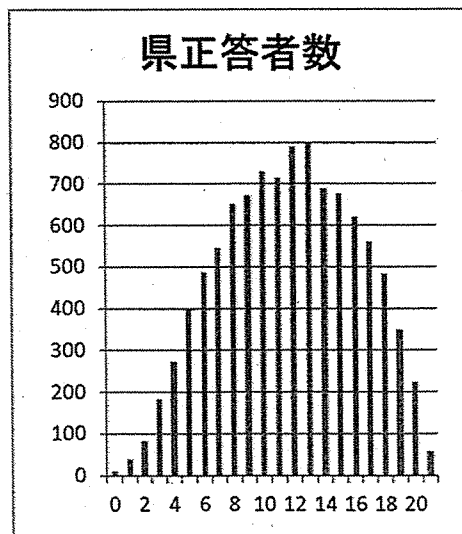


【第6学年】

実施児童数	10,044 人
設問数	21 問
平均正答率	55.6 %

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の内容	数と計算	9	59.9
	図形	5	45.9
	測定・変化と関係	5	57.7
	データの活用	2	55.0
評価の観点	知識・技能	13	60.8
	思考・判断・表現	8	47.0
問題形式	選択式	13	59.2
	短答式	7	53.3
	記述式	1	23.7

正答数分布グラフ
(横軸:正答数(問)、縦軸:人数(人))



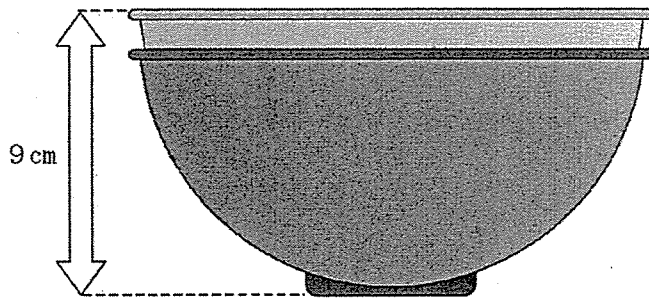
② 具体的な問題と解答状況 ー小学校第5・6学年 算数ー

○相当数の児童ができていない問題

○ 「伴って変わる二つの数量の変化や特徴を捉え、その答えを求めること」について、正答率が高い。

第5学年 2 (1)

2 給食で使った器を下図のように重ねます。器はすべて同じ大きさで、高さは8 cmです。2枚の器を重ねたとき、高さが9 cmになりました。



器の枚数と高さの関係をまとめると次の表のようになります。あとの(1)、(2)の間に答えなさい。

器の枚数 (枚)	1	2	3	4	5
高さ (cm)	8	9	10		

(1) 器の枚数が5枚のとき、全体の高さは何cmか答えましょう。

【正答】 2 (1) 12

【正答率】 82.5 %

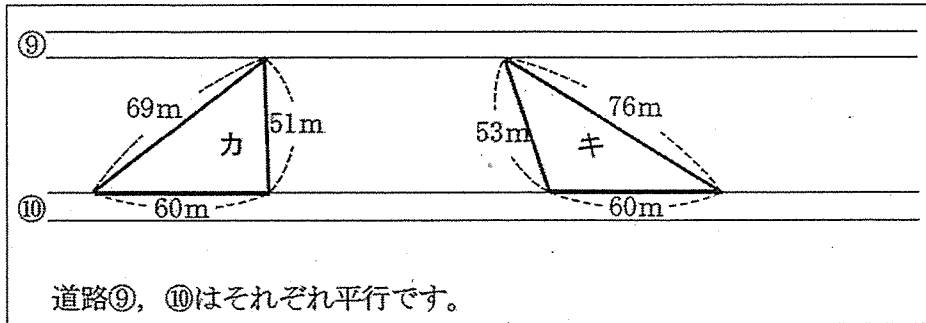
【誤答類型】 13…4.9% 45…2.6% 40…1.7% その他…7.8% 無答…0.5%

● 課題のみられる問題

- 「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に、面積の大小を判断、表現すること」について、課題が見られる。

第6学年 5 (4)

(4) 次の地図も、あいさんの町を表しています。



カとキの土地の面積について、どのようなことがわかりますか。次の中から1つ選び、A~Dの中から1つ選び、記号で答えましょう。

また、それを選んだ理由を、言葉や数を使って答えましょう。

- A カの面積のほうが大きい。
- B キの面積のほうが大きい。
- C カとキの面積は等しい。
- D カとキの面積は、このままでは比べることができない。

【正答例】 5 (4)

記号 C

記述例

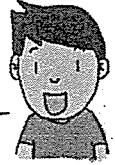
三角形の面積は、底辺×高さ÷2で求めることができます。カとキの底辺は、どちらも60mだから等しいです。カとキの高さは平行な道路⑨と道路⑩の間のはばなので、同じ長さで等しいです。だから、カとキの面積は等しいです。

【正答率】 23.7 %

【誤答類型】 A…5.2% B…21.9% C (理由が誤答)…18.0%
D…15.6% その他…15.7%

特徴的な誤答

○B キの面積のほうが大きい。



→カとキの三角形の底辺の60mが等しいことは捉えられているが、高さについての理解ができていない。そのため、なんとなく高さに見える51mと53m、あるいは69mと76mで比較した。

○C 理由が答えられていない。

【主な記述式の誤答】

- ①三角形と三角形の底辺の長さが等しいことを表す言葉や数が書かれていない。
- ②三角形と三角形の高さが等しいことを表す言葉が書かれていない。
- ③三角形の底辺が等しいことと、平行な直線の幅にあたる三角形の高さが等しいとわかっているが、高さを51mと見誤っている。



→カとキの三角形の面積が等しいことの判断はできるが、言葉や数を使って理由を説明することができない。

このような誤答の子どもは…

二つの三角形の面積を比較するため、底辺と高さを確認しなければならないことは捉えていることから、二つの平行線に対して垂直にとった幅はすべて等しくなることや、三角形の底辺と高さの関係への理解に課題があると考えられる。また、三角形の高さは、三角形の頂点から底辺に垂直に引いた直線の長さであるという理解に課題があると考えられる。

課題解決に向けて

【課題解決に役立つやまぐちっ子学習プリント】

小学校5年 やまぐちっ子学習プリント 面積ステップ4

【授業改善の方策】

- ①図形の面積の公式を理解し、活用できるようにすることが大切である。また、平行な二つの直線の幅はどこも等しいことを捉えることも大切である。

(例) 面積の公式の意味や平行と垂直の関係を理解することで、高さ^と底辺^{との}関係性が捉えられることから、面積と高さか底辺が分かれば、面積を求める公式を活用して、高さや底辺を求められることが理解できる。

- ②二つの平行線に接する底辺が等しい三角形は、面積が等しくなることを説明するために、底辺と高さの関係に視点をおくことから、図形の構成要素や平行の性質を明確にもたせることが大切である。

(例) 底辺が等しい三角形について、高さ^と面積^{との}関係を基に説明する目的で、底辺と高さ、平行と垂直の関係を捉えることから、目的に応じた論理的な思考が分かる。

【学校・家庭・地域との連携】

学習内容と生活を関連付けて考えることは、多くの情報が溢れている実社会において重要な力であることから、算数科だけでなく、様々な教科等においても機会を捉えて指導していくことが重要である。

3 中学校

(1) 国語

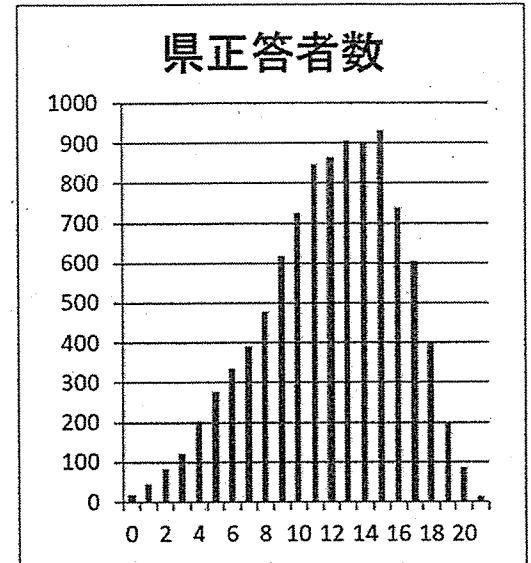
① 平均正答率、正答分布など

【第1学年】

実施生徒数	9,794 人
設問数	21 問
平均正答率	57.0 %

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)	
学習指導要領の内容	知識及び技能	9	51.6	
	思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと	4	51.9
		書くこと	4	81.9
		読むこと	4	49.4
評価の観点	知識・技能	10	54.4	
	思考・判断・表現	11	59.4	
問題形式	選択式	13	61.7	
	短答式	7	52.5	
	記述式	1	27.3	

正答数分布グラフ
(横軸:正答数(問)、縦軸:人数(人))

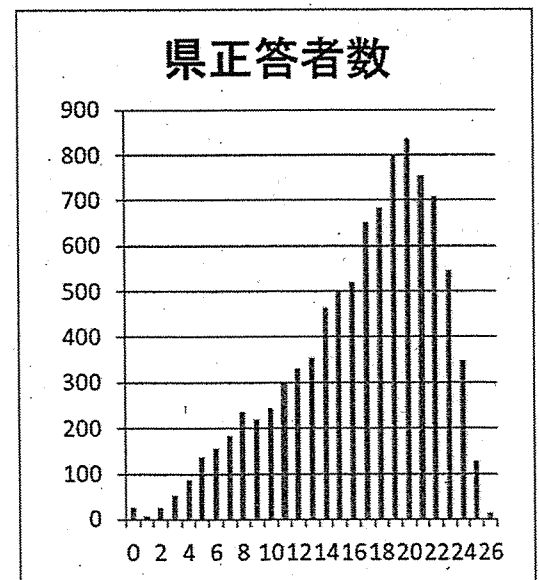


【第2学年】

実施生徒数	9,321 人
設問数	26 問
平均正答率	64.1 %

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)	
学習指導要領の内容	知識及び技能	12	56.8	
	思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと	8	72.7
		書くこと	2	48.8
		読むこと	4	76.3
評価の観点	知識・技能	12	56.8	
	思考・判断・表現	14	70.3	
問題形式	選択式	20	70.3	
	短答式	5	47.3	
	記述式	1	22.2	

正答数分布グラフ
(横軸:正答数(問)、縦軸:人数(人))



② 具体的な問題と解答状況 ー中学校第1・2学年 国語ー

○相当数の生徒ができている問題

○ 「案内状の適切な書き方を理解すること」について、正答率が高い。

第1学年 2 (1)

【案内状】の _____ 部①「海山中学校生徒会」は、何を表していますか。最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

【案内状】

令和〇年9月27日

地域のみな様

海山中学校生徒会
①

海山中学校文化祭のご案内

② みな様いかがお過ごしでしょうか。さて、このたび海山中学校文化祭を下記の通り開催します。今回は、「芸術の秋」をテーマにさまざまなプログラムを考えており、校区の小・中・高校生や地域の方も参加できる「おすすめの本の紹介会」を行う予定です。参加者を募集していますので、興味のある方はチラシを③見ましょう。地域のみな様と、素敵な秋の一日を楽しみたいと思っていますので、どうぞおさそいあわせのうえ、おこしく下さい。

記

文化祭当日は10月28日(土)です。当日の
カイジョウは8時30分、開始は9時からです。
④終了予定時刻は15時です。場所は、海山中学校
体育館と多目的ホールです。スリッパをご持参
ください。車で来る人は、グラウンドを駐車場
にしているので、気をつけてとめてください。

・受取人

・差出人

・前文

・後付け

【正答】 2 (1) 差出人

【正答率】 84.9%

【誤答類型】

・受取人…8.6%

・前文…4.8%

・後付け…1.4%

・無答…0.3%

●課題のみられる問題

- 「表現の技法について理解すること」について、課題が見られる。

第1学年 3 (2)

次の【文学的文章】は、石川さんたち3人が読んだ本の一部です。僕はジムの持っている絵具を何にたとえていますか。それを【文学的文章】の中から5文字で抜き出さない。

【文学的文章】

ふと僕は学校の友達の持っている西洋絵具を思い出しました。その友達はやはり西洋人で、しかも僕より二つぐらい年齢が上でしたから、身長は見上げるように大きい子でした。ジムというその子の持っている絵具は舶来の上等のもので、軽い木の箱の中に、12色の絵具が小さなすみのように四角な形にかためられて、二列になっていました。どの色も美しかったが、とりわけて藍と洋紅とはびっくりするほど美しいものでした。(中略) その絵具をぬると、下手な絵さえがなんだか見ちがえるように美しく見えるのです。僕はいつでもそれをうらやましいと思っていました。あんな絵具さえあれば僕だって海の景色を本当に海に見えるように描いて見せるのになあと、自分の悪い絵具を恨みながら考えました。そうしたら、その日からジムの絵具がほしくてほしくてたまらなくなりました。けれども僕はなんだか臆病(おくびょう)になってパパにもママにも買って下さいと願う気になれないので、毎日毎日その絵具のことを心の中で思いつづけるばかりで幾日か日がたちました。

(後略)

【正答】 3 (2) 小さなすみ

【正答率】 25.7%

【誤答類型】 舶来の上等…26.8%	美しいもの…3.5%	ジムの絵具…3.0%
上等のもの…2.3%	舶来…1.8%	西洋絵具…1.4%
軽い木の箱…1.3%	その他…26.8%	無答…7.4%

結果を踏まえて

【誤答の状況とそれに応じた解決の方法】

特徴的な誤答

○「僕」は、ジムの持っている絵具を「舶来の上等」にたとえています。



→ジムの絵具がどのようなものかを表す叙述に着目して読むことはできているが、その中で、「たとえる」という表現の技法を使っている叙述を捉えることができていない子どもが多いと考えられる。

このような誤答の子どもは…

さまざまな表現の技法の名称とその用法や効果を理解することに課題があると考えられる。

課題解決に向けて

【課題解決に役立つやまぐちっ子学習プリント】

中学校1年 言語事項①ステップ4、5

【授業改善の方策】

○文章を読んで感じたことを基に、表現の技法を探したり、その用法や効果を整理したりする活動を設ける。



この物語を読んで、中心人物にどのような印象をもちましたか？

とても前向きで、やりとげる力のある人物だと思いました。



そのように感じるのには、どのような表現からなのか探してみましょう。

- ・表現の技法の名称とその用法や効果を形式的に学ばせるだけでは、文脈の中で表現の技法を捉えその効果を理解したり、話や文章の中で表現の技法を使ったりすることにつながりにくい。
- ・表現の技法の効果を実感している場面で、その表現の効果と結び付けながら、表現の技法の名称や用法等を整理していくことが効果的である。

【学校・家庭・地域との連携】

表現の技法を話や文章の中で使う機会として、家族や地域の人に向けた表現活動の場が考えられる。実際に工夫して表現の技法を使うことが、その用法や効果を実感を伴って理解することにつながる。

(2) 数学

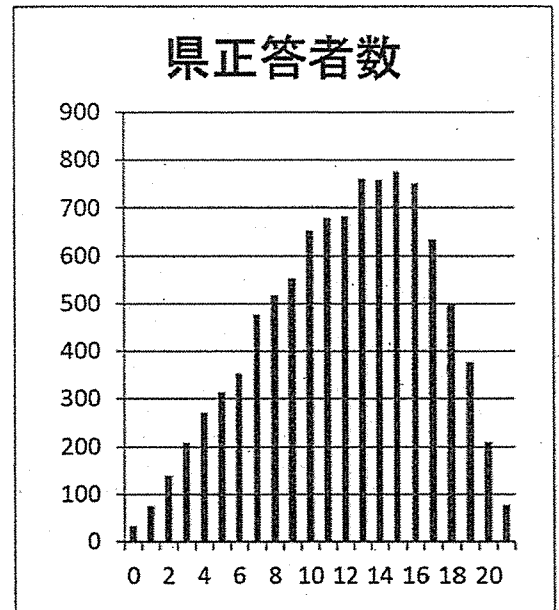
① 平均正答率、正答分布など

【第1学年】

実施生徒数	9,802 人
設問数	21 問
平均正答率	57.0 %

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の内容	数と式	8	57.2
	図形	5	60.0
	変化と関係	5	53.2
	データの活用	3	57.9
評価の観点	知識・技能	14	63.7
	思考・判断・表現	7	43.6
問題形式	選択式	7	50.5
	短答式	13	62.0
	記述式	1	37.6

正答数分布グラフ
(横軸:正答数(問)、縦軸:人数(人))

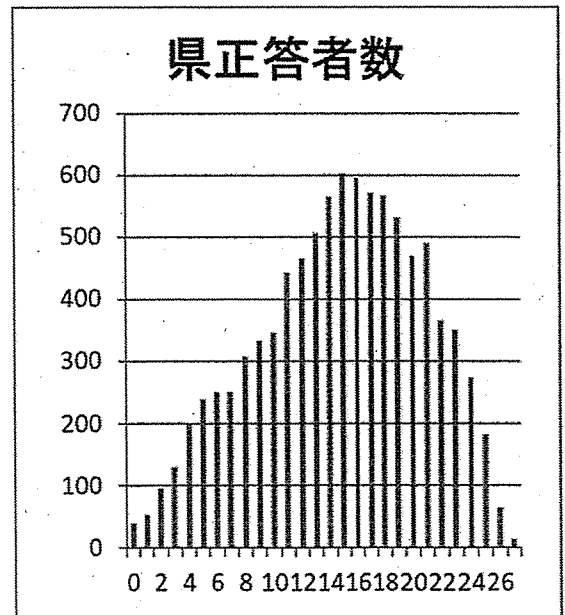


【第2学年】

実施生徒数	9,313 人
設問数	27 問
平均正答率	54.6 %

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
評価の観点	数と式	15	58.3
	図形	4	57.7
	関数	5	46.1
	データの活用	3	46.4
評価の観点	知識・技能	24	55.4
	思考・判断・表現	3	48.2
問題形式	選択式	12	47.8
	短答式	14	61.5
	記述式	1	40.0

正答数分布グラフ
(横軸:正答数(問)、縦軸:人数(人))



②具体的な問題と解答状況 —中学校第1・2学年 数学—

○相当数の生徒ができていない問題

○ 「線対称な図形について、対象の軸の本数を求めること」について、正答率が高い。

第1学年 5 (1)

(1) 下の図1は、けんじさんが見つめてきた山口県の県章(マーク)です。山口県の県章(マーク)は線対称な図形で、図2のように対称の軸を1本だけ引くことができます。

図1

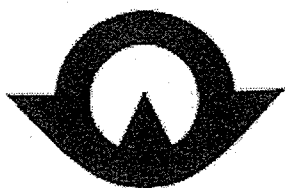
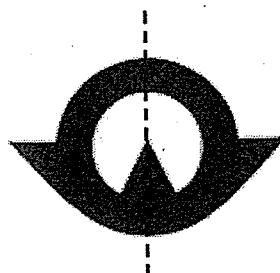


図2



下の図3は、あかりさんが見つめてきた宮崎県の県章(マーク)です。宮崎県の県章は対称の軸を何本引くことができますか、答えなさい。

図3



【正答】 5 (1) 3本
【正答率】 85.5 %

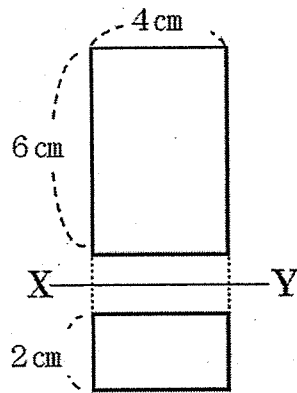
【誤答類型】 1…5.9% 2…2.8% 4…1.3% その他…3.6% 無答…0.9%

●課題のみられる問題

- 「投影図から立体の表面積について理解すること」について、課題が見られる。

第2学年 7 (2)

(2) 次の図は、直方体を投影図に表したものです。この直方体の表面積を求めなさい。



【正答】 7 (2) 88
 【正答率】 12.7 %

【誤答類型】 48…33.1% 112…12.7% 24…7.3% 32…7.0%
 12…3.1% その他…17.4% 無答…6.9%

特徴的な誤答

○投影図から、縦が2 cm、横が4 cm、高さが6 cmの直方体といえます。
縦×横×高さから
 $2 \times 4 \times 6 = 48$ となり、表面積は 48 cm^2 となります。

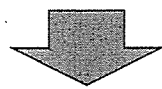


→直方体の縦、横、高さにあたる長さは捉えられているものの、表面積と体積を区別化できていない、もしくは、表面積と体積の求め方を取り違えて計算している。

○投影図から、側面は合同な長方形が4枚あるので、側面積は $4 \times 6 \times 4 = 96 \text{ cm}^2$ 。また、底面は長方形だから、底面積は $2 \times 4 = 8 \text{ cm}^2$ になります。だから、求める表面積は、 $96 + 8 \times 2 = 112 \text{ cm}^2$ です。



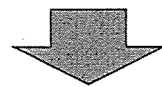
→側面積と底面積をもとに立体の表面積を求めることについては理解しているものの、直方体の側面が合同な長方形で構成されていると誤解している。



このような誤答の子どもは…

投影図の見方や直方体の形、見取り図については理解ができているものと思われる。

表面積と体積それぞれを正確に求められることについて課題があると考えられる。また、投影図や見取り図をもとに、直方体の面や辺の構成を理解し、具体的な長さが入った展開図に表していくことについて課題があると考えられる。



課題解決に向けて

【課題解決に役立つやまぐちっ子学習プリント】

やまぐちっ子学習プリント 1年「空間図形」 ステップ2・3

【授業改善の方策】

- ①立体の求積（体積や表面積）の学習場面では、見取り図や展開図など、求積に必要な図をもとにして、正しく計算できるよう支援することが大切である。特に、表面積については、合同な面の数などに着目し、立式の仕方に対する指導、支援が求められる。
- ②投影図を学習する際に、示された立体の名称を明らかにすることに加え、その見取り図や展開図を表現させることで、立体の面や辺の構成にまで着目させることが大切である。

【学校・家庭・地域との連携】

立体の表面積や体積について、算数科における指導内容について近隣の小学校教員と協議したり、実際の授業を参観したりするなど、小・中の連携を生かして学習の系統性について理解を深めていくことが求められる。

(3) 英語

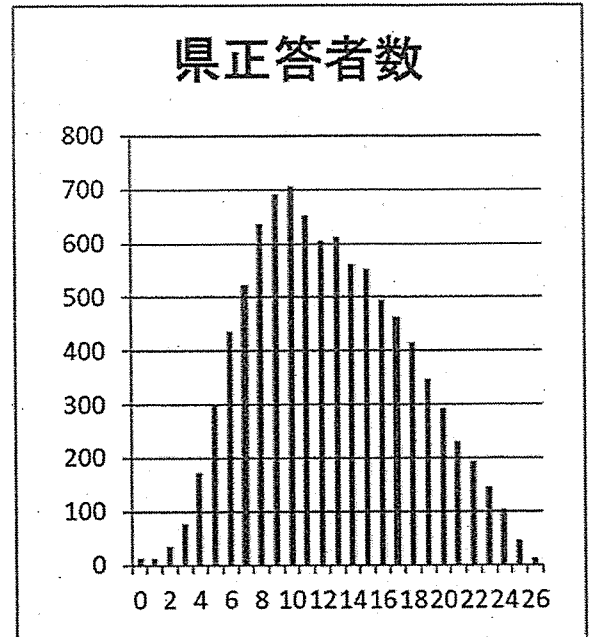
① 平均正答率、正答分布など

【第2学年】

実施生徒数	9,331 人
設問数	26 問
平均正答率	48.6 %

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の内容	聞く	8	66.0
	読む	12	51.6
	書く	6	15.8
評価の観点	知識・技能	19	54.8
	思考・判断・表現	7	34.1
問題形式	選択式	20	57.4
	短答式	2	6.8
	記述式	4	21.8

正答数分布グラフ
(横軸:正答数(問)、縦軸:人数(人))



②具体的な問題と解答状況 ー中学校第2学年 英語ー

○相当数の生徒ができていない問題

○ 「基本的な語や文法事項を理解して、会話の中で適切に使うこと」について、正答率が高い。

第2学年 4 (4)

4 次の(1)～(4)の対話が完成するように、()に入る英語として最も適切なものを、次の中から1つずつ選びなさい。

(4) A: I went to a nice Japanese restaurant yesterday.
B: Really? I want () there.
A: OK. Let's go.

1 goes 2 going 3 to go 4 went

【正答】 4 (4) 3

【正答率】 81.4 %

【誤答類型】 1… 5.1% 2…10.1%
4… 3.1% 無答…0.3%

●課題のみられる問題

- 「文脈に合うように、内容を考えて、基本的な文法事項を活用し英文を書くこと」について、課題が見られる。

第2学年 5 (2)

- 5 次の(1), (2)のそれぞれの【場面】で、()内の語を用いて必要があれば適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つ英文を完成させ、()内に3語以上で入力しなさい。

(例) 【場面】AとBが朝、学校で会話をしています。

A: I visited your house at 3:00 p.m. yesterday.

B: Really? I(play) in the park then.

[答え] was playing tennis

(2) 【場面】ミカ(M)とジョン(J)が休み時間に話しています。

M: I was looking for you, John! We had a meeting!
(be)?

J: In the library. I'm sorry. I was reading a science book.

M: Don't forget next time.

(注) look for~:~を探す meeting:会議 forget:忘れる

【正答】 5 (2)

Where were you

【正答率】 4.2 %

※設問別正答率では、県全体正答率が6.7%になっており、左枠内で示した正答率と異なります。

※理由:左枠内で示した正答以外でも、正答の条件に沿っているものを○として処理しているため。

【誤答類型】 2...Where are you 2.3%
4...being 1.1%
6...Where do you be 0.7%
8...It will be 0.6%
無答...30.6%

3...be 2.3%
5...to be 0.8%
7...Where did you be 0.6%
9...その他 56.7%

結果を踏まえて

【誤答の状況とそれに応じた解決の方法】

特徴的な誤答

① Where are you, Where do you be, Where did you be

→ 会話の流れから場所を尋ねる必要があることは理解しているが、時制に誤りがある。または be 動詞の疑問文に関する文法事項を理解していない。【正確さ】



② be, being, to be, It will be

→ 会話の流れから場所を尋ねる必要があることを理解していない。【読解力】



③ 無答

→ 問題や会話の内容を理解していない。または会話の内容は理解しているが、伝えたいことが英語で表現できない。【表現力】

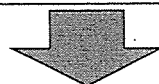


このような誤答の子どもは…

①会話の内容を把握し、疑問詞 where を用いて2人称単数の疑問文を書いているが、時制を正しく判断して文を書くことや基本的な文法事項等を理解して文を書くことに課題があると考えられる。

②会話の内容が把握できておらず、文脈に合うように内容を考えることに課題があると考えられる。

③問題や会話の内容が理解できておらず、求められていることがわからないと考えられる。または求められていることはわかるが、それを英語で表現することに課題があると考えられる。



課題解決に向けて

【課題解決に役立つやまぐちっ子学習プリント】

中1英語_05_疑問詞で始まる疑問文 中2英語_12_be 動詞の過去形／過去進行形
やまぐちっ子 DASH! 中2英語「書くこと」③

【授業改善の方策】

目的・場面・状況に応じた言語活動を行う中で、その場に適切な内容を考える機会を設定したい。また粘り強く書こうとする姿勢を身に付けさせるため、書く時間を設け、継続的に取り組ませたい。それと同時に、正確さを意識しながら基本的な語や文法事項等を身に付けさせる必要がある。

【学校・家庭・地域の連携】

家庭や地域の協力による学び直しを通して、基本的な語や文法事項等の理解を深めたい。また、ALTや地域に住んでいる外国人等に英作文を添削してもらったり、コメントをもらったりして、英語を書く力を高めたい。

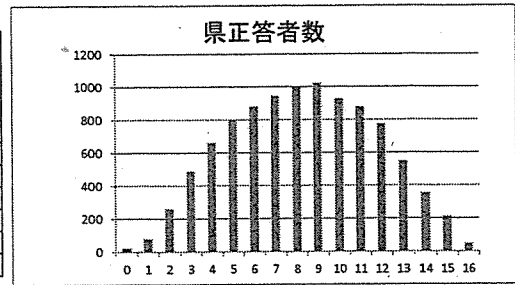
4 設問別正答率

令和5年度 学力定着状況確認問題 設問別正答率

小学校第5学年 国語

分類・区別設問数

分類	区分	対象設問数(問)	県全体正答率(%)	
学習指導要領の内容	知識及び技能	7	51.0	
	思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと	3	56.6
		書くこと	2	35.1
		読むこと	4	57.8
評価の観点	知識・技能	7	51.0	
	思考・判断・表現	9	52.4	
問題形式	選択式	15	54.0	
	短答式			
	記述式	1	19.0	



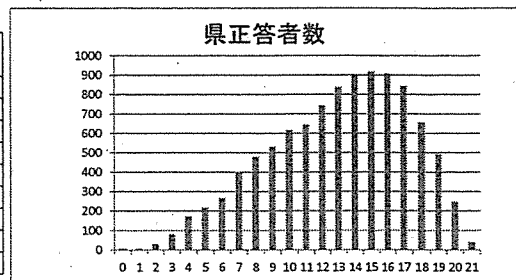
設問別集計結果

設問番号	出題の趣旨	主に学習する学年	学習指導要領の内容			評価の観点			問題形式	関連するやまぐち学習支援プログラム問題	あなたの回答結果	県全体正答率(%)
			知識及び技能	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現				
1 1 ①	文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。	5				○	○	○		小5_読む01_必要な情報の取り出し1(公民館)		47.7
1 2 ②	中心となる語や文を見付けて要約しながら読むことができるかどうかをみる。	4				○	○	○		小4_読む10_☆やまぐちっ子プラス読むこと2		48.4
1 3 ③	文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することができるかどうかをみる。	5				○	○	○		小4_読む02_「お楽しみ会のお知らせ」		62.7
1 4 ④	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。	4	○				○	○		小3_ことば06_漢字を読む2		52.5
1 5 ⑤	文章を読んで理解したことに基づき、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。	4				○	○	○		小4_読む06_「花火大会」		72.6
2 1 ⑥	必要なことを質問し、自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる。	4		○			○	○		小5_話す・聞く06_話し合い2		37.9
2 2 ⑦	文中における被修飾語を捉えることができるかどうかをみる。	3	○				○	○		小3_ことば08_修飾語4		31.7
2 3 ⑧	文中における主語、述語を捉えることができるかどうかをみる。	2	○				○	○		小2_ことば06_ことばの使い方2		27.4
2 4 ⑨	目的や意図に応じ、話の内容を捉えて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。	5		○			○	○		小5_話す・聞く09_☆やまぐちっ子プラス話すこと・聞くこと1		70.3
2 5 ⑩	目的や意図に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることができるかどうかをみる。	5		○			○	○		小5_話す・聞く01_話し方1		61.6
2 6 ⑪	【動画問題】 学年別漢字配当表に示されている漢字の筆順を理解することができるかどうかをみる。	3	○				○	○				71.7
3 1 ⑫	自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。	5			○			○				51.2
3 2 ⑬	文と文とのつながりを捉え、適切な接続語を用いることができるかどうかをみる。	4	○				○	○		小4_書く01_接続語・文末表現		70.9
3 3 ⑭	目的や意図に応じて、取材内容をもとにして、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。	4			○			○		小5_書く09_☆やまぐちっ子プラス書くこと1		19.0
3 4 ⑮	長い間使われてきた慣用語の意味を知り、日常生活でも使うことができるかどうかをみる。	3	○				○	○		小5_我が国の言語文化01_慣用語・古文		23.4
3 5 ⑯	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。	5	○				○	○		小5_言葉の特徴や使い方02_同音異義語		79.6

小学校第6学年 国語

分類・区別設問数

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)	
学習指導要領の内容	知識及び技能	10	61.7	
	思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと	4	67.4
		書くこと	4	59.9
		読むこと	3	57.5
評価の観点	知識・技能	10	61.7	
	思考・判断・表現	11	62.0	
問題形式	選択式	19	65.7	
	短答式	1	11.7	
	記述式	1	39.6	



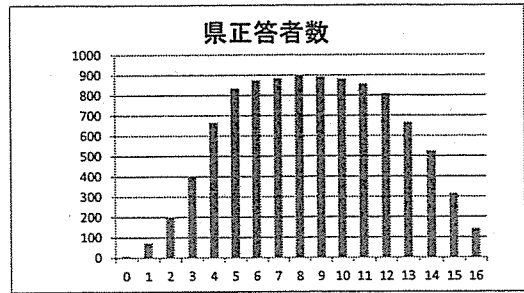
設問別集計結果

設問番号	出題の趣旨	主に学習する学年	学習指導要領の内容			評価の観点	問題形式			関連するやまぐち学習支援プログラム問題	あなたの回答結果	県全体正答率 (%)
			知識及び技能	話すこと・聞くこと	書くこと		読むこと	選択式	短答式			
1 1	① 文章全体の構成を捉え、要旨を把握できるかどうかをみる。	5				○	○	○		小6_読む03_「ユニバーサルデザイン」(尾括型の説明文)		57.4
1 2	② 段落相互の関係を捉えることができるかどうかをみる。	4				○	○	○				57.3
1 3	③ 指示する語句の役割を理解しながら読むことができるかどうかをみる。	4	○					○				11.7
1 4	④ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかをみる。	5	○			○		○				70.7
1 5	⑤ 文章を読んで理解したことをまとめることができるかどうかをみる。	4				○	○			小4_読む06_「花火大会」		58.0
1 6	⑥ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。	4	○			○		○		小5_言葉の特徴や使い方02_同音異義語2		94.6
1 7	⑦ 漢字の組み合わせについて理解することができるかどうかをみる。	4	○			○		○		小6_言葉の特徴や使い方04_熟語の成り立ち4		79.6
1 8	⑧ 慣用語の意味を理解しているかどうかをみる。	4	○			○		○				79.8
2 1	⑨ 必要なことを質問し、自分が聞きたいことの中心を捉えることができる。	4		○			○	○		小5_話す・聞く06_話し合い2		70.3
2 2	⑩ 文中における被修飾語を捉えることができるかどうかをみる。	3	○			○		○		小3_ことば08_修飾語4		59.9
2 3	⑪ 目的に応じた取材の進め方を捉えることができるかどうかをみる。	5	○				○	○		小3_話す・聞く09_☆やまぐちっ子プラス 話すこと・聞くこと1		73.7
2 4	⑫ 目的や意図に応じ、話の内容を捉えて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。	5	○				○	○		小5_話す・聞く09_☆やまぐちっ子プラス 話すこと・聞くこと1		46.6
2 5	⑬ 目的や意図に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考案することができるかどうかをみる。	5	○				○	○		小5_話す・聞く01_話し方1		78.9
2 6	⑭ 文中における主語、述語を捉えることができるかどうかをみる。	2	○			○		○		小2_ことば06_ことばの使い方2		43.7
2 7	⑮ 【動画問題】 学年別漢字配当表に示されている漢字の筆順を理解することができるかどうかをみる。	3	○			○		○				65.8
3 1	⑯ 自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。	5		○			○	○				56.4
3 2	⑰ 図や写真などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。	5		○			○	○				79.7
		5		○			○	○				63.9
3 3	⑱ 文と文とのつながりを捉え、適切な接続語を用いることができるかどうかをみる。	4	○			○		○		小4_書く01_接続語・文末表現		70.7
3 4	⑲ 目的や意図に応じて、取材内容をもとにして、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。	5		○			○	○		小5_書く07_☆やまぐちっ子プラス書くこと1		39.6
3 5	⑲ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。	4	○			○		○		小5_言葉の特徴や使い方02_同音異義語2		40.6

小学校第5学年 算数

分類・区別設問数

分類	区分	対象設問数(問)	県全体正答率(%)
学習指導要領の内容	数と計算	4	53.2
	図形	4	56.6
	測定・変化と関係	5	60.2
	データの活用	3	42.5
評価の観点	知識・技能	7	57.6
	思考・判断・表現	9	51.6
問題形式	選択式	13	56.8
	短答式	2	47.9
	記述式	1	33.7



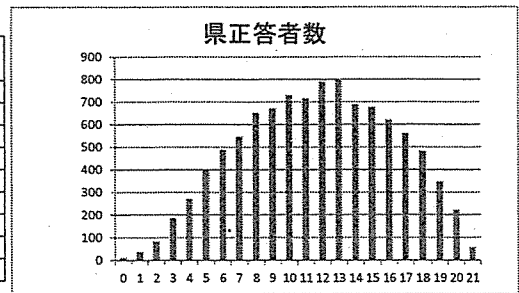
設問別集計結果

設問番号	出題の趣旨	主に学習する学年	学習指導要領の内容				評価の観点		問題形式			関連するやまぐち学習支援プログラム問題	あなたの回答結果	県全体正答率(%)
			数と計算	図形	測定・変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式			
1	(1) 1) 整数-小数の計算をすることができる。	4	○				○	○				小4_数と計算_04_小数(2)		46.4
	(2) 2) 整数÷小数のわり算をし、商とあまりを正しく求めることができる。	5	○				○	○				小5_数と計算_03_小数		43.7
2	(1) 3) 伴って変わる二つの数量の変化や特徴をとらえ、その答えを求めることができる。	4			○		○			○		小4_変化と関係_21_☆やまぐちっ子プラス変化と関係2		82.5
	(2) 4) 伴って変わる二つの数量の変化や特徴をとらえ、その答えを求める式を立てることができる。	4			○		○	○				小4_変化と関係_21_☆やまぐちっ子プラス変化と関係2		47.5
3	5) 帯分数の意味を理解し、数直線図に表すことができる。	4	○				○	○				小4_数と計算_05_分数		69.7
4	(1) 6) ひし形の性質について正しく理解している。	4		○			○	○				小4_図形_10_四角形		56.1
	(2) 7) 解き方の説明の文に合った、複合図形の面積を求める式を立てることができる。	4		○			○	○				小4_図形_09_面積		72.0
	(3) 8) 平行四辺形の性質を正しく理解している。	4		○			○			○		小4_図形_10_四角形		33.7
5	(1) 9) 示された場面において必要な情報を使って計算し、数量の関係を捉えることができる。	4			○		○	○				小4_変化と関係_23_割合		61.0
	(2) 10) 比較量と基準量を使って、割合を求めることができる。	4			○		○	○				小4_変化と関係_23_割合		52.3
	(3) 11) 必要な基準量や比較量、割合を理解し、それらを使って答えを求めることができる。	4			○		○	○				小4_変化と関係_23_割合		57.7
6	(1) 12) 「上から○桁の概数」という意味を理解し、読み取った数値を概数で表すことができる。	4	○				○	○				小4_数と計算_02_およその数		52.9
	(2) 13) それぞれのグラフの目盛りに着目し、グラフを正しく読み取ることができる。	4				○		○	○			小4_データの活用_16_☆やまぐちっ子プラスデータの活用		74.7
	(3) 14) 目的に応じて集めたデータを二つの観点から、分類整理することができる。	4				○		○		○		小4_データの活用_22_☆やまぐちっ子プラスデータの活用2		13.3
	(4) 15) グラフの目盛りやグラフが表す事柄を正しく読み取ることができる。	3				○		○	○			小3_データの活用_16_☆やまぐちっ子プラスデータの活用		39.6
7	16) 【動画問題】動画を観て、折り紙を切り開いたときにできる形を多角形の性質をもとに判断することができる。	3		○			○	○				小3_図形_09_三角形と角		64.6

小学校第6学年 算数

分類・区別設問数

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の内容	数と計算	9	59.9
	図形	5	45.9
	測定・変化と関係	5	57.7
	データの活用	2	55.0
評価の観点	知識・技能	13	60.8
	思考・判断・表現	8	47.0
問題形式	選択式	13	59.2
	短答式	7	53.3
	記述式	1	23.7



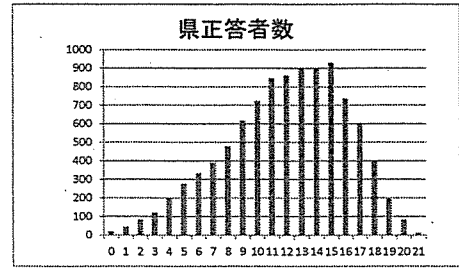
設問別集計結果

設問番号	出題の趣旨	主に学習する学年	学習指導要領の内容				評価の観点			問題形式			関連するやまぐち学習支援プログラム問題	あなたの回答結果	県全体正答率 (%)
			数と計算	図形	測定・変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式				
1	(1) 1) 小数+小数の計算をすることができる。	4	○				○	○				小4_数と計算_04_小数(2)		84.4	
	(2) 2) 整数-小数の計算をすることができる。	4	○				○	○				小4_数と計算_04_小数(2)		72.0	
	(3) 3) 整数、分数、小数の乗法、除法の計算をすることができる。	6	○				○		○			小6_数と計算_02_わり算(3)		57.1	
	(4) 4) 整数÷小数のわり算をし、商とあまりを正しく求めることができる。	5	○				○		○			小5_数と計算_03_小数		42.5	
	(5) 5) 計算の順序に気を付けて、四則計算をすることができる。	4	○				○			○		小4_数と計算_07_式と計算の順じよ		71.2	
	(6) 6) 分数の意味を理解している。	5	○				○		○			小5_数と計算_04_分数		70.3	
2	(1) 7) 目的に応じた適切な見積もりの方法を考えることができる。	4	○					○		○		小4_数と計算_19_☆やまぐちっ子プラス		28.7	
	(2) 8) 分配法則を理解し、場に応じた使い方ができる。	4	○					○		○		小4_数と計算_07_式と計算の順じよ		26.9	
	(3) 9) 計算結果をもとに、題意に即した判断をすることができる。	4	○					○	○			小4_数と計算_19_☆やまぐちっ子プラス		85.7	
3	(1) 10) 百分率で表された割合について、等しい割合を理解している。	5		○				○		○		小5_変化と関係_13_割合		66.1	
	(2) 11) 複数の図や表から、必要な情報を読み取ることができる。	5				○		○	○			小5_データ活用_19_☆やまぐちっ子プラスデータ活用		67.6	
	(3) 12) 情報を表に整理し、条件に合う数を見つけることができる。	4				○		○		○		小4_データ活用_16_☆やまぐちっ子プラスデータ活用		42.5	
4	(1) 13) 基準量と比較量をもとに、割合を求めることができる。	4			○			○		○		小4_変化と関係_23_割合		79.7	
	(2) 14) 値上げされた金額の求め方を理解している。	4			○			○		○		小5_変化と関係_24_☆やまぐちっ子プラス変化と関係2		57.9	
	(3) 15) 値上げされた2つの数量について、割合に着目して比べ、より値上げされた数量を求めることができる。	5			○			○	○			小4_変化と関係_17_☆やまぐちっ子プラス変化と関係		32.4	
	(4) 16) 量が変わっても、割合は変わらないことを理解している。	5			○			○		○		小5_変化と関係_28_☆やまぐちっ子プラス変化と関係3		52.4	
5	(1) 17) 長方形のたてと横を見つけ、面積を求めることができる。	4		○				○		○		小4_図形_09_面積 小5_図形_27_☆やまぐちっ子プラス図形3		67.2	
	(2) 18) 平行四辺形の高さと面積を見つけ、底辺を求める式を理解している。	5					○		○			小5_図形_06_面積 小5_図形_27_☆やまぐちっ子プラス図形3		19.4	
	(3) 19) 平行四辺形の性質を理解している。	4		○				○		○		小4_図形_10_四角形 小5_図形_27_☆やまぐちっ子プラス図形3		50.4	
(4) 20) 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に、面積の大小を判断、表現する。	5		○					○		○		小5_図形_06_面積		23.7	
6	21) 【動画問題】動画を観て、折り紙を切り開いたときにできる形を多角形の性質をもとに判断する。	5						○	○			小5_図形_23_☆やまぐちっ子プラス図形2		68.7	

中学校第1学年 国語

分類・区分別設問数

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)	
学習指導要領の内容	知識及び技能	9	51.6	
	思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと	4	51.9
		書くこと	4	81.9
		読むこと	4	49.4
評価の観点	知識・技能	10	54.4	
	思考・判断・表現	11	59.4	
問題形式	選択式	13	61.7	
	短答式	7	52.5	
	記述式	1	27.3	

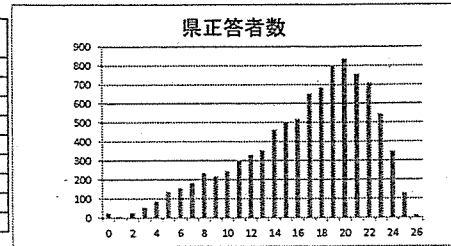


設問別集計結果

設問番号	出題の趣旨	主に学習する学年	学習指導要領の内容			評価の観点		問題形式			関連するやまぐち学習支援プログラム問題	あなたの回答結果	県全体正答率 (%)
			知識及び技能	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式			
1 1	① 部首(くさかんむり)について理解できるかどうかをみる。	小3・4	○				○		○				85.2
1 2	② 【動画問題】 兼順(うまへん)について理解できるかどうかをみる。	小2	○				○		○				55.7
1 3	③ 自分の考えが相手にわかりやすく伝わるように、構成を工夫して話すことができるかどうかをみる。	中1		○				○	○		小5 話す・聞く2 (スピーチ) ステップ3		56.5
1 4	④ 聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することができるかどうかをみる。	中1		○				○	○		やまぐちっ子学習プリントプラス 中1 話す・聞く		55.3
1 5	⑤ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる。	中1		○				○	○		やまぐちっ子学習プリント中1 話す・聞く③ ステップ2		68.5
1 6	⑥ 必要なことを質問しながら聞くことができるかどうかをみる。	中1		○				○		○			27.3
2 1	⑦ 案内状の適切な書き方を理解することができるかどうかをみる。	中1			○			○	○		やまぐちっ子学習プリントプラス 中1 書く		84.9
2 2	⑧ 手節にあった適切な言葉を使うことができるかどうかをみる。	中1			○			○	○				91.0
2 3	⑨ 同音異義語(開場)を理解できるかどうかをみる。	小5・6		○				○	○		小5 ことば1 (同音異義語) ステップ1~2		40.5
2 4	⑩ 意図に応じて書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。	小5・6			○			○	○				79.5
2 5 (1)	⑪ 段落相互の関係に注意して文章を構成することができるかどうかをみる。	中1			○			○	○				72.3
2 5 (2)	⑫ 相手に応じて、適切な敬語を理解し使うことができるかどうかをみる。	小5・6			○				○		小5 ことば3 (敬語) ステップ3~4		54.8
3 1	⑬ 文節について理解することができるかどうかをみる。	中1			○				○				73.1
3 2	⑭ 表現の技法について理解することができるかどうかをみる。	中1			○				○				25.7
3 3	⑮ 語句の文脈上の意味を理解することができるかどうかをみる。	中1			○				○				73.4
3 4 (1)	⑯ 熟語の構成について理解することができるかどうかをみる。	小5・6			○				○				26.0
3 4 (2)	⑰ 叙述を基に、人物の心情を捉えることができるかどうかをみる。	中1				○			○				31.2
3 4 (3)	⑱ 場面の展開をふまえて、人物の心情を捉えることができるかどうかをみる。	中1				○			○				53.4
3 4 (4)	⑲ 登場人物の相互関係について叙述をもとに捉えることができるかどうかをみる。	中1				○			○				70.5
3 4 (5)	⑳ 同音異義語(対照)を理解できるかどうかをみる。	小5・6			○				○		小5 ことば1 (同音異義語) ステップ1~2		30.4
3 4 (6)	㉑ 場面と情景を結びつけて内容を解釈することができるかどうかをみる。	中1				○			○				42.3

分類・区別設問数

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
学習指導要領の内容	知識及び技能	12	56.8
	話すこと・聞くこと	8	72.7
	思考力・判断力・表現力等	2	48.8
	書くこと 読むこと	4	76.3
評価の観点	知識・技能	12	56.8
	思考・判断・表現	14	70.3
問題形式	選択式	20	70.3
	短答式	5	47.3
	記述式	1	22.2



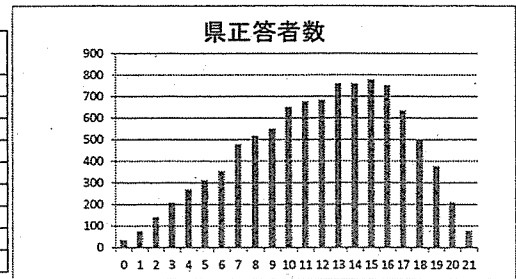
設問別集計結果

設問番号	出題の趣旨	主に学習する学年	学習指導要領の内容				評価の観点				問題形式	関連するやまぐち学習支援プログラム	あなたの回答結果	県全体正答率 (%)	
			知識及び技能	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式					記述式
1 1 ①	短文の区切れについて理解することができるかどうかをみる。	中1	○												24.6
1 2 ②	歴史的仮名遣いについて理解することができるかどうかをみる。	中1	○										中1 古典ステップ2		34.3
1 3 ③	短文に挟まれている情報を捉えることができるかどうかをみる。	中1					○		○	○					80.2
1 4 ④	表現技法を理解することができるかどうかをみる。	中1	○						○	○			中1 言語文化②ステップ5		75.8
1 5 ⑤	短文の表現の特徴を捉えることができるかどうかをみる。	中1					○		○	○					77.3
1 6 ⑥	自分の考えが伝わるように、視点を明確にして話すことができるかどうかをみる。	中1		○					○	○			小5 話す・聞く2 (話し合い) ステップ1~2 小6 話す・聞く3 (話し合い) ステップ1~4		56.4
1 7 ⑦	互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるかどうかをみる。	中1		○					○	○			小5 話す・聞く2 (話し合い) ステップ1~2 小6 話す・聞く3 (話し合い) ステップ1~4		79.2
1 8 ⑧	立場を明確にしながら、話し合うことができるかどうかをみる。	小5・6		○					○	○			小5 話す・聞く2 (話し合い) ステップ1~2 小6 話す・聞く3 (話し合い) ステップ1~4		67.3
2 1 ⑨	自分の考えが伝わるように、話し方を工夫することができるかどうかをみる。	小3・4		○					○	○			小5 話す・聞く2 (話し合い) ステップ1~2 小6 話す・聞く3 (話し合い) ステップ1~4		79.6
2 2 ⑩	相手の発言を受けて、話をつなぐことができるかどうかをみる。	小3・4		○					○	○			小5 話す・聞く2 (話し合い) ステップ1~2 小6 話す・聞く3 (話し合い) ステップ1~4		84.5
2 3 ⑪	立場を明確にしながら、話し合うことができるかどうかをみる。	中1		○					○	○			小5 話す・聞く2 (話し合い) ステップ1~2 小6 話す・聞く3 (話し合い) ステップ1~4		70.2
2 4 ⑫	司会の役割を果たしながら話し合うことができるかどうかをみる。	小3・4		○					○	○			小5 話す・聞く2 (話し合い) ステップ1~2 小6 話す・聞く3 (話し合い) ステップ1~4		85.1
2 5 ⑬	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わりやすいように工夫することができるかどうかをみる。	小5・6		○					○	○					59.5
2 6 ⑭	【動画問題】 行書の特徴を理解することができるかどうかをみる。	中1	○						○	○					71.0
3 1 ⑮	主語、述語の関係を理解することができるかどうかをみる。	小1・2	○						○	○					69.7
3 2 ⑯	叙述を基に、文章の大体を捉えることができるかどうかをみる。	中1					○		○	○					76.3
3 3 ⑰	熟語の構成について理解することができるかどうかをみる。	小5・6							○	○			小6 ことば1 (熟語の成り立ち) ステップ1~4		53.4
3 4 ⑱	文の構成を理解することができるかどうかをみる。	中1		○					○	○					20.3
3 5 ⑲	指示語を理解することができるかどうかをみる。	小3・4		○					○	○			中1 言語文化②ステップ5		40.8
3 6 ⑳	学年別配当漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。	小5・6		○					○	○					63.9
3 7 ㉑	段落相互の関係を捉えることができるかどうかをみる。	小5・6					○		○	○					71.5
3 8 ㉒	情報と情報との関係を整理して捉えることができるかどうかをみる。	中1		○					○	○					69.5
4 1 ㉓	図などから分かることを文章にまとめることができるかどうかをみる。	中2			○				○	○			小6 読む1 (資料活用) ステップ2		22.2
4 2 ㉔	接続する語句を正しく使うことができるかどうかをみる。	小5・6		○					○	○					88.1
4 3 ㉕	情報と情報との関係を捉えることができるかどうかをみる。	中1		○					○	○					69.7
4 4 ㉖	意図に応じて、文章を推敲することができるかどうかをみる。	中1		○					○	○					75.4

中学校第1学年 数学

分類・区別設問数

分類	区分	対象設問数(問)	県全体正答率(%)
学習指導要領の内容	数と式	8	57.2
	図形	5	60.0
	変化と関係	5	53.2
	データの活用	3	57.9
評価の観点	知識・技能	14	63.7
	思考・判断・表現	7	43.6
問題形式	選択式	7	50.5
	短答式	13	62.0
	記述式	1	37.6



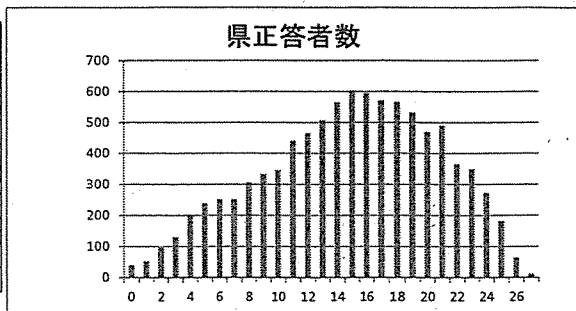
設問別集計結果

設問番号	出題の趣旨	主に学習する学年	学習指導要領の内容				評価の観点		問題形式			関連するやまぐち学習支援プログラム問題	あなたの回答結果	県全体正答率(%)
			数と式	図形	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式			
1 (1) 1)	分数の加法の計算ができる	小5	○				○		○			小5__分数		81.1
(2) 2)	小数の除法の計算ができる	小5	○				○		○			小5__小数(2)		75.4
(3) 3)	きまりにしたがって計算できる	1	○				○		○			1年__正の数・負の数		53.9
(4) 4)	正の数・負の数の和・差と数の集合について理解している	1	○				○	○				1年__正の数・負の数		67.3
(5) 5)	自然数の意味を理解している	1	○				○	○				1年__正の数・負の数		58.0
2 (1) 6)	一次式の減法の計算ができる	1	○				○		○			1年__文字を用いた式		43.6
(2) 7)	日常の場面で、最大公約数を活用できる	小5	○					○	○			小5__倍数・約数		21.5
(3) 8)	場合の数を求めることができる	小6				○	○		○			小6__場合の数		59.5
(4) 9)	符号の意味をとらえ、数量を求めることができる	1	○					○	○			1年__正の数・負の数		56.9
3 (1) 10)	平行四辺形の面積を求めることができる	小5		○			○		○			小5__面積		72.4
(2) 11)	条件に合う線分の長さを求めることができる	小5		○				○	○			小5__面積		23.0
(3) 12)	正多角形をかく手順を理解し、条件に合う正多角形が求められる	小5		○			○		○			小5__円と正多角形		55.0
(4) 13)	円柱の展開図において、長さや面積の関係を理解している	小5		○			○		○			小5__角柱と円柱		64.0
4 (1) 14)	ドットプロットから、度数を求めることができる	小6				○	○		○			小6__資料の調べ方		71.8
(2) 15)	ドットプロットや度数分布表から、データの特徴を読み取ることができる	小6				○	○		○			小6__資料の調べ方		42.3
5 (1) 16)	線対称な図形について、対象の軸の本数を求めることができる	小6		○			○		○			小6__対称な図形		85.5
(2) 17)	条件に合う比の関係となる長さを求めることができる	小6		○			○		○			小6__比		47.2
6 18)	比例の意味を理解し、説明することができる	小6		○				○	○			小6__やまぐち子プラス変化と関係2		37.6
7 (1) 19)	問題場面における数量の関係をとらえることができる	1		○			○		○			1年__やまぐち子プラス文字を用いた式		82.1
(2) 20)	数量の関係をとらえ、条件に合う数量を求めることができる	1		○				○	○			1年__やまぐち子プラス文字を用いた式		67.2
8 21)	【動画問題】割合の意味を理解し、実生活の場面に活用できる	小5		○			○	○				小5__割合		31.9

中学校第2学年 数学

分類・区別設問数

分類	区分	対象設問数 (問)	県全体正答率 (%)
評価の観点	数と式	15	58.3
	図形	4	57.7
	関数	5	46.1
	データの活用	3	46.4
評価の観点	知識・技能	24	55.4
	思考・判断・表現	3	48.2
問題形式	選択式	12	47.8
	短答式	14	61.5
	記述式	1	40.0

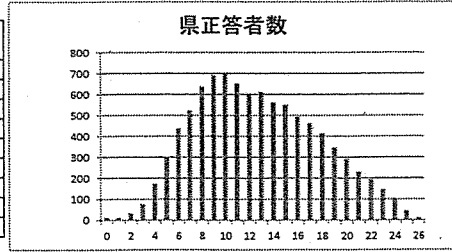


設問別集計結果

設問番号	出題の趣旨	主に学習する学年	学習指導要領の内容				評価の観点			問題形式			関連するやまぐち学習支援プログラム問題	あなたの回答結果	県全体正答率 (%)
			数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式				
1 (1) 1)	分数の加法の計算ができる	小5	○				○			○			小5_分数		81.0
(2) 2)	計算のきまりにしたがって計算することができる	中1	○				○			○			1年_正の数・負の数		81.8
(3) 3)	一次式の減法の計算ができる	中1	○				○			○			1年_文字を用いた式		60.2
(4) 4)	正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解している	中1	○				○			○			1年_正の数・負の数		82.4
(5) 5)	自然数の意味を理解している	中1	○				○		○				1年_正の数・負の数		44.5
2 (1) 6)	単項式の除法の計算ができる	中2	○				○			○			2年_式の計算		55.0
(2) 7)	多項式の減法の計算ができる	中2	○				○			○			2年_式の計算		54.2
(3) 8)	条件に合う数量を文字を用いて表すことができる	中2	○				○			○			2年_文字式の利用		35.2
(4) 9)	数量を文字を用いて表すことができる	中2	○				○		○				2年_式の計算		32.5
(5) 10)	文字を用いた式が表している数量を読み取ることができる	中1	○				○		○				1年_文字を用いた式		28.6
(6) 11)	場合の数を求めることができる	小6				○	○			○			小6_場合の数		57.9
3 (1) 12)	二元一次方程式の解の個数の意味を理解している	中2	○				○		○				2年_連立方程式		49.9
(2) 13)	問題場面に合う一次方程式を作ることができる	中1	○				○		○				1年_方程式		51.2
(3) 14)	比例式を理解して、式を作り解くことができる	中1	○				○			○			1年_方程式		73.8
4 (1) 15)	連立方程式の式の意味を理解している	中2	○				○			○			2年_やまぐちっ子プラス連立方程式		65.0
(2) 16)	連立方程式を解くことができる	中2	○				○			○			2年_やまぐちっ子プラス連立方程式		79.7
5 (1) 17)	反比例の式を理解している	中1		○			○			○			1年_比例・反比例		81.5
(2) 18)	反比例のグラフの特徴を理解している	中1		○			○		○				1年_比例・反比例		44.7
(3) 19)	日常事象を比例とみなして、関係性を見つることができる	中1		○			○		○				1年_比例・反比例		55.8
6 (1) 20)	垂線の作図方法を理解している	中1			○		○		○				1年_平面図形		17.5
(2) 21)	回転移動を理解している	中1			○		○		○				1年_平面図形		65.1
7 (1) 22)	投影図を理解している	中1			○		○		○				1年_空間図形		82.6
(2) 23)	投影図から立体の表面積を求めることができる	中1			○		○			○			1年_空間図形		12.7
(3) 24)	空間図形の直線の関係について理解している	中1			○		○		○				1年_空間図形		52.6
8 (1) 25)	度数分布表から中央値を求めることができる	中1				○	○			○			1年_データの活用		41.2
(2) 26)	ヒストグラムを使って、理由を説明することができる	中1				○	○			○			1年_やまぐちっ子プラス データの活用		40.0
9 (1) 27)	【動画問題】 円周の長さから半径を使って、円の面積を示す式に表すことができる	中1		○			○		○				1年_平面図形		48.7

分類・区別設問数

分類	区分	対象設問数(問)	県全体正答率(%)
学習指導要領の内容	聞く	8	66.0
	読む	12	51.6
	書く	6	15.8
評価の観点	知識・技能	19	54.8
	思考・判断・表現	7	34.1
問題形式	選択式	20	57.4
	短答式	2	6.8
	記述式	4	21.8



設問別集計結果

設問番号	出題の趣旨	主に学習する学年	学習指導要領の内容			評価の観点	問題形式			関連するやまぐちっ子プラスプログラム問題	あなたの回答結果	県全体正答率(%)
			聞く	読む	書く		選択式	短答式	記述式			
1 (1) ①	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる。	1	○			○	○		中1英語_05_疑問詞で始まる疑問文		71.2	
1 (2) ②	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる。	1	○			○	○		中1英語_02_一般動詞		63.3	
1 (3) ③	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる。	2	○			○	○		中2英語_02_接続詞		71.6	
2 (1) ④	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる。	1	○			○	○		中1英語_05_疑問詞で始まる疑問文		61.9	
2 (2) ⑤	日常的な話題について、情報を正確に聞き取り、適切に応答することができる。	1	○			○	○		中1英語_06_代名詞		77.7	
2 (3) ⑥	まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を聞き取ることができる。	1	○			○	○		中1英語_07_命令文		47.5	
3 (1) ⑦	まとまりのある英語を聞いて、話の概要を聞き取ることができる。	1	○			○	○		中1英語_10_過去形 中1英語_11_不規則動詞の過去形		79.1	
3 (1) ⑧	聞いて把握した内容について、適切に対話を続けることができる。	1	○			○	○		中1英語_10_過去形 中1英語_11_不規則動詞の過去形		55.4	
3 (2) ⑨	聞いて把握した内容について、適切なアドバイスを書くことができる。	2		○		○		○	中2英語_12_☆やまぐちっ子プラス書くこと(ALTの先生とのやりとり)		11.6	
4 (1) ⑩	基本的な語や文法事項を理解して、会話の中で適切に使うことができる。	2		○		○	○		中2英語_01_未来の文		52.8	
4 (2) ⑪	基本的な語や文法事項を理解して、会話の中で適切に使うことができる。	2		○		○	○		中2英語_01_未来の文		79.5	
4 (3) ⑫	基本的な語や文法事項を理解して、会話の中で適切に使うことができる。	2		○		○	○		中2英語_02_接続詞		44.9	
4 (4) ⑬	基本的な語や文法事項を理解して、会話の中で適切に使うことができる。	2		○		○	○		中2英語_03_to不定詞/動名詞		81.4	
5 (1) ⑭	文脈に合うように、内容を考えて、基本的な文法事項を活用し英文を書くことができる。	1		○		○	○		中1英語_05_疑問詞で始まる疑問文		6.9	
5 (2) ⑮	文脈に合うように、内容を考えて、基本的な文法事項を活用し英文を書くことができる。	1		○		○	○		中1英語_12_be動詞の過去形/過去進行形		6.7	
6 (1) ⑯	表や資料に示された内容を読んで、必要な情報を読み取ることができる。	2		○		○	○		中2英語_16_☆やまぐちっ子プラス読むこと(必要な情報を読み取る)		54.5	
6 (2) ⑰	表や資料に示された内容を読んで、概要を読み取ることができる。	2		○		○	○		中2英語_15_☆やまぐちっ子プラス読むこと(概要を捉える)		63.0	
7 (1) ⑱	身近な話題に関するまとまりのある英語を読んで、情報を正確に読み取ることができる。	2		○		○	○		中2英語_16_☆やまぐちっ子プラス読むこと(必要な情報を読み取る)		57.0	
7 (2) ⑲	身近な話題に関するまとまりのある英語を読んで、話の要点を読み取ることができる。	2		○		○	○		中2英語_18_☆やまぐちっ子プラス読むこと(要点を捉える2)		18.8	
8 (1) ⑳	社会的な話題に関するまとまりのある英語を読んで、情報を正確に読み取ることができる。	2		○		○	○		中2英語_16_☆やまぐちっ子プラス読むこと(必要な情報を読み取る)		47.4	
8 (2) ㉑	社会的な話題に関するまとまりのある英語を読んで、話の要点を読み取ることができる。	2		○		○	○		中2英語_17_☆やまぐちっ子プラス読むこと(要点を捉える1)		29.2	
8 (3) ㉒	社会的な話題に関するまとまりのある英語を読んで、話の概要を読み取ることができる。	2		○		○	○		中2英語_15_☆やまぐちっ子プラス読むこと(概要を捉える)		27.4	
9 (1) ㉓	身近な話題に関するまとまりのある英語を読んで、話の要点を読み取り、適切な立場を表すことができる。	2		○		○	○		中2英語_11_☆やまぐちっ子プラス読むこと書くこと(日本のお正月)		63.8	
9 (2) ㉔	身近な話題に関するまとまりのある英語を読んで、把握した内容について、まとまりのある英文を書くことができる。	2		○		○	○	○	中2英語_14_☆やまぐちっ子プラス読むこと書くこと		17.5	
10	【動画問題】 動画に合うように、内容を考えて、基本的な文法事項を活用し、英文を書くことができる。	2		○		○	○		中1英語_08_現在進行形		36.4	
		2		○		○	○					

Ⅲ 児童生徒質問紙調査の結果

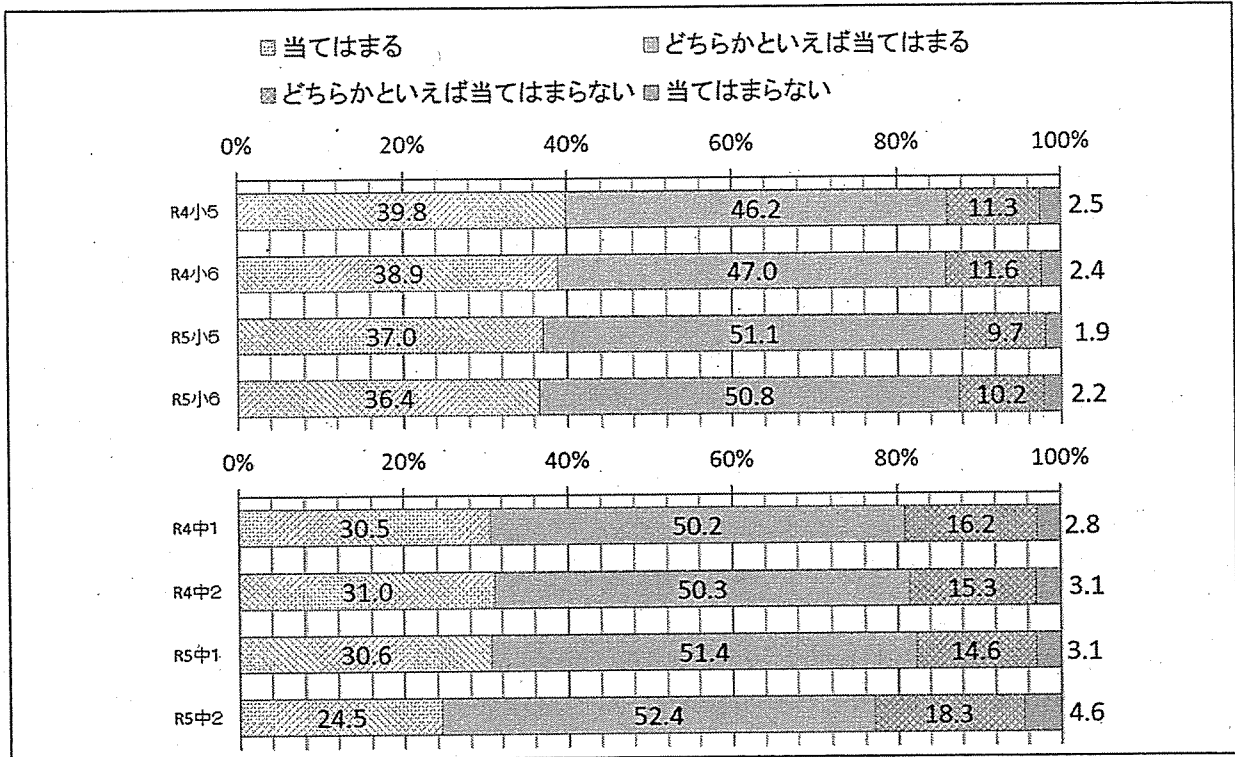
質問 番号	質問項目
1	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる こと（振り返り）ができていると思う。
2	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思う。
3	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、 話の組み立てなどを工夫して発表していると思う。
4	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりするこ とができていると思う。
5	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発 表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。
6	<input checked="" type="checkbox"/> 自分には、よいところがあると思う。
7	国語の勉強が好きだ。
8	算数の勉強が好きだ。（小） 数学の勉強が好きだ。（中）
9	社会の勉強が好きだ。
10	理科の勉強が好きだ。
11	英語の勉強が好きだ。
12	あなたは学校で、コンピューターなどのICT機器を、学級の友達と意見を交換する場 面で、どの程度使用していますか。
13	あなたは学校で、コンピューターなどのICT機器を、自分の考えをまとめ、発表する場 面で、どの程度使用していますか。
14	やまぐちっ子学習プリントなどのやまぐち学習支援プログラムを、どの程度使用して いますか。
15	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉 強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、 インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます。）
16	<input checked="" type="checkbox"/> 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。
17	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含みます）。
18	読書は好きですか。
19	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。
20	今住んでいる地域の行事に参加していますか。
21	地域の人々と話し合う場（熟議）に参加して、発言したことがありますか。
22	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
23	<input checked="" type="checkbox"/> あなたの学校では、保護者や地域の人々が参加して新体力テストを行うなど、家庭 と地域が一緒になって体力向上の取組を進めていますか。

Ⅲ 児童生徒質問紙調査の結果 (○：成果 △：一部成果 ●：課題)

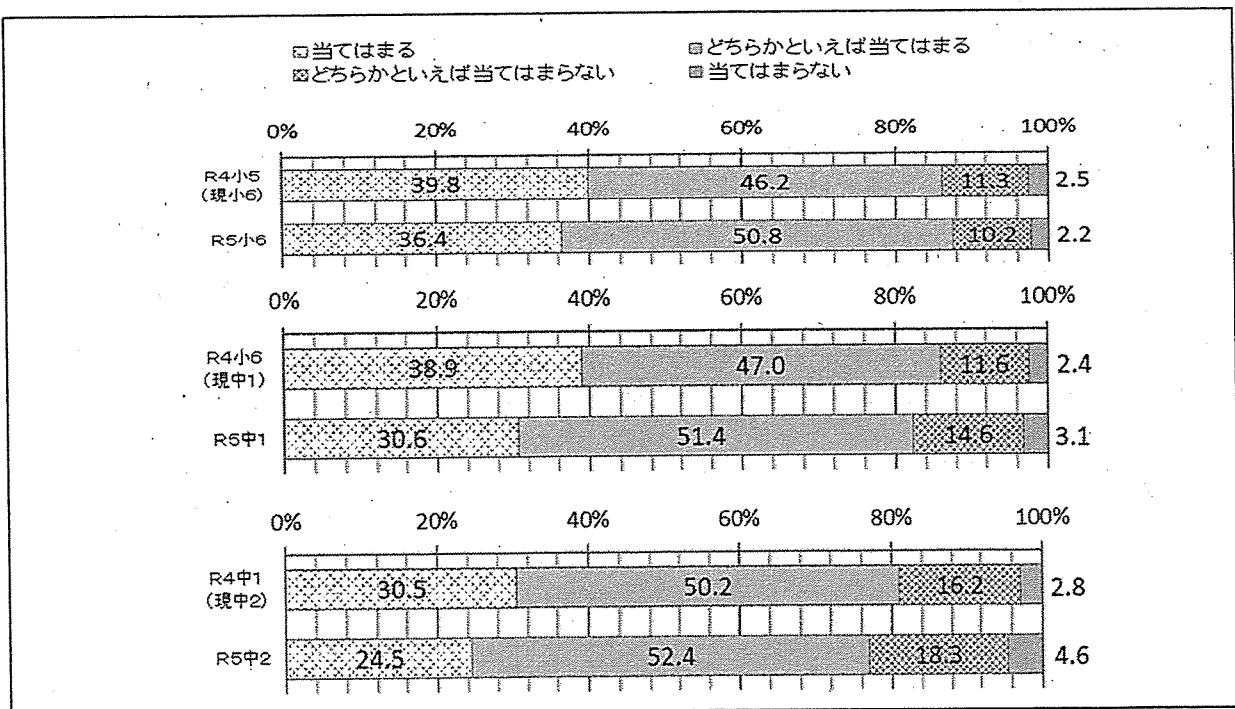
【質問1】学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し(振り返り)、次の学習につなげることができていると思う。

● 「当てはまる」と回答した割合を、学年ごとに昨年度と比較すると、中学校1年生以外の学年で減少している。

【令和4年度調査との比較】



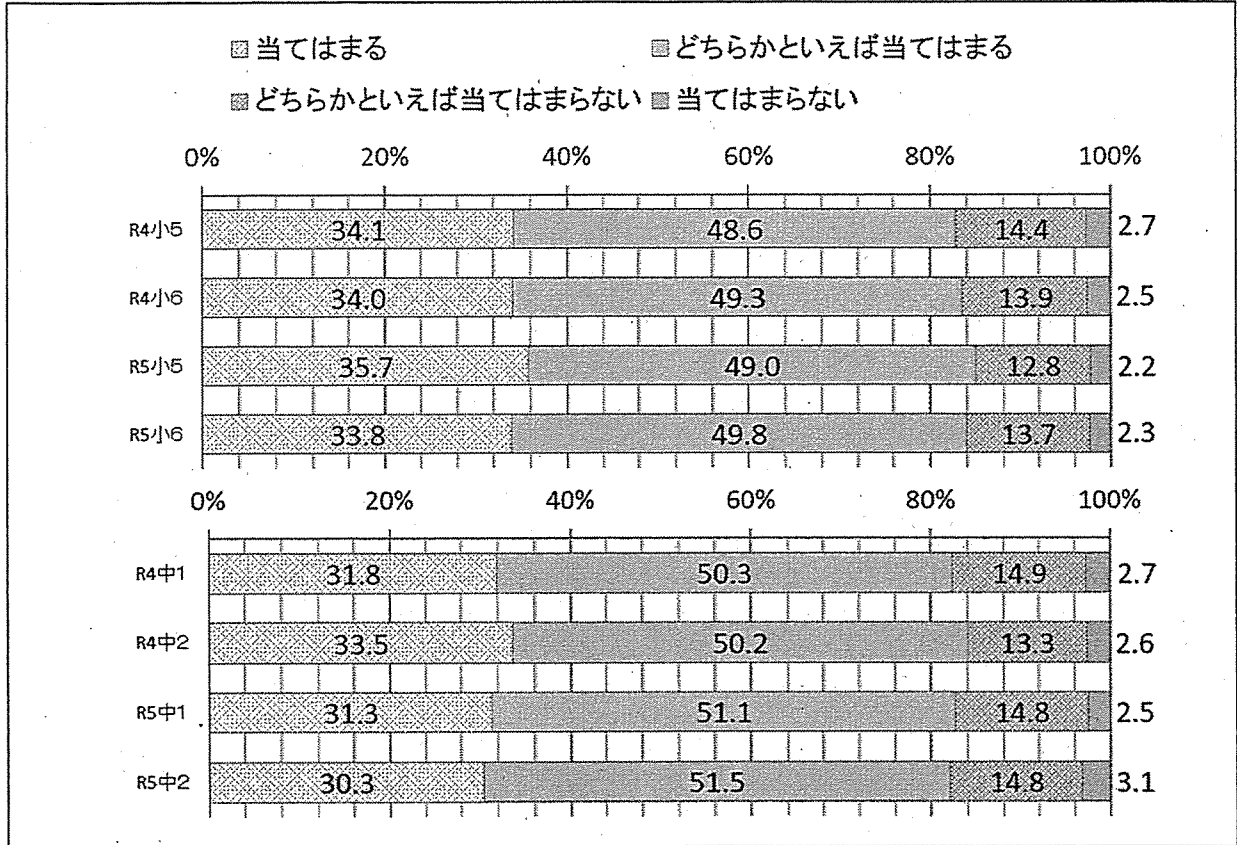
【同一の児童生徒集団で比較】



【質問2】授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思う。

- 「当てはまる」と回答した割合を、学年ごとに昨年度と比較すると、小学校5年生以外の学年で減少している。

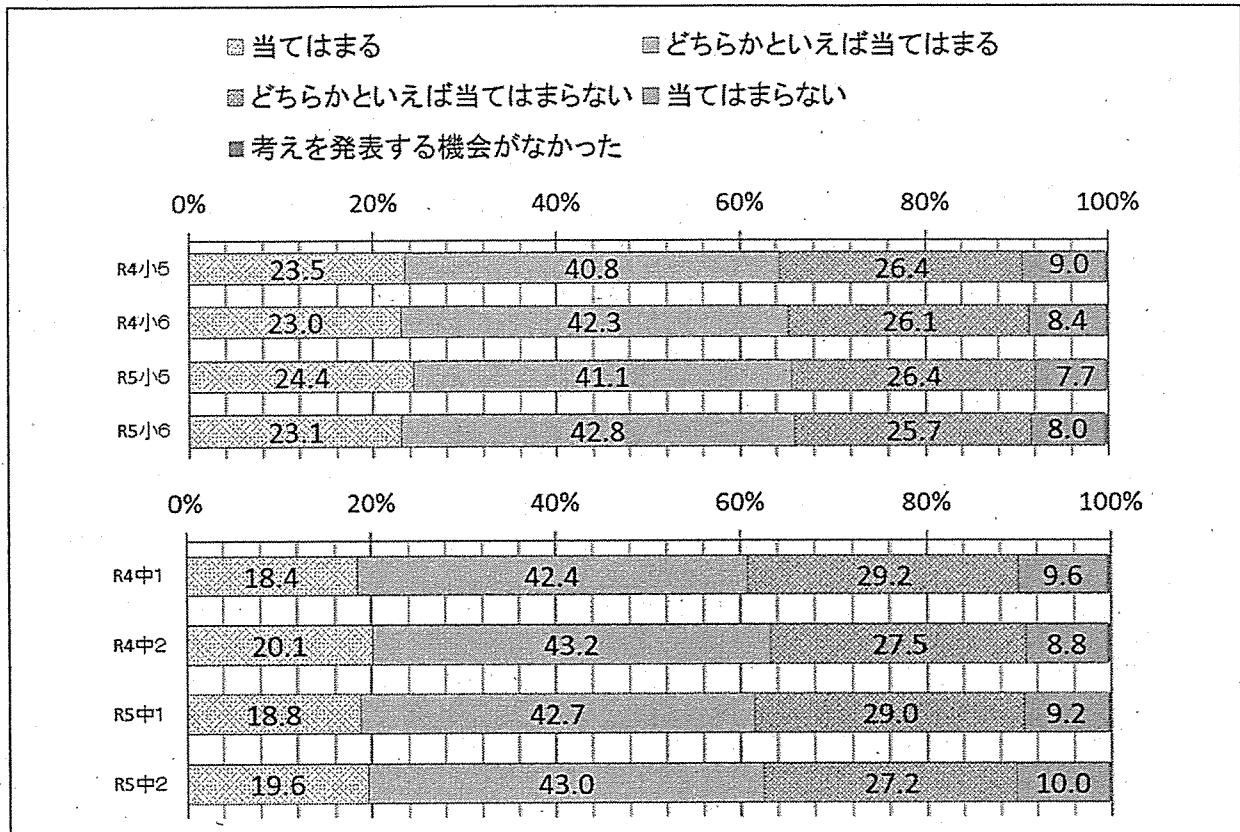
【令和4年度調査との比較】



【質問3】授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していると思う。

○ 肯定的な回答の割合を、学年ごとに昨年度と比較すると、小学校は増加している。

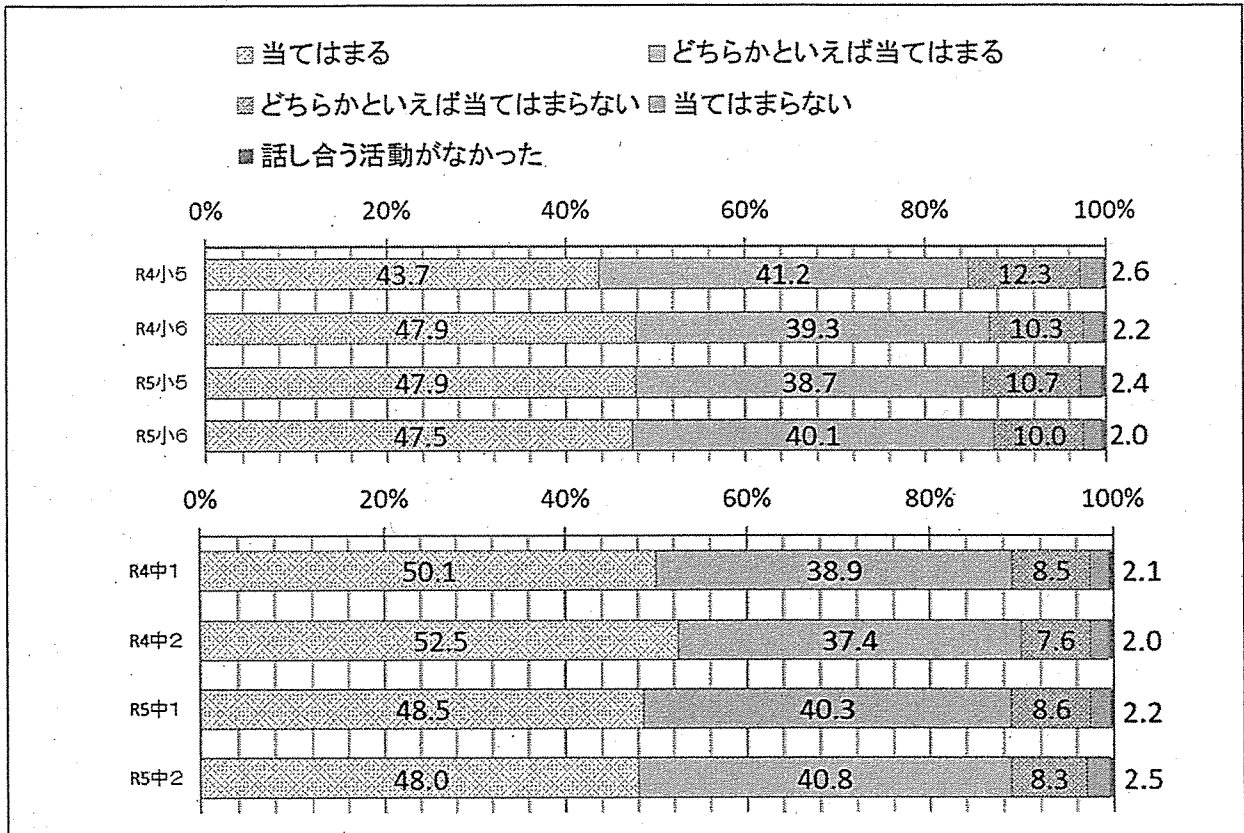
【令和4年度調査との比較】



【質問4】学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。

△ 肯定的な回答の割合を、学年ごとに昨年度と比較すると、小学校5年生は増加しているが、その他の学年は減少している。

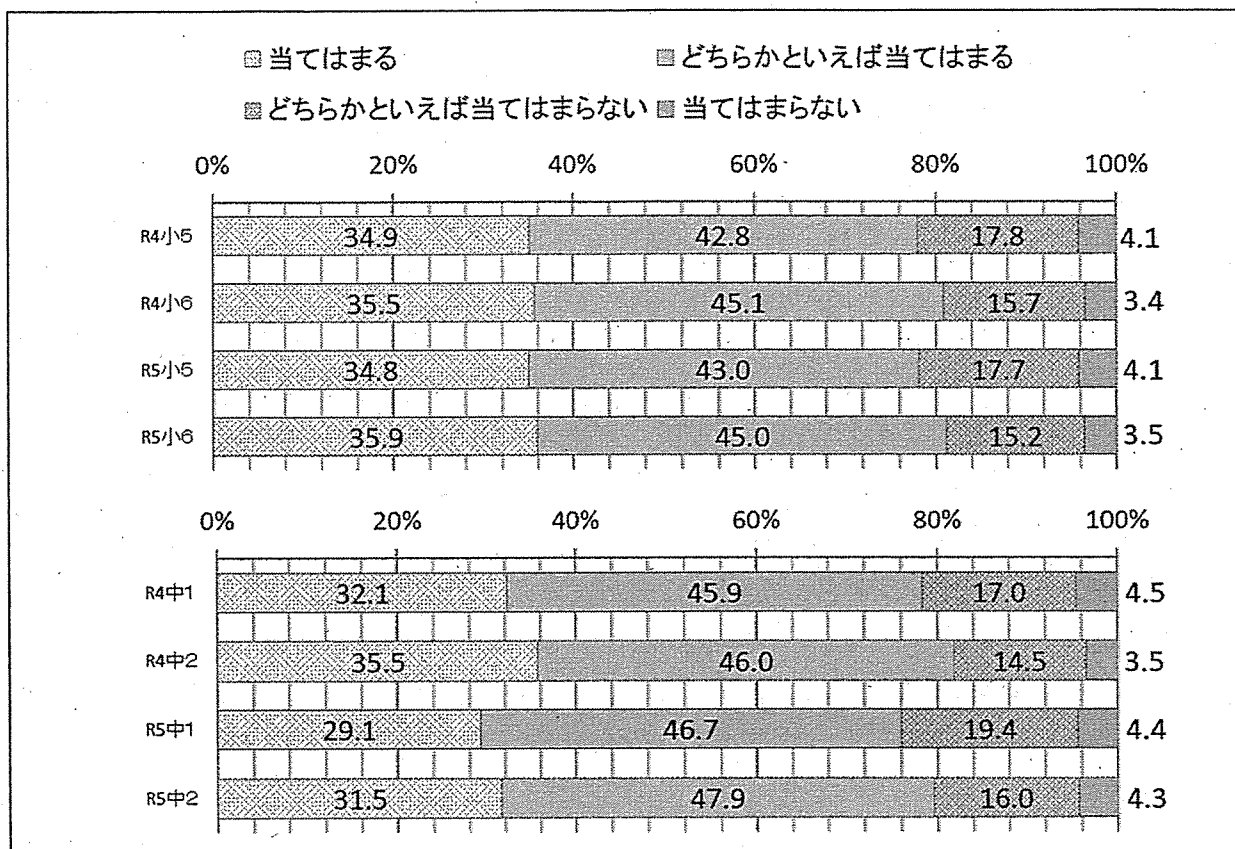
【令和4年度調査との比較】



【質問5】総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。

△ 肯定的な回答の割合を、学年ごとに昨年度と比較すると、小学校では増加しているが、中学校では減少している。

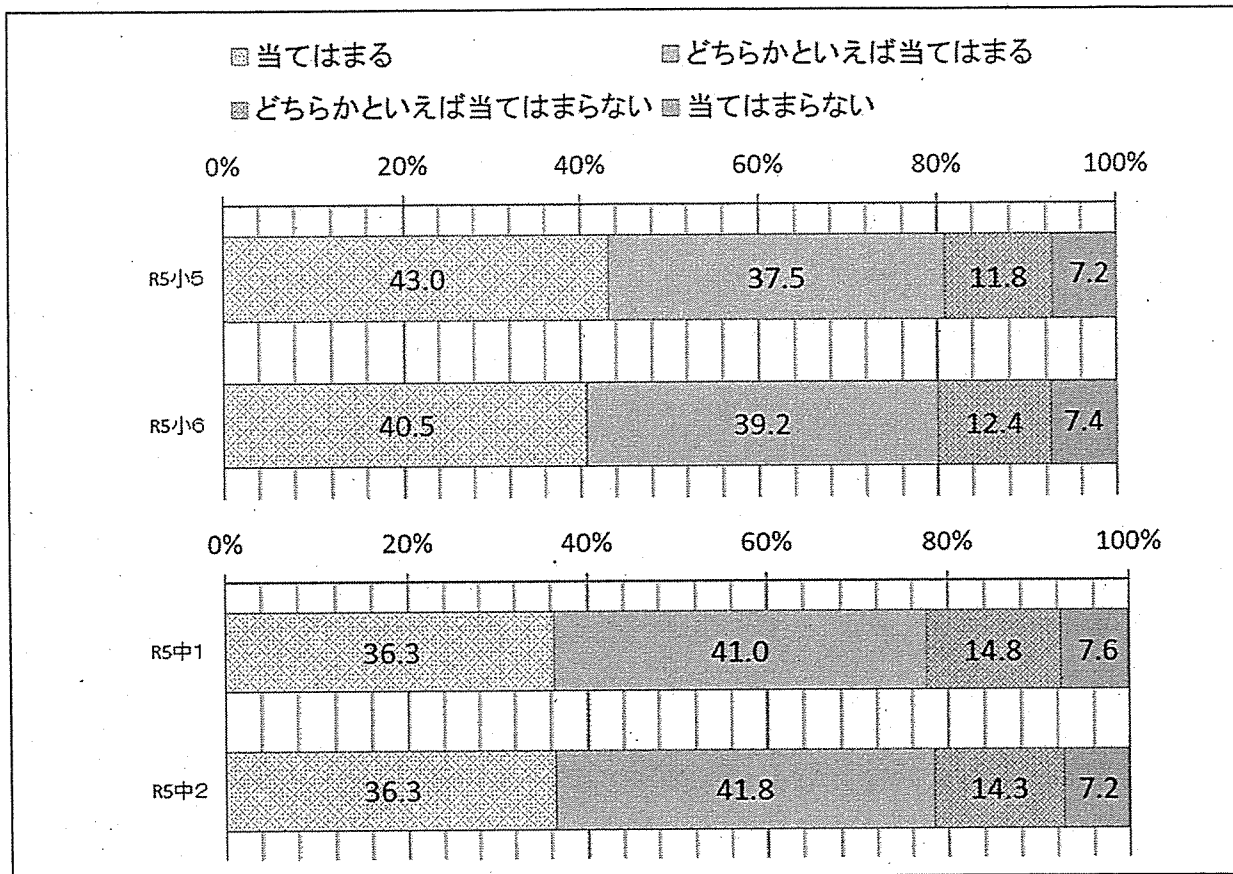
【令和4年度調査との比較】



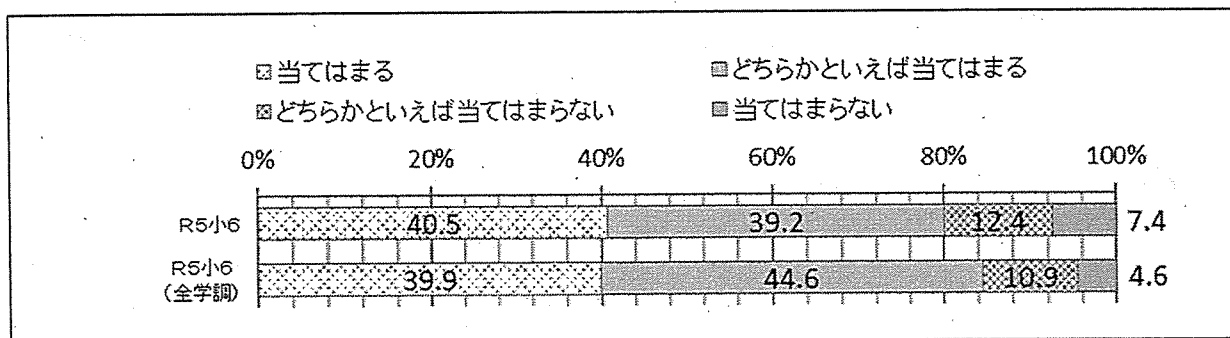
【質問6】自分には、よいところがあると思う。

● 肯定的な回答の割合を、小学校6年生の令和5年度全国学力学習状況調査と比較すると、減少している。

【今年度調査の結果】



【令和5年度全国学力学習状況調査との比較】



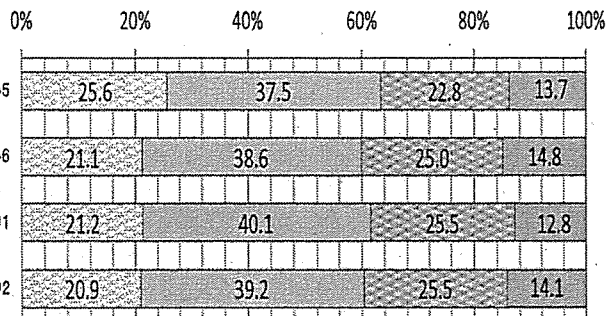
【質問7～11】各教科の勉強が好きだ。

- 算数・数学科、理科、英語科において、学年が上がるにつれ、肯定的な回答の割合が減少している。
- 社会科においては、「当てはまる」と回答した小学校6年生の割合が高い。

【今年度調査の結果】

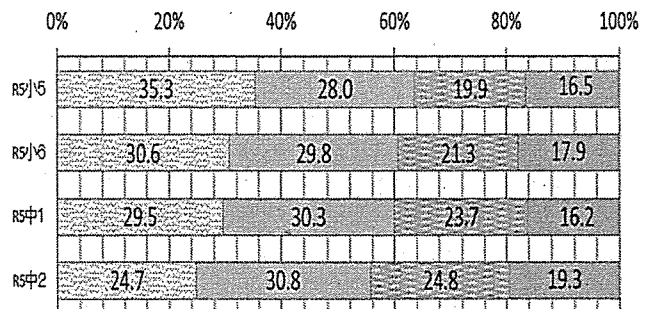
国語科

- 当てはまる
- どちらかといえば当てはまる
- どちらかといえば当てはまらない
- 当てはまらない



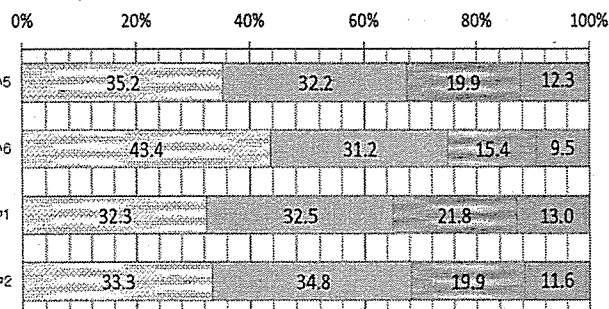
算数・数学科

- 当てはまる
- どちらかといえば当てはまる
- どちらかといえば当てはまらない
- 当てはまらない



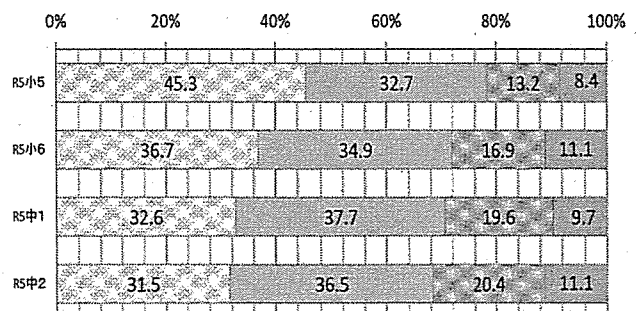
社会科

- 当てはまる
- どちらかといえば当てはまる
- どちらかといえば当てはまらない
- 当てはまらない



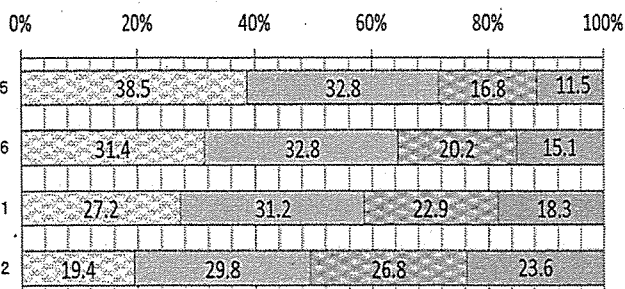
理科

- 当てはまる
- どちらかといえば当てはまる
- どちらかといえば当てはまらない
- 当てはまらない



英語科

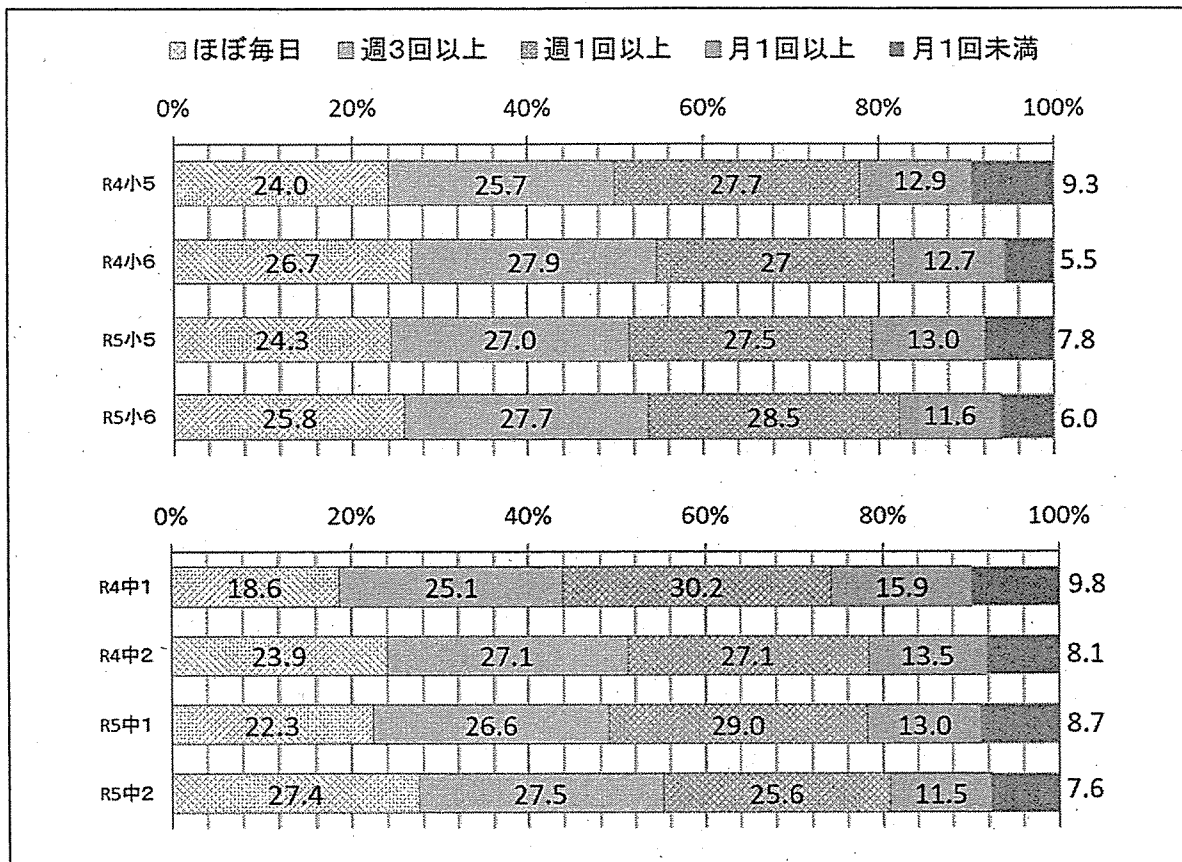
- 当てはまる
- どちらかといえば当てはまる
- どちらかといえば当てはまらない
- 当てはまらない



【質問12】あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、学級の友達と意見を交換する場面で、どの程度使用していますか。

- 「週1回以上」と回答した割合は、全ての学年で70%を上回っている。
- △ 「ほぼ毎日」と回答した割合は、学年ごとに昨年度と比較すると、小学校6年生以外は増加している。

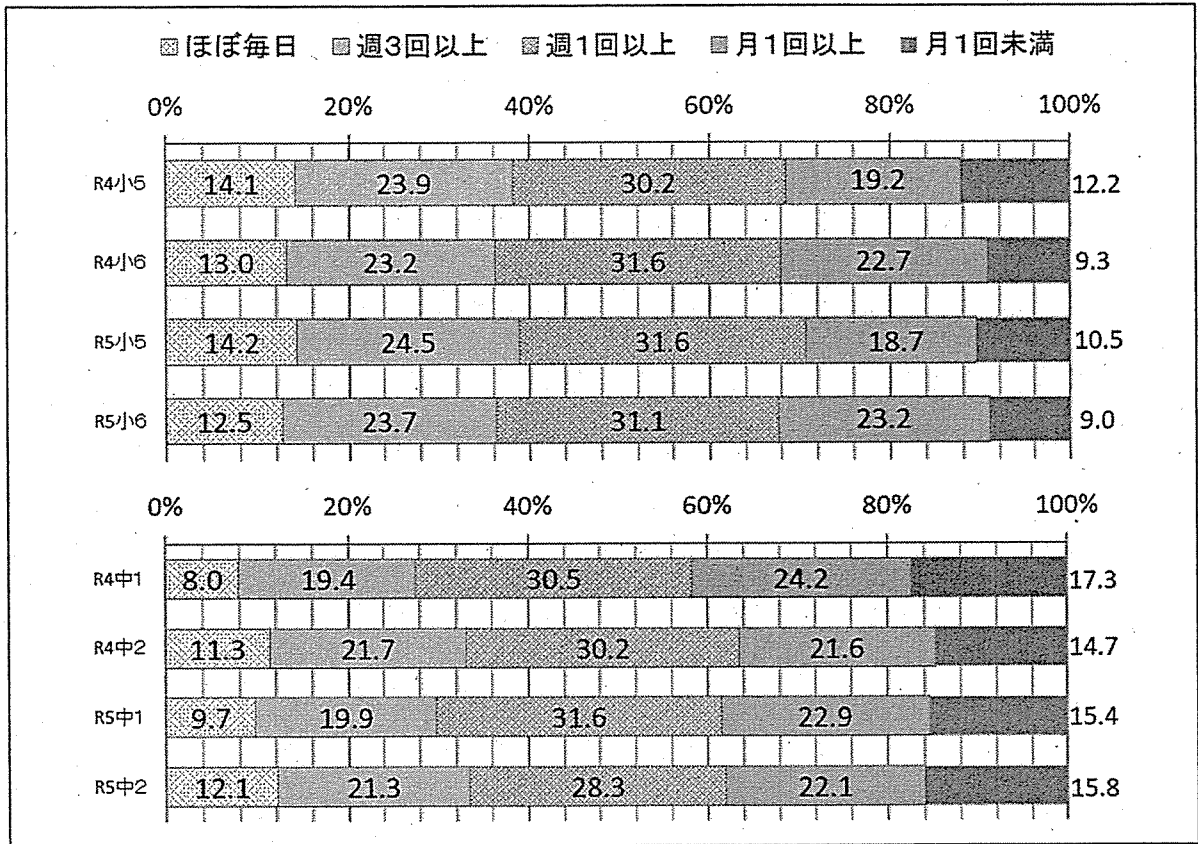
【令和4年度調査との比較】



【質問13】あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、自分の考えをまとめ、発表する場面で、どの程度使用していますか

- 「週1回以上」と回答した割合は、全ての学年で60%を上回っている。
- △ 「ほぼ毎日」と回答した割合を、学年ごとに昨年度と比較すると、小学校6年生以外は、増加している。

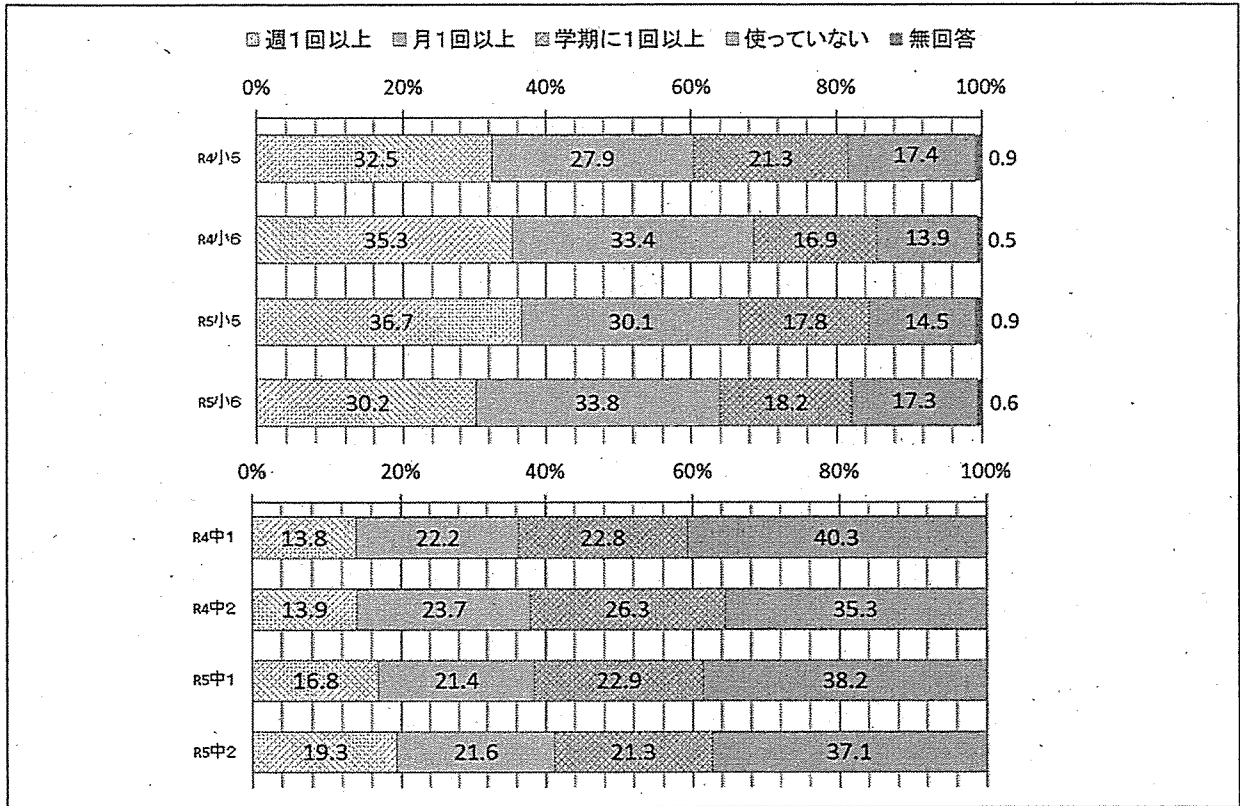
【令和4年度調査との比較】



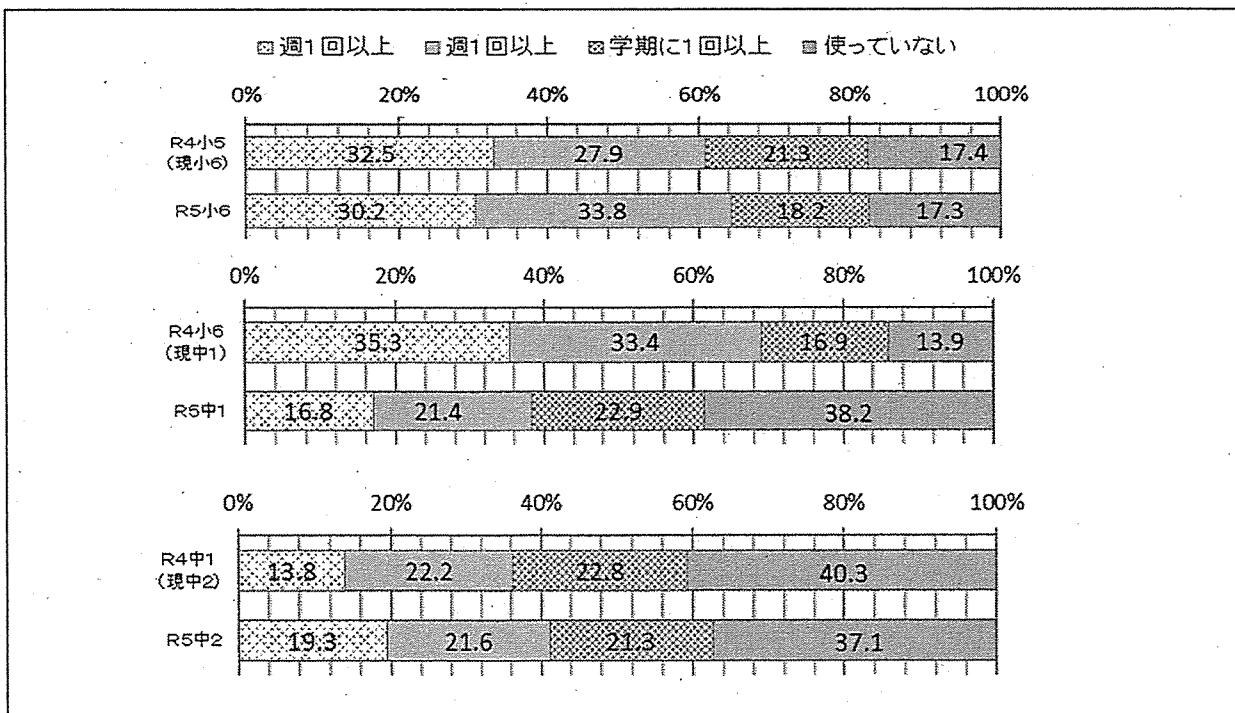
【質問14】 やまぐちっ子学習プリントなどのやまぐち学習支援プログラムを、どの程度使用していますか。

- △ 「週1回以上」と回答した割合は、学年ごとに昨年度と比較すると、小学校6年生以外の学年で増加している。
- 同一の児童生徒集団で比較したとき、小学校から中学校への変わり目で肯定的な回答の割合が大きく減少している。

【令和4年度調査との比較】



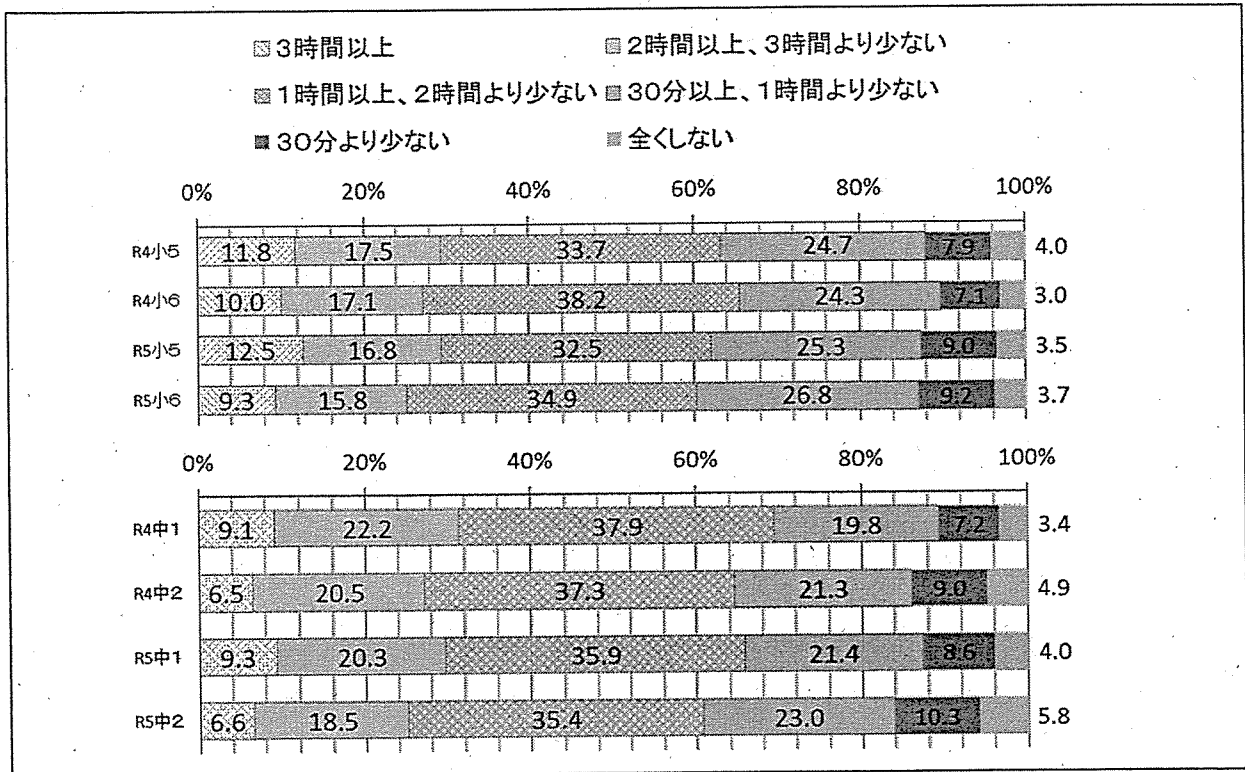
【同一の児童生徒集団で比較】



【質問15】学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます。）

- 「30分以上」と回答した割合を、学年ごとに昨年度と比較すると、全学年で減少している。

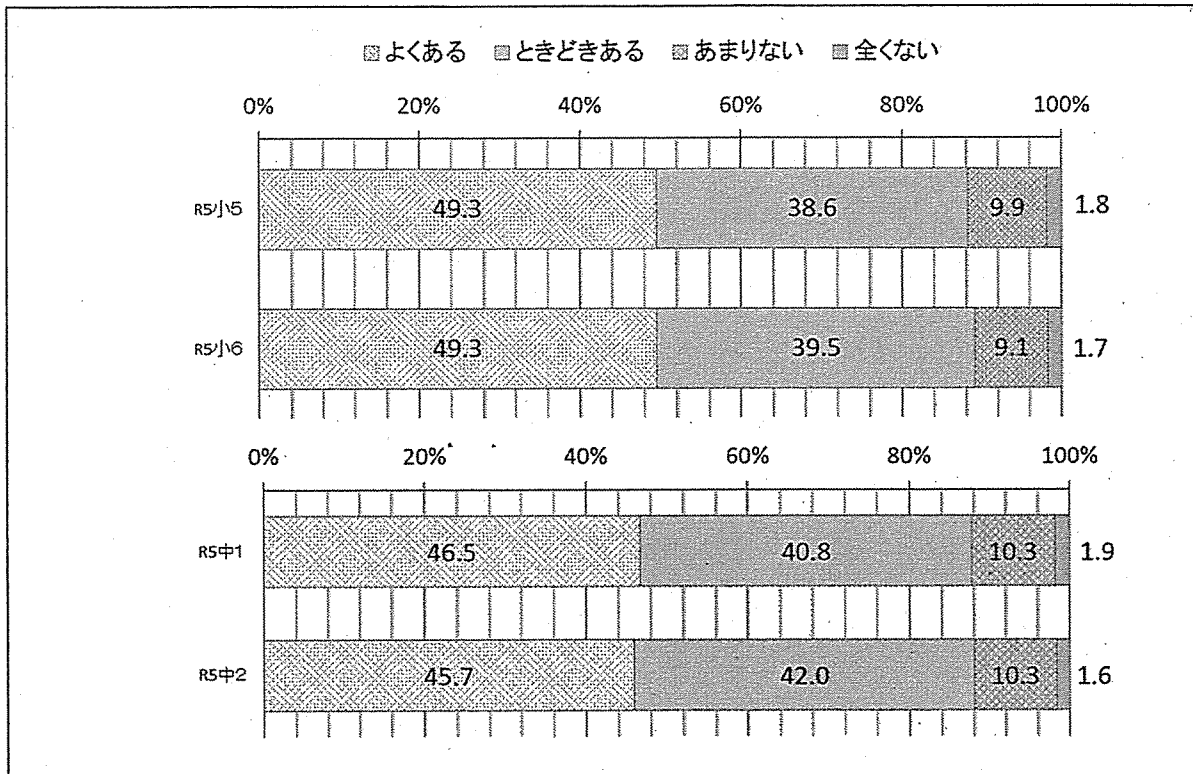
【令和4年度調査との比較】



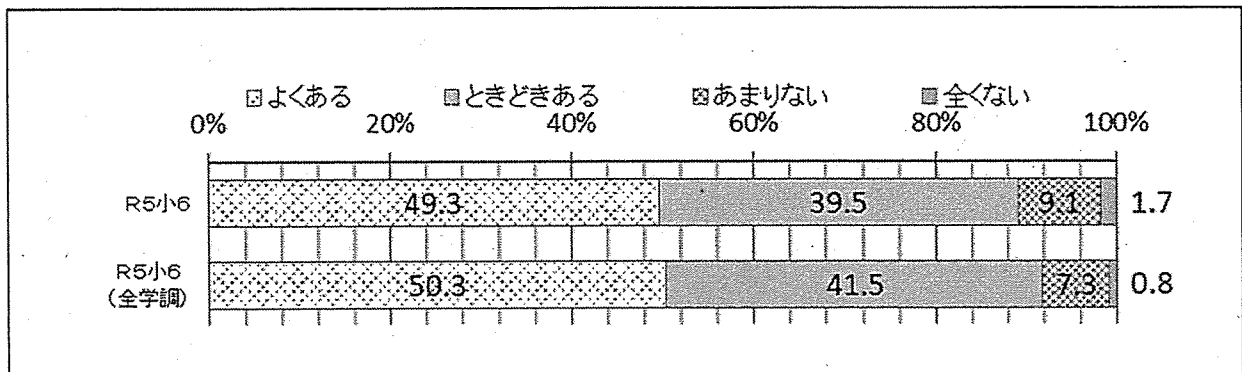
【質問16】 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。

△ 肯定的な回答をした割合は、小学校も中学校もほとんど変わらない。

【今年度調査の結果】



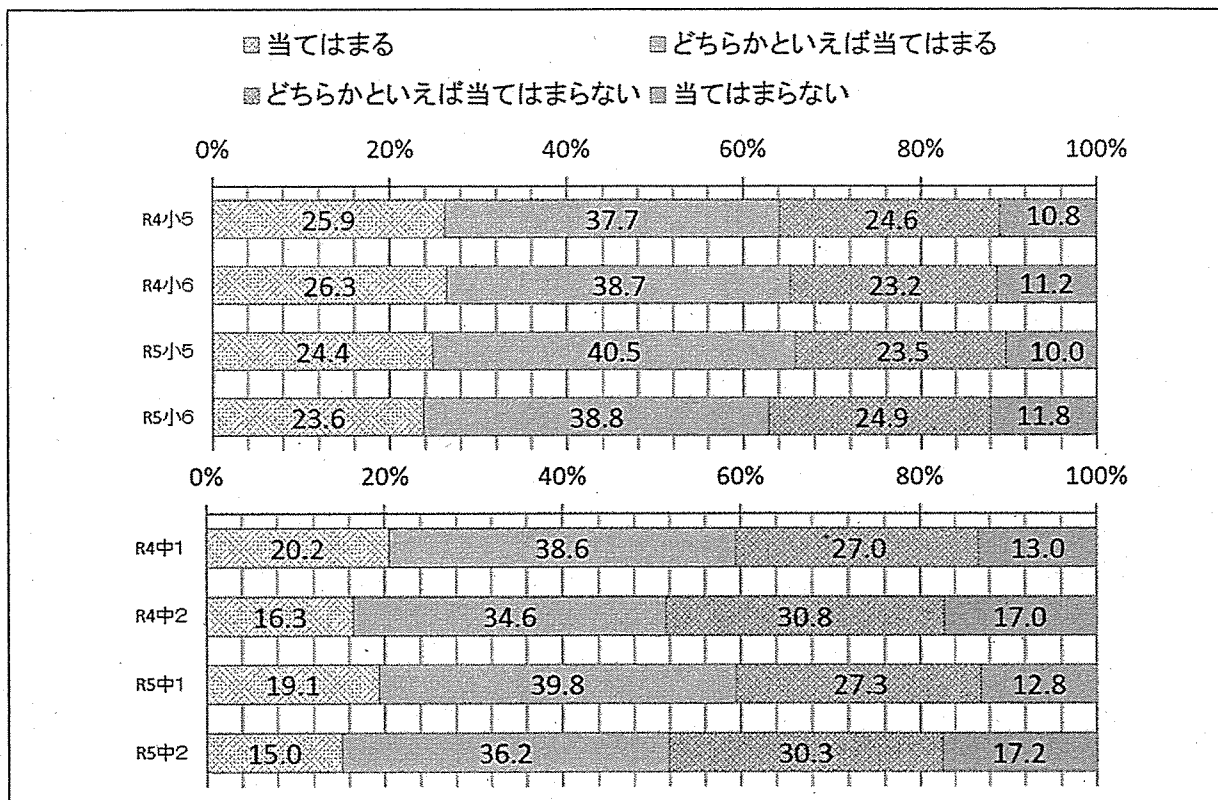
【令和5年度全国学力学習状況調査との比較】



【質問17】家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含みます)。

- 「当てはまる」と回答した割合を、学年ごとに昨年度と比較すると、全学年で減少している。

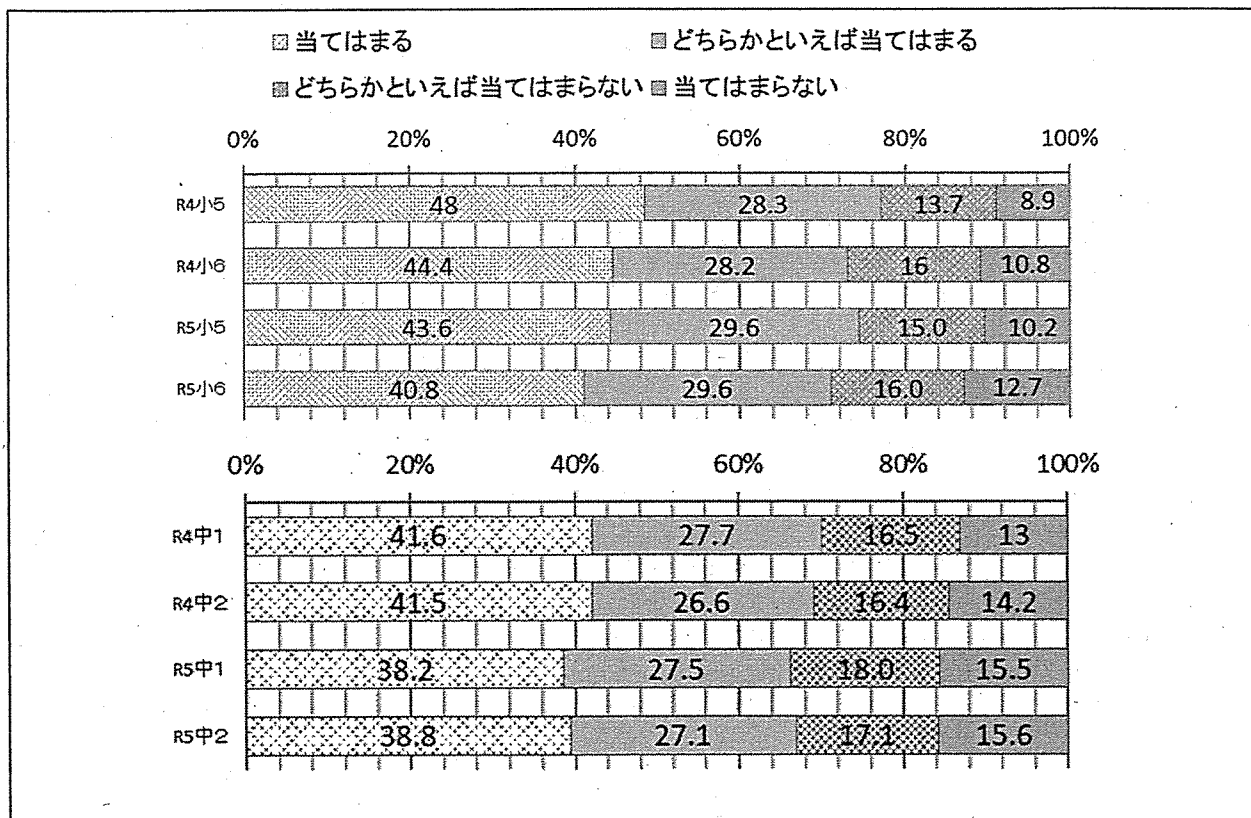
【今年度調査の結果】



【質問18】読書は好きですか。

- 肯定的な回答の割合を、学年ごとに昨年度と比較すると、全ての学年で減少している。

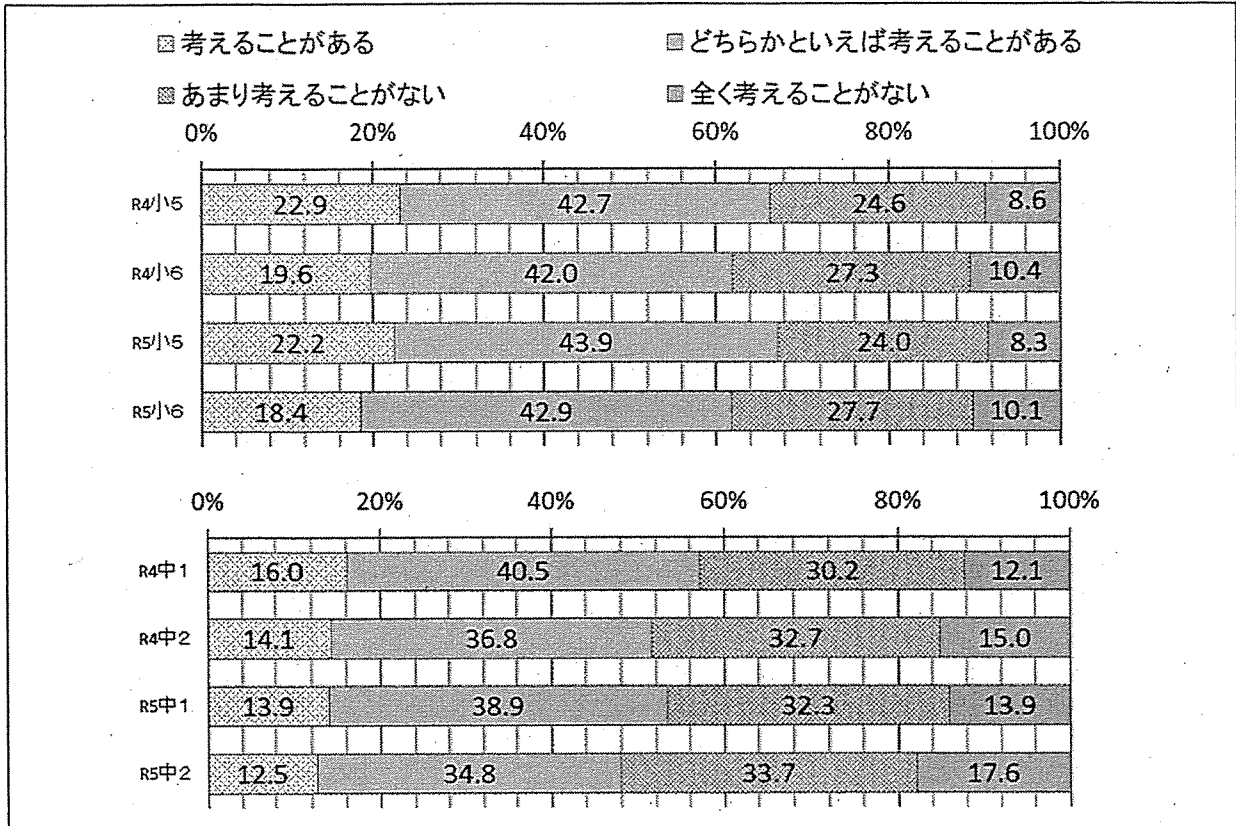
【令和4年度調査との比較】



【質問19】 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。

△ 肯定的な回答の割合を、学年ごとに昨年度と比較すると、小学校では増加しているが、中学校では減少している。

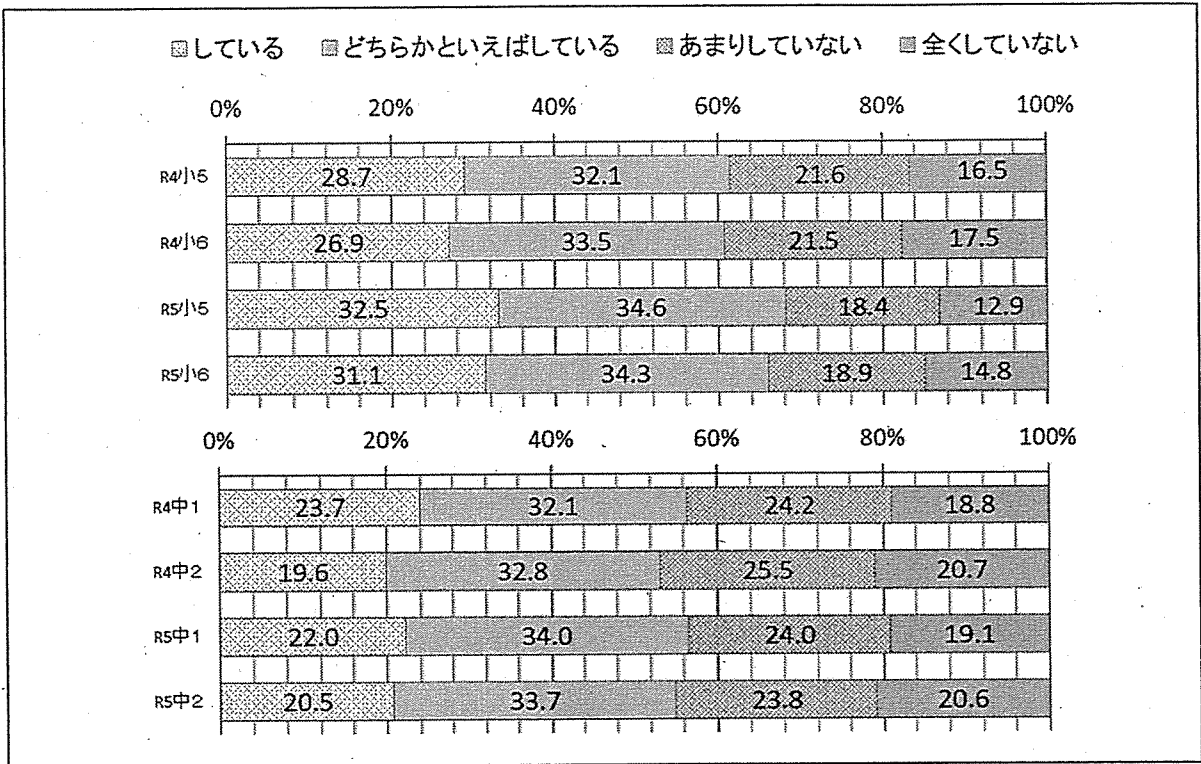
【令和4年度調査との比較】



【質問20】今住んでいる地域の行事に参加していますか。

○ 肯定的な回答をした割合は、学年ごとに昨年度と比較すると、全ての学年で増加している。

【今年度調査の結果】

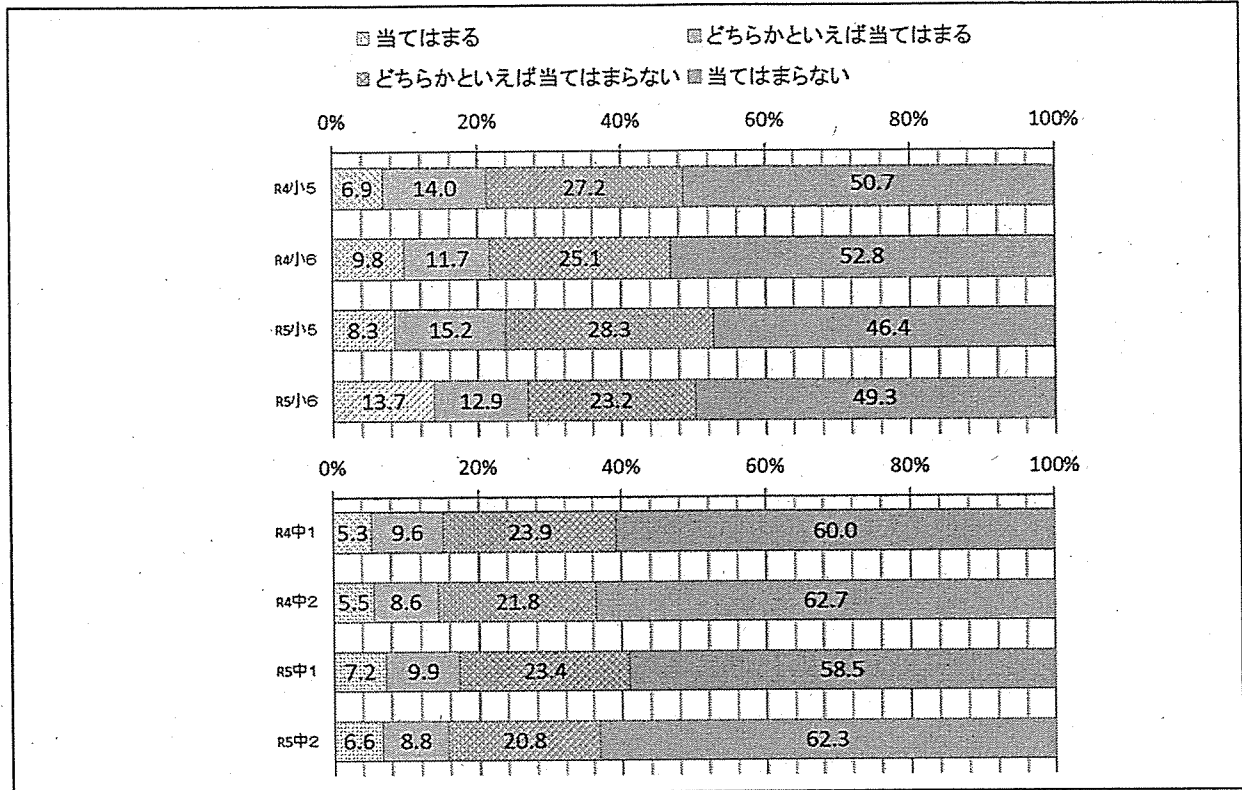


【質問21】 地域の人々と話し合う場（熟議）に参加して、発言したことがありますか。

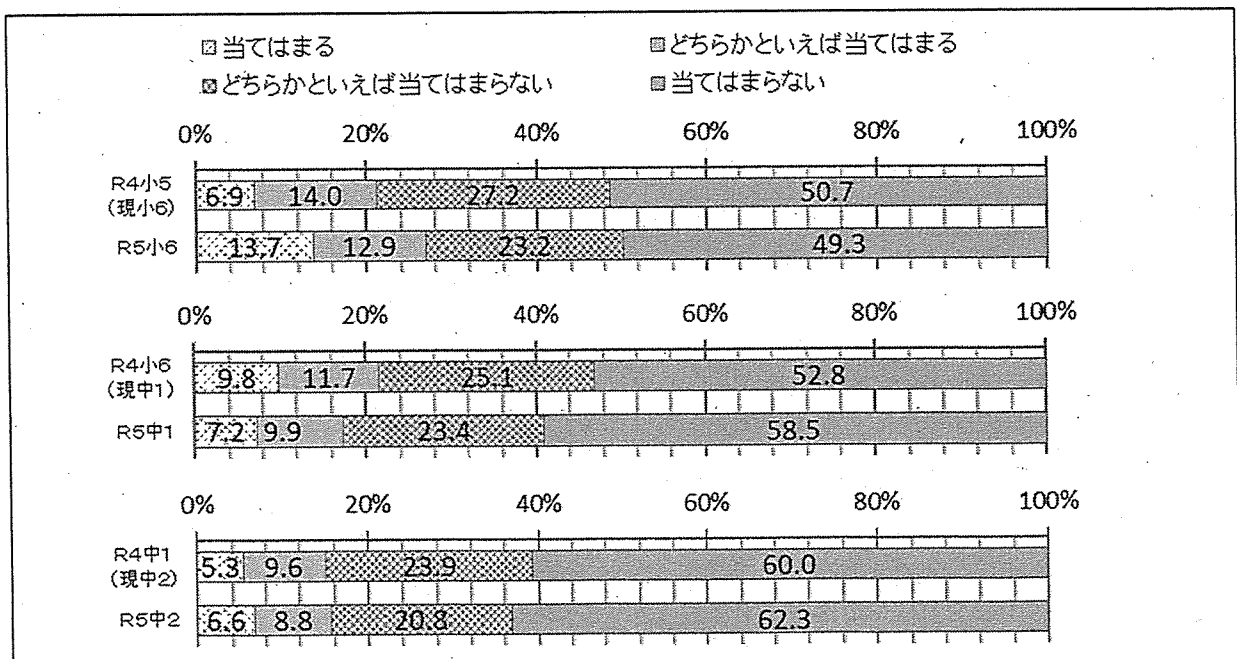
○ 肯定的な回答の割合を、学年ごとに昨年度と比較すると、全ての学年で増加している。

△ 「当てはまる」と回答した割合を、同一の児童生徒集団で比較すると、小学校6年生と中学校2年生において増加している。

【令和4年度調査との比較】



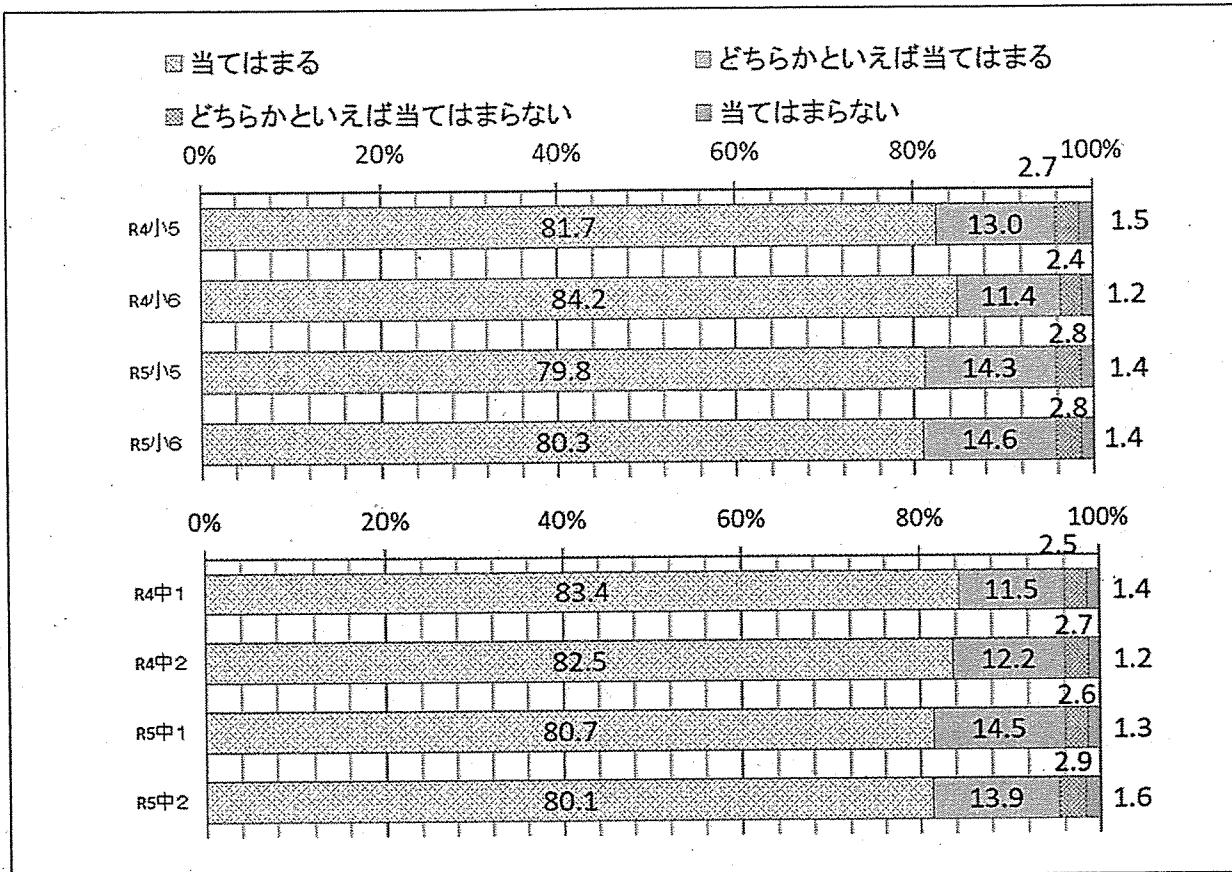
【同一の児童生徒集団で比較】



【質問22】 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

● 「当てはまる」と回答した割合を、学年ごとに一昨年度と比較すると、全ての学年で減少している。

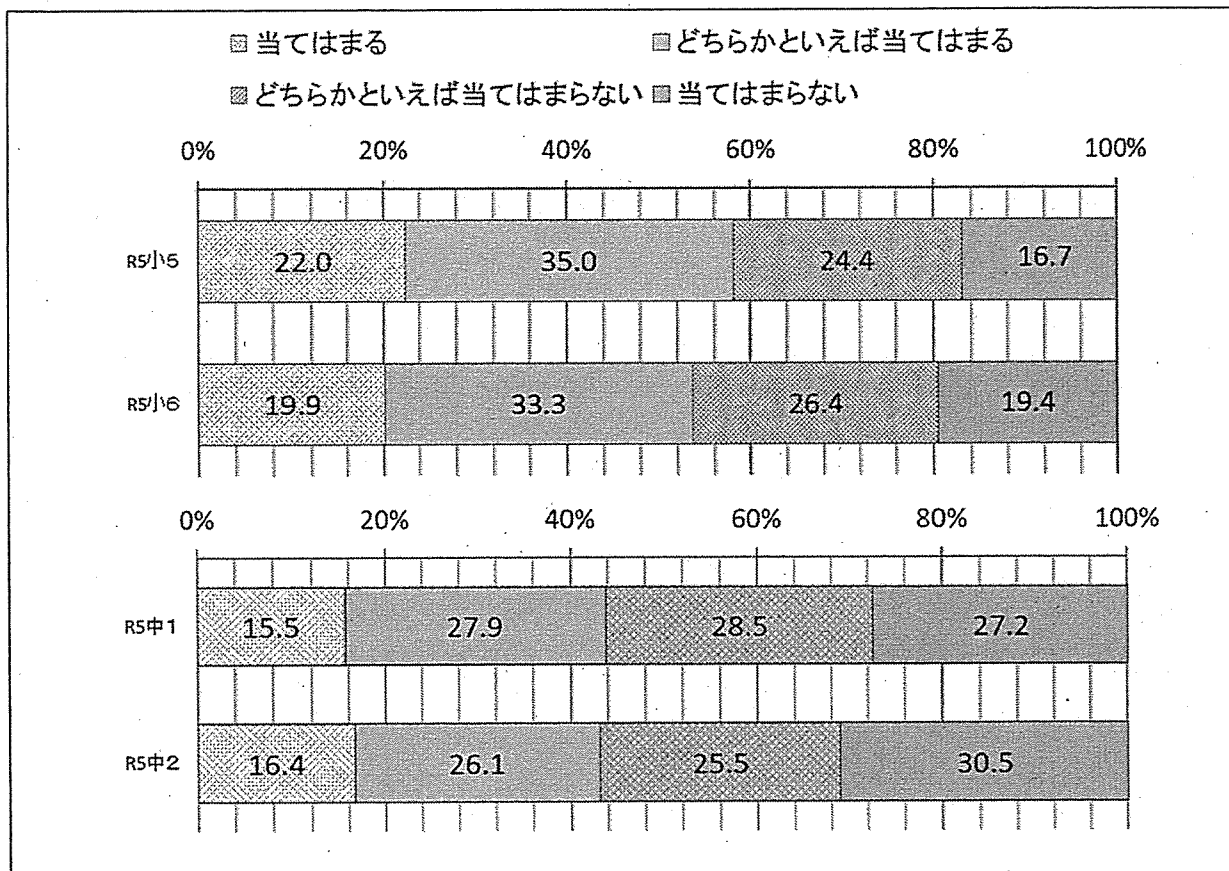
【令和4年度調査との比較】



【質問23】あなたの学校では、保護者や地域の人々が参加して新体力テストを行うなど、家庭と地域が一緒になって体力向上の取組を進めていますか。

△ 肯定的な回答の割合が、小学校においては50%を超えているが、中学校では超えていない。

【今年度調査の結果】



Ⅳ 学力向上に向けた今後の取組

県教委、各市町教委、各学校が連携して、以下の二つに取り組む。

なお、取組を推進する際には、「取組の意義や目的を確認しながら推進する」「取組の進捗状況を確認する」ことを重視する。

- ◆ 「やまぐち型地域連携教育」による家庭や地域との連携・協働を基盤とし、「学校の組織力の充実」「教員の授業力の向上」「学校・家庭・地域の連携力の強化」の三つの視点からの取組を推進するとともに、検証改善委員会からの客観的評価を受け、検証改善サイクルに取り組む。
- ◆ 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の更なる充実を図り、児童生徒一人ひとりの確かな学力の定着と向上を図る。

※今回の調査結果を踏まえ、特に重点的に取り組む内容のみ記載

学校の組織力の充実

◆課題を課題のままにしない組織的な指導体制づくり

- CBTの活用によるスピード感をもった誤答分析を基にした学力課題の焦点化
- 焦点化された学力課題の解決に向けた学び直しのお場づくりの促進
 - ・各教科等の課題を焦点化した「やまぐちっ子学習プリントDASH」の活用促進
 - ・「やまぐち学習支援プログラム」基本プリントの解説提供による個別指導の充実促進
 - ・「やまぐち学習支援プログラム活用推進研修会」における好事例（組織的な取組、個に応じた指導など）の展開による各校の取組の促進 など

教員の授業力の向上

◆「振り返り」に注目し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善

- 児童生徒自身が、自らの学習活動を振り返って、次の学習にいかそうとする場面（振り返り）を重視した授業改善の推進
- 「授業づくりと学習評価の手引き」をもとにした「授業づくりガイド」の活用促進
- 県及び市町教委による出前授業等を手がかりとした授業モデルの構築 など

学校・家庭・地域の連携力の強化

◆コミュニティ・スクールを核とした学校・家庭・地域の連携による「学力向上」の促進

- 多くの大人が児童生徒の学びを価値付け、学習意欲の向上をめざす日常的なユニット型研修や、児童生徒が参加する学力熟議の推進
- 「学校・地域連携カリキュラム」に基づき、学校の学びと地域や社会をつなげ、学びの意味の実感を促す教育活動の推進
- 学校・家庭・地域における学力に関する情報共有に基づく学習習慣の確立支援 など

報告事項 4

令和6年3月新規高等学校等卒業予定者の就職内定状況等について

1 令和6年3月新規高等学校等卒業予定者の求人・求職・就職内定状況

令和5年10月末日現在（山口労働局調べ）

項目	性別	合 計	男 子	女 子	対前年同期比
A 求人数	県内 ハローワーク 受理数	(6,188) 6,384			3.2%
	県内就職 希望者数	(2,061) 1,962	(1,272) 1,200	(789) 762	▲ 4.8%
B 就 職 希 望 者 数	県外就職 希望者数	(410) 413	(333) 323	(77) 90	0.7%
	合 計	(2,471) 2,375	(1,605) 1,523	(866) 852	▲ 3.9%
	C=A/B 求人倍率	(2.50) 2.69			0.19ポイント
D 就 職 内 定 者 数	県内就 職者数	(1,874) 1,764	(1,172) 1,113	(702) 651	▲ 5.9%
	県外就 職者数	(389) 393	(321) 311	(68) 82	1.0%
	合 計	(2,263) 2,157	(1,493) 1,424	(770) 733	▲ 4.7%
E=D/B 就 職 内 定 率	県内 就職	(90.9) 89.9	(92.1) 92.8	(89.0) 85.4	▲ 1.0ポイント
	県外 就職	(94.9) 95.2	(96.4) 96.3	(88.3) 91.1	0.3ポイント
	合 計	(91.6) 90.8	(93.0) 93.5	(88.9) 86.0	▲ 0.8ポイント
F 県内・県外 就職内定 比 率	県内 就職	(82.8) 81.8	(78.5) 78.2	(91.2) 88.8	▲ 1.0ポイント
	県外 就職	(17.2) 18.2	(21.5) 21.8	(8.8) 11.2	1.0ポイント

- (注) 1. ()内は昨年同期の数値である。
 2. A欄: 求人数は、山口県内のハローワークで受理した求人数である。
 3. B欄: 就職希望者数は、学校又はハローワークの紹介を希望する者の数である。
 4. C欄: 求人倍率は、Aの求人数/Bの就職希望者数(合計)である。
 5. F欄: 県内・県外就職比率は、令和5年10月末日現在における就職内定者の合計2,157人に対する県内・県外就職内定者(1,764人、393人)の比率である。

2 令和6年3月新規高等学校等卒業予定者への支援

(1) 本年度の主な取組等

- ガイダンスの充実（県内就職ガイダンス等充実事業）
 - ・ 地元企業に就職した卒業生や山口県にIターン等した若者が、山口県や県内企業の魅力などについて生徒に語りかける座談会等を各学校で実施
 - ・ 就職に向けた意識の醸成を図るためのガイダンス等を各学校で講師を招いて実施
- 県内企業就職説明会の実施
 - ・ 6月に県内4会場（下関、岩国、山口、下松）で対面方式の面談を実施
 - ・ 就職に向けた企業選択を行う前に、高校生に企業から情報を伝える機会を確保するため、1社5分程度の県内企業説明動画（121社）を学校へ配信
 - ・ 未内定者への支援として、10月に県内1会場（山口）で実施
- 1人1台タブレット端末専用のやまぐちスマートスクールポータルサイト内の「山口県の産業教育／就職支援」に、企業説明動画やU・Iターン者へのインタビュー動画、就職に向けた意識の醸成につながる資料等を掲載
- 県内就職促進統括マネージャーの県央部への継続配置
 - ・ 県内企業の情報等の集約、連携機関との窓口一元化、県内全域での広域マッチング

(2) 今後の取組

- 就職未内定者への支援（県内求人情報の提供等）
 - ・ 県内就職促進統括マネージャーを中心に県内全域の情報を共有し、教員やチーフ就職サポーター、就職サポーター、総合支援学校就職支援コーディネーターによる県内企業情報の提供・マッチング等のきめ細かな就職相談
 - ・ 山口労働局作成の未充足高卒求人リストによるマッチングの促進
- 就職サポーター等による1・2年生を対象とした早期からの個別面談の実施

3 県立特別支援学校における支援

(1) 令和6年3月新規卒業予定者の求職・就職内定状況

令和5年10月末日現在（特別支援教育推進室調べ）

	希望者数(人)	内定者数(人)	内定率(%)	前年同期比
就 職	(90) 77	(11) 14	(12.2) 18.2	+6.0ポイント
福祉施設	(136) 134	(0) 1	(0.0) 0.7	+0.7ポイント
そ の 他	(5) 8			

- ・ 「その他」とは、「進学」「就職」「福祉施設利用」に該当しない者であり、病気療養による在宅者等
- ・ ()内は昨年同期の数値

(2) 令和6年3月高等部卒業予定者への支援

ア 新たな現場実習先の開拓と現場実習の充実

- 総合支援学校就職支援コーディネーターによる実習先の開拓及び障害者雇用への理解促進
- ハローワーク等との連携強化による職域の拡大及び実習先の開拓
- 本人の希望や適性と企業のニーズとのマッチングの促進及び主体的な進路選択に向けた早期からの現場実習の充実

イ 関係機関との連携強化による就職支援

- ハローワークや障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、労働政策課、特別支援教育センター等との連携強化
- 関係機関との個別の進路相談やケース会議を通じた現在の状況把握、就職支援情報や福祉サービス事業所の利用等に関する情報提供を行うなどの支援継続

教職員人材育成基本方針の改定について

1 教職員人材育成基本方針とは

キャリアステージ（教職経験）ごとに求められる教員の資質能力を示すとともに、本県教育を担う人材の育成に向けた取組の方針を示したものの。

2 改定の理由

「教職員人材育成基本方針」は、その策定から10年以上が経過し、この間、時代や教育を取り巻く状況が大きく変化した。

こうした中、国においては、新たに、中教審答申『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（令和4年12月19日）等で教職員に求められる資質能力が示されている。

このため、本年度策定した「山口県教育振興基本計画」や昨年度改定した「山口県教員育成指標」との整合を図りながら、本方針を改定する。

3 内容（改定案（別紙）参照）

- (1) 改定の趣旨等（3、4 p）
- (2) 「山口県が求める教師像」から「山口県が求める教職員像」へ（5、6 p）
- (3) 「キャリアステージごとの役割と求められる資質能力」から「キャリアステージと求められる資質能力・姿」への変更（7、8 p）
- (4) 「人材育成の基本方針」の変更（9、10 p）
- (5) ポンチ絵の変更（9、10 p）
- (6) 「基本方針」の主な取組の変更（11～14 p）
- (7) 「IVキャリアステージごとの人材育成に関する取組の活用」の変更（15～18 p）

4 スケジュール

年 月	次期山口県教育振興基本計画 (令和5年度～令和10年度)	教職員人材育成基本方針 (令和6年度～)
令和5年 4月～6月	素案作成	素案検討
7月～9月	素案審議 パブリック・コメント (7月上旬～8月下旬)	素案作成 ・WG(9月) ・外部有識者等へヒアリング(策定時関係者)
10月	最終案審議 策定・公表	・研修総合企画会議兼WG(10月10日) ・山口経済同友会との協議(10月12日)
11月		素案審議 ・第2回教員養成等検討協議会(11月14日) ・外部有識者等へヒアリング (11月9日豆子郎、11月15日山口銀行) ・教育長レク(11月21日) ・11月定例教育委員会会議後、素案手交
12月		・校長会、市町教育委員会への意見照会 ・12月定例教育委員会会議にて協議
令和6年 1月～2月		最終案検討 ・WG ・第3回教員養成等検討協議会(1～2月)
3月		・文教警察委員会報告 ・3月定例教育委員会会議 策定・公表

協議事項 2

令和7年度山口県公立高等学校の学科設置について

1 概要

「県立高校再編整備計画 前期実施計画」において、進学に重点を置く取組を推進するために新たに設置することとしている「特進探究科（仮称）」の名称について、正式に「文理探究科」とし、学科の概要については、以下のとおりとします。

2 学科設置の内容について

対象校	岩国高等学校、徳山高等学校、山口高等学校
実施年度	令和7年度
内容	新たに文系分野の学科を設置し、理系学科と併せて、総称を「文理探究科」とする。

高校名	普通科	文系学科	理系学科
岩国	普通科	人文探究科	理数探究科
徳山	普通科	文科	理数科
山口	普通科	文科	理数科
宇部	普通科	人文社会科学科	自然科学科
下関西	普通科	人文社会科学科	自然科学科
萩	普通科	人文社会科学科	自然科学科

高校名	普通科	文系学科	理系学科
岩国	普通科		理数科
徳山	普通科		理数科
山口	普通科		理数科
宇部	普通科	人文社会科学科	自然科学科
下関西	普通科	人文社会科学科	自然科学科
萩	普通科	人文社会科学科	自然科学科

文理探究科

探究科

- ※ 岩国高等学校の「理数科」は、「理数探究科」に名称を変更
- ※ 宇部高等学校、下関西高等学校、萩高等学校の「探究科」は「文理探究科」に名称を変更
- ※ 6校（岩国、徳山、山口、宇部、下関西、萩）とも、以下のコンセプトのもと、特色ある教育活動を通じて進学に重点を置く取組を推進

3 文理探究科について

(1) 文理探究科のコンセプト

探究的・発展的・先進的な学習活動を軸とした特色ある教育活動を展開する中で、大学での高度な学習につながる高い学力に加えて、急激に変化する社会の中でも未来を切り拓く次代のリーダーとして求められる力を育成する。

【特色ある教育活動】

- 探究的な学習：自ら見つけた課題の解決に向けて他者と協働して取り組む学習
- 発展的な学習：文系・理系分野の専門教科・科目等を通じた高いレベルの学習
- 先進的な学習：大学・専門機関等と連携した学習

【育成する力】

- [自己実現力] 選抜性の高い大学への進学を実現するとともに、高いレベルで自己を磨き続けられる学力
- [考察力] 高いレベルの知識・技能や思考力・判断力・表現力を生かして、課題を発見・分析・解決する力
- [共創力] 豊かな心を持ち、多様な他者と協働して新たな価値を創造する力
- [挑戦力] 高い志と広い視野を持ち、困難を乗り越えながら行動し続ける力

(2) 概念図

